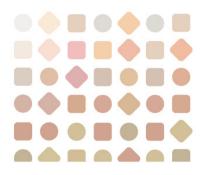


デスクトップクライアントユーザーガイド

Portfolio[™]



コピーライト

c 2010 Extensis, a division of Celartem, Inc.

本書ならびに本書に記載されているソフトウェアは著作権保護の対象であり、無断複写・複製・転載が禁止されています。本書または本書に記載されているソフトウェアの全部または一部を、Extensisの書面による承諾なしに複製することはできません。ただし、ソフトウェアの通常の利用やソフトウェアのバックアップ作成は除きます。この例外であっても他者に対する複製は許可されません。登録済みおよび申請中の米国特許に基づいてライセンス化されています。

ExtensisはExtensis社の登録商標です。Extensisのロゴ、Extensis Library、Font Reserve、Font Reserve Server、Font Vault、Font Sense、Portfolio、Portfolio Server、Suitcase、Suitcase Server、Universal Type、Universal Type Client、Universal Type CoreはExtensis社の商標です。Portfolio NetPublish、NetPublish、Universal Type Server、Type

ServerはExtensis社の登録商標です。Celartem、Celartem, Inc.、CelartemのロゴはCelartem, Inc.の商標です。Ado be、Acrobat、Illustrator、Photoshop、PostScriptはAdobe Systems,

Incorporatedの商標です。Apple、AppleScript、Bonjour、Macintosh、Mac OS X、PowerPCはApple Computer, Inc.の登録商標です。Microsoft、Internet Explorer、Windows、Windows Vista、Windows XP、Windows 2000、SQL ServerはMicrosoft Corporationの登録商標です。IntelはIntelの登録商標です。OracleはOracle Corporationの登録商標です。Java、Java Poweredのロゴ、MySQL は、米国およびその他の国におけるSun Microsystems,

Inc.の商標および登録商標であり、ライセンス契約により使用されています。QuarkおよびQuarkXPressは、Quark Inc.の商標です。その他のすべての商標は、それぞれの会社が所有しています。

オンデマンド画像および映像の転送と処理はMediaRich®プラットフォームによって強化されています。MediaRichtautomated Media Processing Solutions, Inc.、dba Equilibriumの登録商標です。Copyright c 2004-2009. All Rights Reserved. 米国特許番号6,792,575、6,964,009、その他の特許は申請中。

Extensis社は、製品の購入日より30日間、通常の使用状況において、ソフトウェアが記録されているディスクに材質上および製造上の欠陥が無いことを保証します。製品をExtensis社から直接購入し、30日以内に障害が発生した場合、ディスクをExtensis社に返送いただければ交換いたします。交換用に送付されたすべての製品は、交換の前にExtensis社で登録する必要があります。販売店から購入したExtensis製品は販売店によって保証され、販売店の返品規定の対象となります。この保証は交換に限定され、その他の損害を含みません。その他の損害には、利益の損失、特殊な要求、付随的な要求、その他の同様の要求などがありますが、これらに限定されるものではありません。本ソフトウェアは、「現状のまま」提供されます。上記の明示的な保証を除き、Extensis社は、同梱のソフトウェアの品質、性能、商品性、または特定目的の適合性に関して、明示的または暗黙的を問わず他のいかなる保証もいたしません。



目次

コピーライト	2
目次	3
Extensis Portfolioにようこそ	7
このリリースの新機能	8
はじめに	9
Portfolio デスクトップクライアントシステム要件	9
Portfolio デスクトップクライアントのインストール	10
Portfolioのユーザーインターフェイス	10
カタログ	13
サーバーから提供されるカタログを開く	13
カタログプロパティの表示	13
アクセスレベル	13
ファイルのカタログ化	15
カタログにアイテムを追加	15
カタログからアイテムを削除	16
カタログ作成オプション	17
仮レコード	20
カタログ作成の詳細オプション	21
ギャラリー	26
デフォルトのギャラリー	26
標準のギャラリー	26
ー時ギャラリー	27
スマートギャラリー	27
新しいウィンドウでギャラリーを開く(Mac のみ)	27
ギャラリーアイコンの参照	27
新しいギャラリーの作成	28
ギャラリーへのアイテムの追加	28
ー時ギャラリー	28
ギャラリーからのアイテムの削除	29
ギャラリーの並べ替え	29
ギャラリーの自動的な並べ替え	29
ギャラリーの並べ替えのカスタマイズ	30
起動時にギャラリーを開く	30
ギャラリーの削除	30
ギャラリーの名前変更	30

スマートギャラリーの作成 3。	ギャラリーのコピー	30
表示 38 ギャラリー表示のカスタマイズ 36 フィールド表示のカスタマイズ 37 サムネールオブション 38 保存した表示 37 Portfolioによるファイルの管理 44 アイテムのプレビュー 44 アイテムのプレビュー 44 オリジナルファイルの編集 4 オリジナルファイルの編集 4 コフィイルの移動、コピー、削除 44 画像のバッチ変換 46 画像のバッチ変換 47 コアイルの表を変更 44 別のファイルへ再リンク 47 カタログ化されたアイテムを他のソフトウェアヘドラッグ 44 アイテムの更新 45 ファイルを検索 47 ファイルを検索 47 ファイルを検索 56 複数のカタログを検索 56 複数のカタログを検索 56 消失ファイルの検索 56 消失ファイルの対リント 57 フィンタクトシートのブリント 57 フィルシンクトシートのブリント 57 フィルクラン 57 フィルのデークステムのブリント 57 フィルのシートシンク 57 フィルのシートシンク 57 フィルのシートシンク 57 フィルグのカートシンク 57 フィルグのシートのブリント 57 フィルトシンク 57 フィルグのシートのブリント 57 フィルのシートシンク 57 フィルグのシートのブリント 57 フィルがパレットの表示 56 新しい監視フォルダの追加 56 監視フォルダのカートシンク 58定の編集 56 監視フォルダのカートシンク 58定の編集 56	スマートギャラリーの作成	31
ギャラリー表示のカスタマイズ 36 フィールド表示のカスタマイズ 36 サムネールオプション 36 保存した表示 31 Portfolioによるファイルの管理 44 アイテムのプレビュー 46 アイテムのプロパティの表示と編集 47 オリジナルファイルの解集 44 オリジナルファイルの解集 44 カリスールの移動、コピー、削除 44 画像のパッチ変換 46 画像の回転 45 カイルのみを回転 45 ファイルを変更 44 別のファイルへ再リンク 46 カタログ化されたアイテムを他のソフトウェアヘドラッグ 45 アイテムの更新 45 アイテムの更新 46 「検索」コマンドの使用 46 パレットからの検索 56 複数のカタログを検索 56 複数のカタログを検索 56 カタログ作成のステータスによってファイルを検索 56 ガタログ作成のステータスによってファイルを検索 56 ガリント 56 エファイルのプリント 56 コファイルのプリント 56 コファイルのプリント 56 コファイルのアートのプリント 56 フィルタクトシートのプリント 56 フィルタクトシートのプリント 56 フォルダのトシートのプリント 56 フォルダバレットの表示 56 新しい監視フォルダの追加 56 監視フォルダのカートシンク 356 カフルダバレットの表示 56 新しい監視フォルダの追加 56	ギャラリーを公開または非公開に設定	31
フィールド表示のカスタマイズ 36 サムネールオブション 36 保存した表示 31 Portfolioによるファイルの管理 44 アイテムのプレビュー 44 アイテムのプレビュー 44 オリジナルファイルの編集 4 ファイルの移動 コピー、削除 44 画像のバッチ変換 44 画像のバッチ変換 44 m像の回転 45 ファイルのみを回転 45 ファイルを変更 44 別のファイルへ再リンク 44 カカログ化されたアイテムを他のソフトウェアヘドラッグ 45 アイテムの更新 45 ファイルを検索 45 「検索」コマンドの使用 46 パレットからの検索 55 複数のカタログを検索 55 複数のカタログを検索 55 横数のカタログを検索 55 ボートシンク 56 ファイルの検索 55 オーファイルの検索 55 ボーファイルの検索 55 ボートシンク 56 ファイルのプリント 55 フィルタクトシートのプリント 55 フィルタクトシートのプリント 55 フィルダのトントのプリント 55 フィンタクトシートのプリント 55 フィンタクトシートのプリント 55 フィンタクトシートのプリント 55 フィンタクトシートのプリント 55 フィンタクトシートのプリント 55 フィング・フィンクの表示 55 新しい監視フォルダの追加 56 監視フォルダのカートシンク 356 コフィングのプリント 56 コフィングのでは、56 コフィングの過加 56	表示	33
サムネールオブション 33 Portfolioによるファイルの管理 40 アイテムのプレビュー 40 アイテムのプレバティの表示と編集 44 オリジナルファイルの編集 45 画像の回転 45 画像の回転 45 サムネールのみを回転 44 ファイル名を変更 44 別のファイルへ再リンク 45 カタログ化されたアイテムを他のソフトウェアヘドラッグ 45 アイテムの更新 45 ファイルを検索 46 バレットからの検索 46 ボレットからの検索 55 複数のカタログを検索 56 カタログ作成のステータスによってファイルを検索 56 がしント 56 ガーファイルの検索 56 ボリント 56 ブリント 57 エーステントの検索 56 ブリント 57 エーステンク 56 フォルダパレットの表示 56 新しい監視フォルダのオートシンク設定の編集 56 監視フォルダのオートシンク設定の編集 56	ギャラリー表示のカスタマイズ	34
保存した表示 33 Portfolioによるファイルの管理 44 アイテムのプレビュー 46 アイテムのプロパティの表示と編集 46 オリジナルファイルの編集 44 コアイルの移動、コピー、削除 44 画像のバッチ変換 42 画像の回転 44 サムネールのみを回転 44 ファイル名を変更 44 別のファイルへ再リンク 44 カタログ化されたアイテムを他のソフトウェアへドラッグ 45 アイアムの更新 45 ファイルを検索 46 「検索」コマンドの使用 46 パレットからの検索 56 複数のカタログを検索 56 複数のカタログを検索 56 ガタログ作成のステータスによってファイルを検索 56 複数のカタログを検索 56 ガリント 56 単一ファイルのブリント 56 コードアイテムの検索 56 ゴリント 56 コートシンク 56 フォルダパレットの表示 56 フォルダパレットの表示 56 カカログドルのアイテムのプリント 56 フォルダパレットの表示 56 フォルダパレットの表示 56 カカログドルのアイテムのプリント 57 オートシンク 56 フォルダパレットの表示 56 カカログドルのアイテムのプリント 57 オートシンク 56 フォルダパレットの表示 56 新しい監視フォルダの追加 56 監視フォルダの追加 56	フィールド表示のカスタマイズ	34
Portfolioによるファイルの管理	サムネールオプション	35
アイテムのプレビュー 44 アイテムのプロパティの表示と編集 44 オリジナルファイルの編集 45 画像のバッチ変換 42 画像の回転 45 サムネールのみを回転 45 ファイル名を変更 47 別のファイルへ再リンク 44 カタログ化されたアイテムを他のソフトウェアヘドラッグ 44 アイナムの更新 44 ファイルを検案 45 「検索」コマンドの使用 46 パレットからの検索 56 複数のカタログを検索 56 カタログ作成のステータスによってファイルを検索 56 板レコードアイテムの検索 56 消失ファイルの検索 56 ゴリント 51 コンタクトシートのプリント 51 コンタクトシートのプリント 51 オートシンク 56 フォルダパレットの表示 56 新しい監視フォルダのオートシンク設定の編集 56	保存した表示	37
アイテムのプロパティの表示と編集 44 オリジナルファイルの編集 45 丁ァイルの移動、コピー、削除 46 画像の回転 46 サムネールのみを回転 46 ファイル名を変更 47 別のファイルへ再リンク 47 カタログ化されたアイテムを他のソフトウェアヘドラッグ 47 アイテムの更新 44 ファイルを検索 47 「検索」コマンドの使用 48 パレットからの検索 56 カタログ作成のステータスによってファイルを検索 56 カタログ作成のステータスによってファイルを検索 56 ボタフィルの検索 56 ガリント 57 単一ファイルの対サント 57 コンタクトシートのブリント 57 コンタクトシートのブリント 57 オートシンク 56 フォルダパレットの表示 56 新しい監視フォルダのオートシンク設定の編集 56	Portfolioによるファイルの管理	40
オリジナルファイルの編集 4 ファイルの移動、コピー、削除 4 画像の回転 4 サムネールのみを回転 4 ファイル名を変更 4 別のファイルへ再リンク 4 カタログ化されたアイテムを他のソフトウェアへドラッグ 4 アイテムの更新 4 ファイルを検索 4 ウイック検索 4 「検索」コマンドの使用 4 パレットからの検索 5 複数のカタログを検索 5 カタログ作成のステータスによってファイルを検索 5 仮レコードアイテムの検索 5 消失ファイルの検索 5 ブリント 5 単一ファイルのプリント 5 コンタクトシートのプリント 5 コンタクトシートのプリント 5 オートシンク 5 フォルダパレットの表示 5 新しい監視フォルダのオートシンク設定の編集 5	アイテムのプレビュー	40
ファイルの移動、コピー、削除 44 画像のバッチ変換 44 画像の回転 45 サムネールのみを回転 45 ファイル名を変更 44 別のファイルへ再リンク 44 カタログ化されたアイテムを他のソフトウェアヘドラッグ 45 アイテムの更新 45 ファイルを検索 46 「校索」コマンドの使用 46 パレットからの検索 56 複数のカタログを検索 56 がタログ作成のステータスによってファイルを検索 56 ボタログードアイテムの検索 56 ゴリント 56 単一ファイルのブリント 56 エンタクトシートのブリント 56 オャラリーからのアイテムのプリント 56 オャラリーからのアイテムのプリント 56 オートシンク 56 フォルダパレットの表示 56 新しい監視フォルダの追加 56 監視フォルダのオートシンク設定の編集 56	アイテムのプロパティの表示と編集	40
画像のの「ヤチ変換 45 45 45 45 45 45 45 45 45 45 45 45 45	オリジナルファイルの編集	41
画像の回転 44 サムネールのみを回転 44 ファイル名を変更 44 別のファイルへ再リンク 44 カタログ化されたアイテムを他のソフトウェアヘドラッグ 45 アイテムの更新 47 ファイルを検索 47 クイック検索 47 「検索」コマンドの使用 46 パレットからの検索 56 複数のカタログを検索 56 板数のカタログを検索 56 ボリント 56 書類のテキストの検索 56 ゴリント 56 単一ファイルのプリント 56 コンタクトシートのプリント 56 エキャラリーからのアイテムのブリント 56 オャンク 57 フォルダパレットの表示 56 新しい監視フォルダの追加 56 監視フォルダのオートシンク設定の編集 56	ファイルの移動、コピー、削除	41
サムネールのみを回転 44 ファイル名を変更 44 別のファイルへ再リンク 45 カタログ化されたアイテムを他のソフトウェアへドラッグ 45 アイテムの更新 45 ファイルを検索 47 クイック検索 46 パレットからの検索 56 複数のカタログを検索 56 カタログ作成のステータスによってファイルを検索 56 仮レコードアイテムの検索 56 消失ファイルの検索 56 ブリント 56 単一ファイルのプリント 57 コンタクトシートのプリント 57 ギャラリーからのアイテムのプリント 57 オートシンク 56 フォルダパレットの表示 56 新しい監視フォルダの追加 56 監視フォルダのオートシンク設定の編集 58	画像のバッチ変換	42
ファイル名を変更 44 別のファイルへ再リンク 44 カタログ化されたアイテムを他のソフトウェアへドラッグ 46 アイナムの更新 45 ファイルを検索 47 クイック検索 46 パレットからの検索 56 複数のカタログを検索 56 カタログ作成のステータスによってファイルを検索 56 順とコードアイテムの検索 56 消失ファイルの検索 56 ブリント 57 単一ファイルのプリント 57 コンタクトシートのプリント 57 ギャラリーからのアイテムのプリント 57 オートシンク 56 フォルダパレットの表示 56 新しい監視フォルダの追加 56 監視フォルダのオートシンク設定の編集 58	画像の回転	43
別のファイルへ再リンク 44 カタログ化されたアイテムを他のソフトウェアへドラッグ 45 アイテムの更新 45 ファイルを検索 47 クイック検索 47 「検索」コマンドの使用 46 パレットからの検索 56 複数のカタログを検索 56 カタログ作成のステータスによってファイルを検索 56 のレコードアイテムの検索 56 消失ファイルの検索 56 消失ファイルの検索 56 消失ファイルのプリント 57 コンタクトシートのプリント 57 コンタクトシートのプリント 57 オートシンク 57 フォルダパレットの表示 56 新しい監視フォルダの追加 56 監視フォルダのオートシンク設定の編集 56	サムネールのみを回転	43
カタログ化されたアイテムを他のソフトウェアへドラッグ46アイテムの更新46ファイルを検索47クイック検索47「検索」コマンドの使用48パレットからの検索56複数のカタログを検索56カタログ作成のステータスによってファイルを検索56個レコードアイテムの検索56書類のテキストの検索56消失ファイルの検索56ブリント56単一ファイルのプリント57コンタクトシートのプリント57ギャラリーからのアイテムのプリント57ボャラリーからのアイテムのプリント56オートシンク56フォルダパレットの表示56新しい監視フォルダの追加56監視フォルダのオートシンク設定の編集56	ファイル名を変更	44
アイテムの更新 45 ファイルを検索 47 クイック検索 46 「検索」コマンドの使用 46 パレットからの検索 56 複数のカタログを検索 56 カタログ作成のステータスによってファイルを検索 56 個レコードアイテムの検索 56 書類のテキストの検索 56 消失ファイルの検索 56 ゴリント 57 コンタクトシートのプリント 57 ギャラリーからのアイテムのプリント 57 オートシンク 56 フォルダパレットの表示 56 新しい監視フォルダの追加 56 監視フォルダのオートシンク設定の編集 58	別のファイルへ再リンク	44
ファイルを検索 47 クイック検索 46 「検索」コマンドの使用 48 パレットからの検索 56 複数のカタログを検索 56 カタログ作成のステータスによってファイルを検索 56 仮レコードアイテムの検索 56 消失ファイルの検索 56 ブリント 57 コンタクトシートのプリント 57 ギャラリーからのアイテムのプリント 57 オートシンク 56 フォルダパレットの表示 56 新しい監視フォルダの追加 56 監視フォルダのオートシンク設定の編集 56	カタログ化されたアイテムを他のソフトウェアヘドラッグ	45
クイック検索47「検索」コマンドの使用46パレットからの検索56複数のカタログを検索56カタログ作成のステータスによってファイルを検索56飯レコードアイテムの検索56消失ファイルの検索56消失ファイルのプリント56単一ファイルのプリント57コンタクトシートのプリント57ギャラリーからのアイテムのプリント56オートシンク56フォルダパレットの表示56新しい監視フォルダの追加56監視フォルダのオートシンク設定の編集56	アイテムの更新	45
「検索」コマンドの使用46パレットからの検索56複数のカタログを検索56カタログ作成のステータスによってファイルを検索56仮レコードアイテムの検索56消失ファイルの検索56ブリント56単一ファイルのプリント57コンタクトシートのプリント57ギャラリーからのアイテムのプリント57オートシンク56フォルダパレットの表示56新しい監視フォルダの追加56監視フォルダのオートシンク設定の編集56	ファイルを検索	47
パレットからの検索 55 複数のカタログを検索 56 カタログ作成のステータスによってファイルを検索 54 仮レコードアイテムの検索 54 書類のテキストの検索 56 消失ファイルの検索 55 プリント 56 ゴリント 57 コンタクトシートのプリント 57 ギャラリーからのアイテムのプリント 57 ギャラリーからのアイテムのプリント 57 ギャラリーからのアイテムのプリント 57 ボャラリーからのアイテムのプリント 57 ボャラリーからのアイテムのプリント 57 ボャラリーからのアイテムのプリント 57 ボャラリーからのアイテムのプリント 57 ボャラリーからのアイテムのプリント 56 新しい監視フォルダの追加 56 監視フォルダの追加 56 監視フォルダのオートシンク設定の編集 56	クイック検索	47
複数のカタログを検索 55 カタログ作成のステータスによってファイルを検索 55 仮レコードアイテムの検索 55 書類のテキストの検索 55 消失ファイルの検索 55 プリント 57 コンタクトシートのプリント 57 コンタクトシートのプリント 57 ボャラリーからのアイテムのプリント 57 オートシンク 56 カオルダパレットの表示 56 新しい監視フォルダの追加 56 監視フォルダのオートシンク設定の編集 56	「検索」コマンドの使用	48
カタログ作成のステータスによってファイルを検索 54 仮レコードアイテムの検索 54 書類のテキストの検索 55 消失ファイルの検索 56 プリント 57 コンタクトシートのプリント 57 コンタクトシートのプリント 57 オートシンク 57 オートシンク 58 フォルダパレットの表示 58 新しい監視フォルダの追加 58	パレットからの検索	53
仮レコードアイテムの検索54書類のテキストの検索55消失ファイルの検索56単一ファイルのプリント57コンタクトシートのプリント57ギャラリーからのアイテムのプリント57オートシンク58フォルダパレットの表示56新しい監視フォルダの追加56監視フォルダのオートシンク設定の編集59	複数のカタログを検索	53
書類のテキストの検索54消失ファイルの検索56プリント57コンタクトシートのプリント57ギャラリーからのアイテムのプリント57オートシンク58フォルダパレットの表示58新しい監視フォルダの追加58監視フォルダのオートシンク設定の編集59	カタログ作成のステータスによってファイルを検索	54
消失ファイルの検索55プリント56単一ファイルのプリント57コンタクトシートのプリント57ギャラリーからのアイテムのプリント57オートシンク58フォルダパレットの表示58新しい監視フォルダの追加58監視フォルダのオートシンク設定の編集59	仮レコードアイテムの検索	54
プリント56単一ファイルのプリント57コンタクトシートのプリント57ギャラリーからのアイテムのプリント58フォルダパレットの表示58新しい監視フォルダの追加58監視フォルダのオートシンク設定の編集58	書類のテキストの検索	54
単一ファイルのプリント57コンタクトシートのプリント57ギャラリーからのアイテムのプリント58フォルダパレットの表示58新しい監視フォルダの追加58監視フォルダのオートシンク設定の編集59	消失ファイルの検索	55
コンタクトシートのプリント57ギャラリーからのアイテムのプリント58オートシンク58フォルダパレットの表示58新しい監視フォルダの追加58監視フォルダのオートシンク設定の編集59	プリント	56
ギャラリーからのアイテムのプリント57オートシンク58フォルダパレットの表示58新しい監視フォルダの追加58監視フォルダのオートシンク設定の編集59	単一ファイルのプリント	57
オートシンク58フォルダパレットの表示58新しい監視フォルダの追加58監視フォルダのオートシンク設定の編集59	コンタクトシートのプリント	57
フォルダパレットの表示	ギャラリーからのアイテムのプリント	57
新しい監視フォルダの追加	オートシンク	58
監視フォルダ のオートシンク 設定の編集59	フォルダパレットの表示	58
	新しい監視フォルダの追加	58
監視フォルダの削除60	監視フォルダのオートシンク設定の編集	59
	監視フォルダの削除	60

監視フォルダの内容の表示	60
フォルダパレットによるファイルの移動	61
オートシンクによる新しいフォルダの作成	61
フォルダの同期	62
FinderまたはWindowsエクスプローラへの切り替え	63
キーワード	64
キーワード入力を避ける方法	64
キーワードの追加	64
キーワードの削除	65
キーワードの表示	65
マスターキーワード	66
カスタムフィールドタイプ	68
キーワードとカスタムフィールド	68
カタログへのカスタムフィールドの追加	69
カスタムフィールドタイプ	69
カスタムフィールドをパレットとして表示	70
フィールド値をパレットを使用して割り当てる	70
フィールド値の編集コマンドを使用	70
カテゴリー	71
新しいカテゴリーの作成	
カテゴリーの削除	72
アイテムをカテゴリーにリンクする	72
アイテムを指定のカテゴリーに表示	72
アイテムをカテゴリーから削除	72
カテゴリーに基づいたフォルダーを作成	73
ファイルの配布	74
ファイルの電子メールによる送信	74
ファイルのディスクへの書き込み	75
ファイルの収集	77
Webページ の 作成	77
Webページ の 配布	82
スライドショー	85
スライドショーの作成	85
スライドショーのオプションを設定	86
スライドショー中にファイルを編集	86
スライドショーの自動開始	86
スライドショーのQuickTimeムービーへの保存	87
Portfolio Express	88

Portfolio Expressを起動	88
Portfolio Expressでカタログを開く	89
Portfolio Expressを使用した検索	89
Portfolio Expressを使用してファイルにアクセス	90
Portfolio Expressのホットキーを設定	90
Portfolio Expressを自動的に起動	90
成功事例	92
効率的なワークフローの定義	92
ワークグループ環境で の Portfolio設定	92
使用するカタログの数	93
ファイルの整理	94
カタログの管理	96
デフォルトフィールド値	96
カタログの起動時オプションの設定	96
カスタムスのスプラッシュスクリーンを追加	97
データのインポートとエクスポート	97
破損したカタログの修復	99
公開されたカタログの管理	100
スクリプトを使ったPortfolio の 自動化	100
環境設定	101
ダブルクリック設定	101
ツールバーをカスタマイズ	101
デフォルトのアクセスモードの設定	101
「環境設定」ダイアログボックス	102
Extensis社について	103
連絡先	103
技術サポート	103
索引	104

Extensis Portfolioにようこそ

Portfolio製品は、デジタルファイルの管理、アクセス、制御を迅速化し使いやすくします。

Portfolioは、すでに存在するそれぞれのワークフローに簡単に統合できます。また、自動化ツールを使用して既存のワークフローの効率化を支援します。Portfolioは、デジタルアセットのライブラリ全体を、オンラインでもオフラインでも、視覚的に体系化して、並べ替え、およびプレビューすることを可能にします。素早くメタデータを埋め込み、アーカイブし、パートナーやクライアント、ベンダーとアセットを共有することが可能です。

このガイドでは、Portfolioデスクトップクライアントの使用方法についてすべて説明します。

Portfolio製品全体については、Extensis ウェブサイトを参照してください。

このリリースの新機能

Portfolio 9.5

デスクトップクライアントには、ワークフローを迅速化し、Portfolio製品全体をより使いやすくする多くの新機能が含まれています。

デスクトップクライアントに追加された改善点は、次の通りです。

- ログイン情報を保持して、複数のカタログを開く場合に自動的に認証されるようになりました。
- 自動的に一番高いアクセスレベルでログインします。
- 向上したデジタルカメラのRAWファイルのサポート (サポートされている形式についての最新情報は、 Extensis Webサイトを参照してください)。
- プレビューがサーバーからストリームされるようになりました。これによってクライアントはプレビューファイルに直接アクセスしなくて良くなりました。
- 特に指定しない限り、プレビューは自動的に生成されるようになりました。
- CDやDVD、USBドライブなど、オフラインファイルのカタログ化が向上しました。
- Portfolioデスクトップクライアントがより速く起動するようになりました。
- カタログがより速く開くようになりました。
- Microsoft Office Open XMLフォーマットの新しいサポート、Officeメタデータを含む向上したMicrosoft Officeサポート。
- XMPおよびIPTCフィールドを、サポートされているすべての形式に埋め込むことができるようになりました(最新のサポート形式については、Extensisのウェブサイトをご覧ください)。
- メタデータ設定を改善し、埋め込みメタデータタイプのより広い配列にアクセスが可能になりました。
- Portfolioデスクトップクライアントには、他にも改善点と修正点があります。最新バージョンについては、アプリケーションと一緒にインストールされたリリースノートを開くか、Extensisウェブサイトを参照してください。

はじめに

Portfolioは、デジタルファイルに関する情報を、扱いやすい視覚的なカタログに保存することによってファイルを整理するのに役立ちます。ファイルを探すのに深い階層のフォルダを探したり、必要な画像を見つけるために文書を次から次へと開いたりする代わりに、Portfolioでサムネールサイズのプレビューをすばやく参照したり、Portfolioの強力な検索エンジンを使用して必要なアイテムの検索を実行したりできます。

Portfolioの設定および使用には、以下の基本的な手順が含まれます:

カタログ:ファイルは「カタログ化」(Portfolio カタログに追加)する必要があります。これによって、Portfolio はファイルの検索、プレビュー、および追跡が可能になります。

- 新しいカタログの作成
- カタログにアイテムを追加

カスタマイズ:必要な情報の検索と表示を容易にするために、カタログの外観を定めます。

- 新しいギャラリーの作成
- <u>ギャラリー表示のカスタマイズ</u>

アクセス:ファイルを直接Portfolio内でプレビューし、別ディスクへコピーし、Photoshop®などのプログラムへドラッグし、作成された元のアプリケーションで開いて編集を行います。

- アイテムのプレビュー
- オリジナルファイルの編集

整理:Portfolio内の機能を使用して、キーワード、説明、その他のカスタムデータを追加することにより、ファイルをグループ化、整理、およびカテゴライズすることができます。

- キーワード
- カスタムフィールド
- カテゴリー

検索:検索するカタログファイル名の単語またはフレーズを入力すると、直ちにアクセスできます。Portfolioに自動的に保存されている幅広い検索タイプを使用して検索します。

- ファイルを検索
- クイック検索
- 「検索」コマンドの使用

配布:電子メール経由で自動的にサイズ変更されたファイルを送信し、CDまたはDVDに直接書き込み、ウェブページとして出版します。Portfolioはほとんどの配布関連のタスクを自動化します。

- ファイルの電子メールによる送信
- ファイルのディスクへの書き込み
- Webページの作成
- ファイルの収集
- スライドショー

Portfolio デスクトップクライアントシステム要件

最新の情報は、Extensisのウェブサイトでご確認ください:

http://www.extensis.com/en/support/documentation/?fs=/en/support/documentation/portfolio/.

または国内販売代理店のサイトをご覧ください:

http://www.swtoo.com/product/extensis/

Portfolio デスクトップクライアントのインストール

Portfolio デスクトップクライアントをインストールするには、マシンにインストーラをダウンロードして、インストーラをダブルクリックして指示に従います。

Portfolioのユーザーインターフェイス

Portfolioのユーザーインターフェイスは、カタログ作成、ファイルの検索および使用がすばやく行えるように設計されています。Portfolioのユーザーインターフェイスの主要部分は以下の通りです。

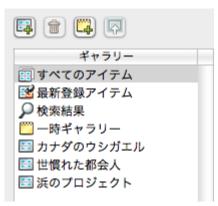
ツールバー

ツールバーでは、ボタンをクリックして最も頻繁に使用されるメニューコマンドにアクセスします。ツールバーをカスタマイズして、要望に合わせてボタンを増やしたり、または少なくすることが可能です。詳しくは、<u>ツールバーのカスタマイズ</u>のトピックをご覧ください。



ギャラリーパネル

Portfolioのカタログに含まれるものはすべて、少なくとも1つのギャラリーに一覧表示されます。ギャラリーでは、カタログ内でファイルの論理的なコレクションを作成できます。ギャラリーはカタログのすべてのユーザーが使用できるように、または個人だけが見られるように作成できます。ギャラリーは、特殊なスマートギャラリーへ変換することもできます。スマートギャラリーでは保存済みの検索条件に基づいて自動的にギャラリーを見つけて更新します。ギャラリーについての詳細は、ギャラリーのトピックをご覧ください。



フォルダパレットパネル/ウィンドウ

「フォルダパレット」パネル/ウィンドウでは、Windows Explorerまたは Macintosh Finder経由で、フォルダおよびファイルにアクセスできます。Microsoft Windows では、「フォルダパレット」は、「ギャラリー」パレットのすぐ下にある、ウィンドウのパネルに表示されます。Macでは、ウィンドウでPortfolio側をオフにしたときに表示されます。「フォルダパレット」に追加されたフォルダは、オートシンクと呼ばれる処理を通じて自動的にカタログと同期します。フォルダパレットおよびオートシンクについての詳細は、オートシンク へルプトピックをご覧ください。



メインウィンドウ

現在選択されているギャラリーまたはフォルダパレットのフォルダ内のアイテムは、メインウィンドウに表示されます。Windowsでは、アイテムをプレビュー、またはダブルクリックしてギャラリーを開いたときに、メインウィンドウの一番上にあるタブに表示されます。Macでは、アイテムをプレビューしたとき、またはダブルクリックしてギャラリーを開いたときに、新しいウィンドウに表示されます。



保存済みの表示メニューおよび並べ替えメニュー

「保存済みの表示メニュー」および「並べ替え」メニューはメインウィンドウの右上に表示されます。これらのメニューでは、現在開いているギャラリーの表示方法を変更して、並び替えをすることができます。カスタム表示の作成についての詳細は、カスタム表示の保存のトピックをご覧ください。並べ替えメニューの使用についての詳細は、ギャラリーの並べ替えのトピックをご覧ください。



表示ボタン

ツールバーの表示ボタンでは、3つの基本的なギャラリーの表示タイプをすばやく切り替えることができます。 サムネール表示、リスト表示、およびアイテム表示です。各ギャラリーの表示は完全にカスタマイズ可能で、Po rtfolioが検索できるどのフィールドデータも表示することができます。詳しくは、<u>表示</u>のトピックをご覧ください

Macintoshの「表示」ボタン



Windowsの「表示」ボタン



クイック検索

ツールバーの「クイック検索」ボックスでは、共通のフィールド値を検索することで、カタログでファイルをすばやく検索することができます。要望に応じて「クイック検索」ツールをカスタマイズすることが可能で、ほとんどのPortfolioフィールドを検索することができます。詳しくは、クイック検索のトピックをご覧ください。



カタログ

サーバーから提供されるカタログを開く

Portfolio Serverから提供されるカタログを開くには、まずサーバーに接続する必要があり、その後カタログを開きます。

- 1. 「ファイル」 > 「サーバー接続」を順に選択します
- 2. Portfolioサーバーをサーバーリストに追加していない場合、「サーバーの追加」をクリックして、Portfolio Serverの名前とIPアドレスを入力し、次に「OK」をクリックします。IPアドレスとサーバー名を取得するには、Portfolio Server管理者に連絡してください。
- 3. 「サーバーに接続」ダイアログボックスで、サーバー名の隣にあるプラスのアイコン (「+」または「▽」)をクリックして提供されるカタログのリストを表示します。
- 4. 開くカタログをクリックして選択します。
- 5. 「カタログを開く」をクリックします。

カタログプロパティの表示

「カタログ」 > 「プロパティ」を選択して「カタログプロパティ」ダイアログボックスを開くことで、任意のカタログに関する一般的な情報および統計を表示できます。「カタログプロパティ」ダイアログボックスでは以下の処理を行うことができます。

- カタログ内のアイテムの総数、使用されているキーワードの総数、ディスク上のカタログサイズ、作成 日、その他の詳細を得る。
- ディスク上のカタログファイルへのパスを表示およびコピーする。
- カタログ内で使用されているすべてのキーワードとその頻度を表示する。これを行うには、「統計」タブを選択し、「**計算」** (Mac) または 「**今すぐ計算」** (Win) ボタンをクリックします。Portfolioは各キーワードを一覧表示し、各キーワードが割り当てられているカタログ化済みアイテムの数を示します。
- 文書内で使用されているすべてのキーワードをテキストファイルに保存する。まず「**計算**」ボタンをクリックして、キーワードリストを生成します。次に、「キーワードのエクスポート」(Mac)、または「キーワードの保存」(Win)をクリックして、リストをテキストファイルとして保存します。
- カタログの並べ替え言語を表示する。

アクセスレベル

カタログのアクセスには、管理者、発行者、編集者および閲覧者の4つのレベルがあります。各レベルでは、ユーザーは異なったPortfolioの機能にアクセスします。

管理者

このモードは、すべての機能に対する完全なアクセスが可能です。カタログ管理者はカスタムフィールドの作成、カタログ作成の制御といった他のユーザーが不可能な処理を行うことができます。カタログが管理者モードで開いているときは、他のユーザーはカタログを一切使用できません。

発行者

発行者は、カタログ内のアイテムを追加、削除、エクスポート、および編集できますが、新規カスタムフィールドの作成、マスターキーワードリストの作成といった管理者機能を使用できません。

編集者

編集者モードのときは、カタログ化されたアイテムの検索、プレビュー、およびアイテムに関する情報のアクセスおよび編集が可能です。しかし、カタログへのアイテムの追加、ファイル名の変更、またはアイテムのウェブやQuickTimeムービーへのエクスポートを行うことはできません。

閲覧者

閲覧者として、アイテムを表示、検索、プレビュー、およびコピーできますが、カタログ内の変更は一切できません。これは、「閲覧専用」モードです。

カタログのアクセスレベルの変更

アクセスレベルを変更するには:

- 1. 「カタログ」 > 「アクセス権のレベル」を順に選択するか、command + J (Mac) 、またはCtrl + J (Win) キーを押します。
- 2. 「アクセス権のレベル」ドロップダウンメニューから、アクセスレベルを選択します。*注意*: アクセスレベルを変更できない旨のエラーが表示された場合は、カタログが既に別のユーザーによって開かれています。自分がカタログ内のただ1人のユーザーであることがわかっている場合は、Portfolio Expressパレットで開いているすべてのカタログを閉じてください。
- 3. 必要があればパスワードを入力し、「OK」をクリックします。

ファイルのカタログ化

カタログにアイテムを追加

Portfolioを使用してファイルの整理と追跡を行うためには、まずアイテムファイルをPortfolioカタログに追加する必要があります。Portfolioカタログにアイテムを追加するには、カタログに対して、発行者または管理者のアクセス権を持っている必要があります。

個別のファイル(JPEG画像やEPSグラフィックなど)、フォルダ、またはボリューム全体(ハードドライブ、CD-ROM、DVDなど)をカタログ化できます。Portfolioカタログにアイテムを追加する方法は5つあります。

重要 Portfolio Serverはカタログ作成するファイルへのアクセスを持っている必要があります。

インスタントカタログ作成

- 1. MacintoshのFinderまたはWindowsエクスプローラ内の任意の場所でファイル、フォルダ、またはディスクアイコンを**右クリック**します。
- 2. 「Portfolioに追加」コマンドを選択して、最近使用したカタログのリストを表示します。
- 3. 選択済みのアイテムを追加するカタログを選択します。 必要なカタログが一覧表示されない場合は、「その他のカタログ」を選択して開きます。
- 4. 適切な<u>「カタログ作成オプション」</u>を設定して、「OK」をクリックし、カタログにファイルを追加します。

ドラッグ&ドロップ

- 1. ファイル、フォルダ、またはディスクを、開いているカタログウインドウの中にドラッグするだけで、 カタログ化します。
- 2. 適切な<u>「カタログ作成オプション」</u>を設定して、「OK」をクリックし、カタログにファイルを追加します。

オートシンク



1. コンピュータまたはネットワークから、Portfolioのフォルダパレットにフォルダを追加するには、「フォルダ」パネルで、「**監視フォルダの追加**」ボタンをクリックします。

2. 「同期」ボタン

をクリックして、選択したフォルダのコンテンツをカタログ化します。詳しくは、<u>オートシンク</u>のヘルプトピックをご覧ください。

「追加」ボタン

- 1. Portfolioのメインツールバーの「追加」ボタン をクリックします。
- 2. 「開く」ダイアログボックスで任意のファイル、フォルダ、またはディスクを選択します。フォルダまたはディスクを選択する場合、「サブフォルダを含める」オプションを有効にして、選択したフォルダまたはディスクボリュームにネストされているフォルダ内のすべてのファイルをカタログ化できます。
- 3. 適切な<u>「カタログ作成オプション」</u>を設定して、「OK」をクリックし、カタログにファイルを追加します。

「カタログ」メニュー

- 1. 「カタログ」 > 「アイテムを追加」を選択します。
- 2. 「開く」ダイアログボックスで任意のファイル、フォルダ、またはディスクを選択します。フォルダまたはディスクを選択する場合、「サブフォルダを含める」オプションを有効にして、選択したフォルダまたはディスクボリュームにネストされているフォルダ内のすべてのファイルをカタログ化できます。
- 3. 適切な<u>「カタログ作成オプション」</u>を設定して、「OK」をクリックし、カタログにファイルを追加します。

高速カタログ作成

上記の任意の方法でファイルを追加する場合、Portfolioは2ステップの高速カタログ作成を利用して、カタログにファイルを追加します。最初のステップでは、すべてのファイルはすばやくスキャンされ、カタログに追加されます。ファイルがスキャンされると、埋め込まれたサムネールファイルは抽出され、カタログ内に黄色のアイコンで表示されます。この表示は、ファイルは有効であるが完全にカタログ化されていないことを示します。

カタログ作成の2番目のステップはバックグラウンドで実行されるので、カタログ内で作業を続けることができます。2番目のステップにおいて、Portfolioはプレビューファイルを作成して必要なテキストインデックス化を実行します。この高速カタログ作成の段階が終了すると、黄色のアイコンは各アイテムのサムネールから消えます

ファイルがカタログ化されると、Portfolioはカタログ作成の進行状況をステータスバーに表示します。ステータスバーでは、最初の段階におけるカタログ作成の停止および開始、あるいは2番目の段階におけるカタログ作成の一時停止、および続行することが可能です。

処理しています。「menu.gif」 - 0 / 9 個のファイルが完了しました。 Ⅲ 💥 🦯

警告: 高速カタログ作成の処理がオートシンク機能によって実行され、その処理が中断された場合、アイテムは部分的にカタログ化されたままになります。アイテムをすべてカタログ化するには、部分的にカタログ化されたアイテムを選択して、「アイテム」 > 「更新」を選択します。

高速カタログは、**カタログ> カタログ作成の詳細オプション > サムネール** タブの詳細オプションで、使用・使用しないを設定できます。

黄色のドット

カタログのサムネール上の黄色のドットは、部分的にカタログ化されたアイテムを示します。最初のカタログ作成の処理中、Portfolioは、簡単にアクセス可能なメタデータ同様、すべての埋め込まれたサムネールおよびプレビューを抽出し、ファイルに黄色のドットを配置します。これは、まだPortfolioが追加の処理を行う必要があることを示します。黄色のドットは、処理の2番目の段階が終了すると消えます。

赤のドット

カタログ化されたアイテム上の赤のドットは、疑問のあるファイルが破損している、使用中である、またはファイル許可がPortfolioによって読み取り不可能であることを示します。

赤のドットは、カタログがディスクプレビューを生成するように構成されていて、プレビューフォルダが見つからないか、Portfolio (またはPortfolio Server)が、フォルダにアクセスしてファイルを更新する権限がない場合にも表示されます。

カタログからアイテムを削除

カタログからアイテムを削除するための簡単な方法がいくつか用意されています。Portfolioカタログからアイテムを削除しても、オリジナル画像は削除されないことに注意してください。ファイルに関する Portfolio の内部記録が削除されるだけです。オリジナルファイルはそのまま残ります。

注意:Portfolioを使用してオリジナルファイルを削除することもできます。「**アイテム」 > 「オリジナルファイル の操作」 > 「削除」**の順に選択します。これにより、アイテムは Portfolio から削除され、オリジナルファイルは ごみ箱に移動されます(Mac、Windows ともに)。Mac の場合、この方法で削除されたネットワークボリューム 上のアイテムはごみ箱に移動されず、すぐに削除されます。

オリジナルファイルを削除せずに、アイテムをカタログから削除するには:

- Malus as a
- ツールバーから「削除」ボタン をクリックします。
- 「アイテム」 > 「削除」を選択します。
- サムネールを**右クリック**して、メニューから「**削除**」を選択します。
- キーボードの Delete キーを押します。

「削除の確認」警告

上記のいずれかの方法を使用して、「すべてのアイテム」ギャラリーからアイテムを削除するときはいつでも、 確認ダイアログボックスが表示されて、意図したアクションの実行であることを確認します。ダイアログボック スでは、アイテムをギャラリーから削除するか、ギャラリーとカタログの両方から削除するかを選択できます。

カタログ作成オプション

Portfolioにアイテムを追加するとき、ファイルに関する情報をどのように保存するかを詳細に定める多くのオプションを使用できます。こうしたさまざまなオプションは、「カタログ」メニューから「カタログ作成オプション」コマンドを選択することでコントロールできます。

「カタログ作成オプション」ダイアログボックスを開いた後、オプションを選択して名前変更、コピーおよびファイルの移動や、Portfolioに追加するアイテムの説明、キーワードおよびカスタムデータの追加を行うことができます。

説明を追加するには:

- 1. 「**追加したアイテムにプロパティ(説明、キーワード、フィールド)を設定する**」オプションを有効に します。
 - . 「説明」タブを選択して、テキストボックスに説明を入力します。

キーワードを追加するには:

- 1. 「**追加したアイテムにプロパティ(説明、キーワード、フィールド)を設定する**」オプションを有効に します。
- 2. 「キーワード」タブを選択します。
- 3. テキストボックスにキーワードを入力して、「+」ボタンをクリックすると新しいキーワードがリストに 追加されます。または、マスターキーワードリストからキーワードを選択して、「割り当て」ボタンを クリックします。

ここに入力したキーワードは、カタログ化するすべてのアイテムに自動的に適用されることに注意してください。

カスタムフィールドデータを追加するには:

- 1. 「**追加したアイテムにプロパティ(説明、キーワード、フィールド)を設定する**」オプションを有効に します。
- 2. 「フィールド」タブを選択します。
- 任意のカスタムフィールドの値を選択するには、フィールド名をダブルクリックします。
- 4. 適切なカスタムフィールドデータを入力して、「**OK**」をクリックします。

新しい場所にファイルをコピーまたは移動するには:

- 1. 「ファイルをコピーまたは移動する」オプションを有効にします。
- 2. 「**オリジナルファイルのコピーの作成」**または「**オリジナルの移動」**ラジオボタンのいずれかを選択します。
- 3. ファイルを配置する新しい場所にナビゲートします。

ファイルの名前を変更するには:

- 1. 「ファイル名を変更」オプションを有効にします。
- 2. 3つのドロップダウンメニューを使用して、名前指定の方式を選択します。使用可能な名前指定のオプションは以下のとおりです。
- 「テキスト」: 最大31文字の長さで説明的なテキスト文字列を入力します。
- 「連続した番号」:任意の番号を入力します。複数のファイルをカタログ化する場合、Portfolioは各ファイルの名前を付けるときに番号を1ずつ増やします。たとえば、番号001を入力し、3つの画像をカタログ化すると、それらの名前には001、002、および003という番号が付加されます。
- **オリジナルファイル名**名:新しい名前にオリジナルファイル名を含めます。

「なし」:ファイル名に特定のスキームを利用しません。

こうしたオプションを任意の順序と組み合わせで適用し、新しい名前の前、中、後を構成することができます。

カタログ作成オプションのプリセットを保存する

Portfolioでファイルのカタログを作成する際、実行可能な設定が多数あるため、Portfolioには設定を保存し、後で再利用できる機能が備わっています。

たとえば、レーシングカーに関するプロジェクトがあり、キーワードとして「自動車」および「レース」を追加すると同時に、新しいファイルを特定のプロジェクトディレクトリに移動したいとします。これらのカタログ作成のオプションを保存すると、将来のファイルについて、「保存済みの設定内容」ドロップダウンメニューからプリセットを選択して、「OK」をクリックするだけで済みます。

保存済みのカタログ作成のオプションは、オートシンクフォルダと連携して用いることもできます。ファイルは ユーザーが操作することなく、自動的に移動、キーワード追加、およびカタログ化が可能です。

カタログ作成のオプションのプリセットを保存するには:

- 1. 「カタログ」 > 「カタログ作成オプション」を選択します。
- 2. 選択したカタログ作成オプションを入力します。
- 3. ダイアログボックス上部の「**保存**」をクリックし、設定を現在のダイアログプリセットに保存します。-または -

プルダウンから「別名で保存」をクリックし、オプションを新しいダイアログプリセットに保存します

4. 「**OK**」をクリックして「カタログ作成オプション」ダイアログボックスを閉じます。

カタログ作成オプションのプリセットを使用する

カタログオプションのプリセットは、「カタログ作成オプション」ダイアログボックスでの設定を再使用するための簡単な方法です。カタログ作成のオプションのプリセットは、手動でアイテムをカタログに追加する場合、またはオートシンクフォルダで使用できます。

カタログ作成オプションのプリセットを使用するには:

- 1. アイテムのカタログ作成を通常通り開始します。詳しくは、**カタログへのアイテムの追加**のトピックを ご覧ください。
- 2. 「カタログ作成オプション」ダイアログボックスの一番上にある「保存済みの設定内容」ドロップダウンメニューから、カタログ作成のオプションのプリセットを選択します。
- 3. 「**OK**」をクリックします。

カタログ作成オプションダイアログボックスを隠す

デフォルトでは、「カタログ作成オプション」ダイアログボックスの「**カタログ作成時にこのダイアログボック スを表示しない」**オプションをオンにして指定しない限り、ファイルをカタログ化するたびに「カタログ作成オプション」ダイアログボックスが開きます。

カタログ作成オプションのダイアログボックスを隠すには:

- 1. 「カタログ」 > 「カタログ作成オプション」を選択します。
- 2. 「カタログ作成オプション」ダイアログボックスで、「**カタログ作成時にこのダイアログボックスを表示しない**」オプションを有効にします。
- 「OK」をクリックします。

プリセットパレット

プリセットパレットにより、カタログ作成オプションのプリセットを使用して、多くの異なったデータファイルを同時に更新できます。これには、キーワード、説明および無制限のカスタムフィールドが含まれます。

手動でアイテムのカタログ作成を行う場合、通常カタログ作成オプションのダイアログボックスが表示されます。「プリセットパレット」を使用すると、アセットがすでにカタログ化された後からでも、保存済みのカタログ作成オプションをワンクリックで適用できます。これにより大量のメタデータをワンクリックで簡単に更新できます。

プリセットを適用する場合、「プロパティの設定」オプションのみが使用されていることに注意してください。 コピー、移動または名前変更のオプションは無視されます。プリセットが適用される場合、キーワードなどの複数の値を保持できるフィールドへの変更が、アイテムレコードに追加されます。「説明」などの、1つの値への変更はカタログ内の現在の設定に置き換えられます。

プリセットパレットを表示するには

• 「**ウィンドウ**」 > 「**プリセット**」の順に選択します。

新しいプリセットの作成

新しいプリセットを作成するには

- 1. 「ウィンドウ」 > 「プリセット」の順に選択します。
- 2. 「**オプション**」をクリックします。
- 3. 「カタログ作成オプション」ダイアログボックスで、「新規アイテムを追加する際に、次のことを実行します。」からオプションを選択します。「ファイルをコピーまたは移動」および「ファイル名を変更」オプションは、プリセットとして適用されるときは無視されます。
- 4. 「**別名で保存**」をクリックします(Win)。または、保存済みの設定内容ドロップダウンメニューから「**別名で保存**」を選択します(Mac)。
- 5. プリセットに名前をつけて、「**OK**」をクリックします。
- 6. 「**OK**」をクリックして新しいプリセットの作成して、「カタログ作成オプション」ダイアログボックスを閉じます。

プリセットの適用

プリセットを適用するには

• プリセットパレットから、プリセット名をクリックして、ギャラリー内の任意の1つのアイテム、または ハイライトされたアイテムのグループにドラッグします。

ーまたはー

• ギャラリー内の任意の1つのアイテムまたはアイテムのグループをハイライト表示し、プリセット名をハイライト表示して「**割り当て**」をクリックします。

「OK」をクリックしてプリセットを選択されたアイテムに割り当てます。

警告: プリセットの割り当ては取り消すことはできません。

仮レコード

通常、Portfolioはカタログ化する各デジタルファイルについてエントリ(レコードまたはアイテムともいう)を 作成します。しかし、存在しないファイル(まだ受信または作成していないもの)について、Portfolioカタログ にアイテムを入力したい場合があります。これを仮レコードといいます。仮レコードは、カタログに含める予定 だが実際にはまだ持っていないファイルの代用と考えてください。

仮レコードはPortfolioカタログ内の他のアイテムとまったく同様に動作します。仮レコードにキーワードを割り当てたり、説明を追加したり、検索したりできます。ただ1つ違うのは、仮レコードにはまだ特定のメディアファイルが関連付けられていないということです。将来の任意の時点で、仮レコードをディスク上の実際のファイルに結びつけ、通常のPortfolioカタログアイテムにすることができます。

仮レコードに最終的に結び付けるファイルと同じ名前を付けた場合、Portfolioは仮レコードが更新された際に、 自動的にファイルを見つけ、カタログ化することができます。

仮レコードの結びつけ

仮レコードをディスク上の実際のファイルに結びつけると、通常のPortfolioカタログアイテムになります。

仮レコードをファイルに結び付けるには:

- 1. 仮レコードを選択します。
- 2. 「アイテム」 > 「更新」を選択します。または、command + U (Mac) キーを押すか、または Control
 - + U (Win) キーを押します。または、ツールバーから「更新」ボタンをクリックします。
- 3. 仮レコードの名前が結び付けるファイルの名前と完全に一致し、検索するために正しいフォルダを指定した場合、「更新」コマンドは自動的にアイテムを対応するファイルに結び付けます。Portfolioが現在のディレクトリに、仮レコードと同じ名前を持つファイルを認識できない場合、「開く」ダイアログボックスが開き、必要なファイルを特定できます。必要なファイルを選択し、「開く」をクリックします。

仮レコードアイテムの作成

仮レコードを作成するには:

- 1. 「カタログ」 > 「仮レコードを作成」を選択します。
- 2. 仮レコードに名前を付けます。「アイテムのファイル名」フィールドに名前を入力します。可能であれば、これは仮レコードが代用するファイル、つまり最終的に仮レコードを置換するファイルの名前にしておくと良いでしょう。これによって後で行われる更新処理がより容易になります。
- 3. 場所を指定します(オプション)。「ディスク上の保存場所」オプションをチェックして、仮レコードが代用するファイルを最終的に配置する場所を設定します。ファイルの保存場所が不明な場合は、空白にしておくことができます。保存場所を知っている場合は、この設定によって仮レコードの更新がはるかに容易になります。
- 4. 「OK」をクリックします。新しいアイテムは、カタログ内に「仮レコード」という単語を含むサムネールとともに表示されます。

カタログ作成の詳細オプション

「カタログ作成の詳細オプション」は、カタログレベルで適用され、カタログにアイテムを追加するすべてのユーザーに影響します。「詳細」オプションにより、アイテムのパスからキーワードを作成する、ファイル名に基づいてカタログ作成のためのファイルを選択する、または適切なPortfolioフィールドにメタデータをマッピングするなど、Portfolioの多くのパワフルな機能を制御することができます。

カタログ作成の詳細オプションを設定するには:

- 1. 「カタログ作成のオプション」ダイアログボックスで、「**詳細」**をクリックするか、または「**カタログ**」 **> 「カタログ作成の詳細オプション**」を選択します。
- 2. 「詳細カタログ作成オプション」ダイアログボックスで、新しい設定を選択します。さまざまなオプションの詳細については、以下の「関連トピック」を参照してください。
- 3. 「OK」をクリックして、新しい設定を受け入れます。

パスからのキーワードの作成

Portfolioはファイルをカタログ化する際に、ファイルの名前とディスク上の場所に基づいて各ファイルにキーワードを追加します。Portfolioはこれを行うために、カタログ化される各ファイルの完全パスを調べ、そのパスのすべてまたは一部の単語を抽出してキーワードを作成します。

パスからキーワードを作成するには:

- 1. 「カタログ作成オプション」ダイアログボックスで、「**詳細」**ボタンをクリックするか、または「**カタ ログ」 > 「カタログ作成の詳細オプション**」を選択します。
- 2. 「詳細カタログ作成オプション」ダイアログボックスで、「プロパティ」タブをクリックします。
- 3. 「パスからキーワードを作成」オプションを有効にします。
- 4. ドロップダウンメニューから、オプションを1つ選択します。
 - ファイル名
 - ファイルとフォルダ名
 - パス名
 - パスとボリューム名

このオプションは、キーワードを作成するために使用されるパスの範囲を定めます。

ドキュメントテキストのインデックス化

「書類内のテキストをインデックス化」オプションをオンにすると、カタログの作成時に、PortfolioはAdobe PD F(Portable Document Format)ファイルのほか、プレーンテキストの文書をインデックス化します。カタログ化される文書の各英単語はカタログインデックスに保存されるため、高速な検索と取得が可能になります(日本語では利用できません)。

注意:テキストのインデックス化をオンにすると、PDFファイルのカタログ作成が遅くなります。Portfolioを使用して文書を検索する際、PDFファイル内でのテキスト検索が重要な意味を持つ場合に限り、このオプションをオンにすることを推奨します。

ドキュメントテキストのインデックス化を有効にするには:

- 1. 「カタログ作成オプション」ダイアログボックスで、「**詳細」**ボタンをクリックします。または、「カ**タログ」 > 「カタログ作成の詳細オプション」**を選択します。
- 「詳細カタログ作成オプション」ダイアログボックスで、「プロパティ」タブをクリックします。
- 3. 「**書類内のテキストをインデックス化**」オプションを有効にします。

書類内のテキストインデックス化から単語を除外するには:

- 1. 「詳細カタログ作成オプション」ダイアログボックスの「プロパティ」タブで、「**除外する単語リスト の編集**」ボタンをクリックします。
- 2. エントリフィールドに、インデックス化の際に Portfolio が無視する単語を入力します。
- 3. 「追加」をクリックします。
- 4. ステップ2および3を繰り返し、必要な数の単語を除外リストに追加します。
- 5. 「**OK**」をクリックします。

サムネールオプションの設定

「サムネール」オプションは、「カタログ作成の詳細オプション」ダイアログボックス内のセットです。これらの設定は、カタログ全体に適用され、変更はそのアイテムをカタログに追加するすべてのユーザーに影響します

サムネール作成のオプションを変更するには:

- 1. 「**カタログ」 > 「カタログ作成の詳細オプション**」を選択します。または、「カタログ作成オプション 」ダイアログボックスで、「**詳細」**ボタンをクリックします。
- 2. 「サムネール」タブを選択します。
- 3. ドロップダウンメニューから、サムネールのサイズを選択します。この設定は、Portfolioによって作成および保存されるサムネールのサイズ(ピクセル) を、 $112 \times 112 \$ ピクセル、または $256 \times 256 \$ ピクセルのいずれかで定めます。
- 4. 「ファイルからサムネールを抽出」 オプションを有効にして、カタログを作成しているファイルにすで に埋め込まれているサムネールを抽出します。グラフィックソフトウェアとページレイアウトソフトウェアの多くは、自動的にサムネールサイズのプレビュー画像を作成し、それらを保存されるファイルに 埋め込みます。例えば、JPEGファイルとTIFFファイルは一般的にサムネール画像を埋め込みます。
- 5. 「カタログ化作業を高速で行う」オプションを有効にして、2段階に分けてファイルのカタログ作成を行います。このオプションにより、カタログ作成の1段階の操作が終了したら、カタログ作成されたファイルの表示および操作をより速く行うことが可能になります。 高速カタログ作成についての詳細は、<u>カタログへのアイテムの追加</u>ヘルプトピックをご覧ください。
- 6. ムービーファイルのカタログ作成を行う場合、画像を選択してサムネールとして使用できます。
- 「ポスターフレームを使用」は、カタログ化されるムービーの最初のフレームのサムネールを表示します。
- 「フレーム番号を使用する」オプションにより、サムネールの生成に使用される特定のフレームを選択できます。
- 「開始から働後のフレームを使用する」オプションにより、ビデオクリップ開始後、指定された秒数 が経過した時点で表示されるフレームを選択できます。

ファイルタイプを含めるまたは除外する

Portfolioは事実上、デジタルファイルのすべてのタイプをカタログ化することができ、デフォルトですべてのファイルタイプについてカタログ作成するように設定されます。ただし、Portfolioが特定のファイルタイプ(JPEGまたはTIFFファイルなど)のみをカタログ化する、または特定のファイルタイプを無視する(カタログに登録しない)ようにしたい場合、そうした制限を「詳細カタログ作成オプション」ダイアログボックスの「ファイルタイプ」パネルで設定できます。

特定のファイルタイプをカタログ作成から除外するには:

- 1. 「**カタログ」 > 「カタログ作成の詳細オプション**」を選択します。または、「カタログ作成オプション 」ダイアログボックスで、「**詳細」**ボタンをクリックします。
- 2. 「詳細カタログ作成オプション」ダイアログボックスの「ファイルタイプ」タブで、「**以下のファイル タイプのみをカタログ化**」を選択します。
- 3. 「ファイルタイプ」リストで、Portfolioのカタログに登録したくない各ファイルタイプの横のチェックマークを外します。

ファイルタイプの除外リストの更新

含める/除外するファイルのリストにファイルタイプを追加するには:

注意: リストにファイルタイプを追加する必要があるのは、リストに表示されないタイプを除外する場合、またはリストに表示されないタイプを除外して他のタイプを含める場合だけです。

- 1. 「**カタログ」 > 「カタログ作成の詳細オプション**」を選択します。または、「カタログ作成オプション 」ダイアログボックスで、「**詳細」**ボタンをクリックします。
- 2. 「詳細カタログ作成オプション」ダイアログボックスの「ファイルタイプ」タブで、「以下のファイル タイプのみをカタログ化」を選択した後、**「追加**」ボタンをクリックします。
- 3. ファイルタイプの情報を入力するか、「ファイル選択」をクリックして同じタイプのファイルを指定します。Portfolio はこのファイルタイプのパラメータをフィールドにコピーします。
- 4. ファイルタイプの環境設定を保存する場所を選択します。
- 「環境設定ファイルに保存」(Windowsの場合「ローカル」に保存):アイテムをカタログに追加する他のPortfolioユーザーに影響しません。
- 「**カタログ内に保存**」:このカタログのすべてのユーザーは、カタログ作成時にこの設定になります。
- 5. 「**OK」**をクリックして、このファイルタイプをリストに追加します。

ファイルをファイル名によって除外

特定のファイル名またはパターンを指定する「除外」リストを作成することにより、特定のファイル名を持つファイルをPortfolioが無視するように強制できます。

ファイルをファイル名によって除外するには:

- 「カタログ」 > 「カタログ作成の詳細オプション」を選択するか、「カタログ作成オプション」ダイアログボックスで、「詳細」ボタンをクリックします。
- 2. 「除外するファイル名」タブで、ドロップダウンメニューからファイル検索パラメータを選択します。 「**で始まる」、「を含む」**、または**「で終わる」**のいずれかです。
- 3. カタログ作成から除外したいファイル名または名前の一部を入力します。 大文字と小文字は区別されません。
- 4. 「追加」をクリックします。Portfolioは各パス名とパスの各セグメントについて、入力したパラメータのいずれかと一致するテキスト文字列を検索します。例:「で始まる:DUP」および「で終わる:97」と入力すると、Portfolioは「Duplicate_PH050」、「Report_97」、および「C:\Duplicates\Image.jpg」を除外します。

メタデータ設定のマッピング

「メタデータ設定」ダイアログボックスで、抽出されるメタデータフィールドを定義し、Portfolioによって情報が保存されるカタログ内の正確な場所をマッピングできます。

Portfolioがメタデータをマッピングする方法をコントロールする2つの重要なリストがあります。

- メタデータリストは、Portfolioが受け入れることのできるすべてのメタデータフィールドのリストです。
- 「カタログのフィールド」リストは、Portfolioがカタログ内でメタデータを保存できるすべてのデフォルトおよびカスタムフィールドのリストです。

抽出したい各メタデータについて、ダイアログボックスで適切な「カタログのフィールド」をマッピングする必要があります。デフォルトで、Portfolioは最も一般的なメタデータを抽出し、カタログ内に保存します。

埋め込まれたメタデータを元のJPEG、TIFFファイルに戻すこともできます。ダイアログボックスの「データの書き込み」タブで、任意のPortfolioカタログのフィールドをオリジナルファイル内のXMPまたは IPTCメタデータフィールドにマッピングできます。

注意:Portfolio 7カタログでカスタムメタデータフィールドを作成した場合、マッピングの一部を、変換されたPortfolio カタログで再作成しなければならないことがあります。「メタデータ設定」を開くには、「カタログ」 > 「メタデータ設定」を選択します。

カタログ作成中のメタデータの抽出

デジタルカメラ、ソフトウェア、その他のデバイスの多くは、ファイルを作成するときに固有の情報をファイルに埋め込みます。たとえば、デジタルカメラは通常、しぼり、シャッター速度、撮影日などのEXIFデータを埋め込みます。 Portfolioは埋め込まれているEXIF、XMP、IPTC、およびTIFFメタデータを自動的に検出および抽出し、カタログに追加することができるため、情報を手動で再入力する手間が省けます。 PortfolioはJPEGおよびTIFFファイルからメタデータを抽出できます。

デフォルトで、Portfolioは埋め込まれたメタデータを広範囲に抽出できますが、メタデータフィールドをさらに拡張し、Portfolioが情報を保存するカタログ内の場所を選択することができます。「設定」ボタンをクリックし、「メタデータ設定」ダイアログボックスを開きます。

メタデータの抽出を埋め込むには:

- 1. 「カタログ作成オプション」ダイアログボックスで、「詳細」ボタンをクリックします。
- 2. 「詳細カタログ作成オプション」ダイアログボックスで、「プロパティ」タブをクリックします。
- 3. 「メタデータの抽出」オプションを有効にします。
- 4. Portfolioがメタデータをカタログ内で保存する場所を構成するには、「**設定」**ボタンをクリックします。これにより、ファイルのメタデータが Portfolioフィールドにマップされる、「メタデータ設定」ダイアログボックスが開きます。マップの構成が終了したら、「**OK**」をクリックします。
- 5. 「OK」をクリックして「詳細カタログ作成オプション」ダイアログボックスを閉じます。

新しいメタデータフィールドの追加

メタデータリストに新しいメタデータフィールドを追加するには:

注意:最もよく使われるメタデータフィールドは、既にメタデータリスト内に定義されています。ほとんどのユーザーは現在のフィールドを使用で十分で、リストに新しいメタデータフィールドを追加する必要はありません。

- 「カタログ作成の詳細オプション」ダイアログボックスの「プロパティ」タブで、「設定」ボタンをクリックします。または、「カタログ」>「メタデータ設定」を選択します。
- 2. 「メタデータ設定」ダイアログボックスで、「メタデータの編集」ボタンをクリックします。
- 3. 「メタデータの編集」ダイアログボックスで、「新規」をクリックします。
- 4. 新しい「メタデータ名」と「メタデータコード」を入力します。「メタデータ名」はデータを適切に説明する任意のテキストを指定できますが、「メタデータコード」はファイル内のコードと全く同じである必要があります。このコードは通常、ファイルを作成したデバイスのメーカーから取得できます。こうしたコードの多くはインターネット上ですぐに見つけることもできます。 *注意*IPTCコードはPortfolioが認識できるように変換する必要があります。IPTCコードがコロンで区切られた2つの数から構成されている場合、(最初の数 * 256) + 2番目の数 = Portfolioメタデータコードという式を用いて入力するコードを取得します。
- 5. 「OK」をクリックして、変更をメタデータリストに保存します。

メタデータマッピングの更新

Portfolioが特定のメタデータを保存する場所を変更するには:

- 1. 「詳細カタログ作成オプション」ダイアログボックスの「プロパティ」タブで、「**設定」**ボタンをクリックします。または、「**カタログ」 > 「メタデータ設定**」を選択します。
- 2. 「メタデータ設定」ダイアログボックスの「データの取り込み」タブで、更新する特定の**「抽出するメ タデータ」**フィールドをクリックしてハイライト表示します。
- 3. ダイアログの左側で、対応する「メタデータを取り込むカタログフィールド」をクリックして変更します。

メタデータの抽出

ファイルのカタログ作成の際にメタデータ抽出を有効にしていなかった場合、後でメタデータを抽出できます。

カタログ化されたファイルからメタデータを抽出するには:

- 1. いずれかのギャラリーで処理対象のファイルをクリックしてハイライト表示します。
- 2. 「**アイテム」 > 「プロパティの抽出」**を選択します。これにより、「メタデータ設定」ダイアログボックスでマッピングされたメタデータが適切なPortfolioフィールドに抽出されます。

メタデータの埋め込み

Portfolioは、メタデータおよびその他の情報をファイルに埋め戻すこともできます。このため、正しくキーワードおよびタグ設定されたファイルに対する作業を失うことがありません。

注意: PortfolioはJPEGおよびTIFFファイルにメタデータを埋め込むことができます。メタデータをその他のファイルタイプに埋め込もうとすると、Portfolioはファイルタイプがサポートされていない、というメッセージを表示します。

メタデータを埋め込むには:

- 1. いずれかのギャラリーで処理対象のファイルをクリックしてハイライト表示します。
- 2. 「アイテム」 > 「プロパティの書き込み」を順に選択します。これにより、「メタデータ設定」ダイアログボックスでマッピングされたメタデータが、オリジナルファイル内の適切な場所に埋め込まれます

0

ギャラリー

ギャラリーには、カタログ内のすべてのアイテム、またはそのサブセットを表示できます。たとえば、カタログ内に5,000個の画像があるとします。Portfolioの検索機能を使用すると、「海」というキーワードでタグ付けされたすべての画像を見つけて、一致する135個の画像を探し出すことができます。この場合、カタログには5,000個の画像が含まれますが、ギャラリーに含まれるのは135個の画像です。

ギャラリーは、カタログ内の特定のファイルのみを整理および表示するのに適した方法です。写真家の場合、作品全体を含むカタログを作成し、あるギャラリーでは肖像写真のみを表示し、別のギャラリーには風景写真のみを含めることができます。

各アイテムがギャラリー内でどのように表示されるかについては、「表示」によって定義します。表示の設定方法については、表示のトピックをご覧ください。

デフォルトのギャラリー

ギャラリーには、メインウインドウの「ギャラリー」パレットからアクセスします。すべてのカタログにおいて、3つのデフォルトのギャラリーがあり、「検索結果」、「最新登録アイテム」、および「すべてのアイテム」が含まれます。

- **『すべてのアイテム**』のギャラリーには、カタログのすべてのアイテムが表示されます。
- ~ 「検索結果」のギャラリーには、もっとも最近の検索結果が表示されます。
- . :

「最新登録アイテム」ギャラリーには、最後にカタログ化したファイルが表示されます。Portfolio Server の共有カタログについて、Portfolioは現在のユーザーがカタログ化したファイルのみをカタログ内に表示します。

ギャラリー名を一度クリックするだけでギャラリーが開き、メインウインドウに表示されます。名前をダブルクリックすると、Macintoshの場合、完全に新しいウインドウ内にギャラリーが開きます。Windowsの場合、ダブルクリックするとメインウインドウ内にギャラリーが開きますが、メインウインドウ内の他のギャラリーのタブをクリックすることで、開いている他のギャラリーにもアクセスできます。

注意:「環境設定」ダイアログボックスの「一般」タブでユーザー名を設定しない場合、Portfolioは「最新登録アイテム」ギャラリー内の、日付が最新であるすべてのファイルを表示します。

標準のギャラリー

デフォルトのギャラリーに加えて、カタログ内に自動的に保存されるギャラリーを作成できます。標準のギャラリーの作成方法については、**新しいギャラリーの作成**のトピックをご覧ください。

公開、非公開、および読み取り専用の設定

標準のギャラリーは、作成されると**公開**■

となり、ウェブクライアントユーザーを含む、カタログのすべてのユーザーが利用できます。ギャラリーアクセス設定を指定して、ギャラリーを**非公開** 用として自分だけが見れるようにしたり、または**読み取り専用** にすることができます。ギャラリーのアクセスレベルを変更する方法については、<u>ギャラリーを公開またはプラ</u>イベートに設定を参照してください。

一時ギャラリー

(000)

一時ギャラリーと呼ばれる、ファイルの一時的な収集を作成することもできます。これらのギャラリーは自動的にカタログに保存されず、本来一時的なギャラリーとして存在します。カタログを閉じる場合、任意の「一時」ギャラリーの保存を促され、保存すれば標準のギャラリーに変換されます。「一時」ギャラリーの作成および使用方法については、「一時」ギャラリーのトピックをご覧ください。

スマートギャラリー

スマートギャラリー🛭

が開くと、Portfolioは自動的にPortfolioのカタログを検索して、表示する適切なファイルを選択します。スマートギャラリーは任意のアイテムのプロパティに基づいてファイルを検索および選択するように構成できます。スマートギャラリーを作成して使用する場合、詳細はスマートギャラリーの作成を参照してください。

新しいウィンドウでギャラリーを開く(Mac のみ)

PortfolioのMacintoshのバージョンでは、ギャラリーパネルにおける追加のボタンが使用できます。このボタンは、選択したギャラリーを新しいウィンドウですぐに開きます。

ギャラリーアイコンの参照

- 最新登録アイテムギャラリー
- ▶ 検索結果ギャラリー
- 標準のギャラリー
- ₩ 非公開ギャラリー
- 読み取り専用ギャラリー
- □ 一時ギャラリー
- 2 スマートギャラリー
- ₩ 非公開のスマートギャラリー
- № 読み取り専用のスマートギャラリー

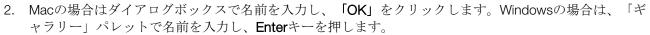
新しいギャラリーの作成

注意: 複数のギャラリーを作成しても、カタログ内のアイテムの数は増えません。ギャラリーは、カタログ内の一部のアイテムだけをまとめて表示するものです。

新しいギャラリーを作成するには:

1. 「ギャラリー」 > 「新規」を選択するか、Command + G (Mac)、またはCtrl +

G(Win)を押します。または、「ギャラリー」パレットで、「新規」 ボタンをクリックします



注意:標準のギャラリーは自動的に保存されます。ギャラリーを保存する必要があるのは、「一時」ギャラリーを 残しておきたい場合だけです。一時ギャラリーを保存するには、「ギャラリー」 > 「別名で保存」を選択してく ださい。

ギャラリーへのアイテムの追加

ギャラリーにアイテムを追加するには:

- サムネールを別のギャラリーから新しいギャラリーにドラッグします。
- 「編集」メニューの「**コピー」**コマンドおよび「**ペースト」**コマンドを使用し、サムネールを別のギャラリーからコピーして新しいギャラリーに貼り付けます。
- 「編集」メニューの「**カット**」コマンドおよび「ペースト」コマンドを使用し、アイテムを別のギャラ リーから切り取って新しいギャラリーに移動します(アイテムをギャラリーから切り取ってもカタログ から削除されないことに注意してください。現在のギャラリーから削除されるだけです)。
- 特定のキーワードを含むアイテムなど、アイテムの選択されたセットについて検索を実行します。「ギャラリー」 > 「別名で保存」を選択し、検索結果を含む新しいギャラリーを作成します。

一時ギャラリー

標準のギャラリーとは異なり、一時ギャラリーは、カタログ内に自動的には保存されません。この特殊なギャラリーは、ファイルを一時的に収集しておく場所として使用します。発行者または管理者としてログインしている場合は、一時ギャラリーを保存して、標準のギャラリーに変換することができます。その他の点では、標準のギャラリーとまったく同じです。一時ギャラリーを保存しないで Portfolio を閉じようとすると、警告メッセージが表示されます。

新しい一時ギャラリーの作成

新しい一時ギャラリーを簡単に作成できるさまざまな方法があります。

新しい一時ギャラリーを作成するには:

- 「ギャラリー」パレットで、「新規一時ギャラリー」ボタン をクリックします。
- 「ギャラリー」 > 「新規一時ギャラリー」を選択します。
- 「検索結果」ギャラリーを**右クリック**して、メニューから「新規一時ギャラリー」を選択して「クイック検索」または「検索」の結果を新しい一時ギャラリーに保存します。
- 任意の選択されたアイテムを選択して、**右クリック**して、メニューから「**一時ギャラリーの作成**」を選択します。選択されたアイテムが新しい一時ギャラリーに追加されます。

一時ギャラリーの保存

一時ギャラリーは、保存することにより通常のギャラリーに変換できます。一時ギャラリーを保存するには、発 行者または管理者レベルのアクセス権が必要です。

- 1. 「ギャラリー」パレットで、一時ギャラリーを選択して、以下のいずれかを実行します。
- 「ギャラリー」 > 「別名で保存」を選択します。
- または、一時ギャラリーを**右クリック**して、メニューから「**別名で保存」**を選択します。
- または、Command + S (Mac) またはCtrl + S (Win) を押します。

ギャラリーからのアイテムの削除

アイテムがギャラリーから削除される場合、現在のギャラリーから削除されるだけで、カタログからは削除されません。ある画像セットのギャラリーを作成し、他の画像とともに表示したくない画像が含まれていることに気が付いた場合、ギャラリー内の不要な画像を単純に削除します。

- 1. カタログから削除せずに、ギャラリーからアイテムを削除するには、削除するアイテムを選択して、以下のいずれかを行います:
- ツールバーから「**削除」** ボタンをクリックします。 ダイアログボックスで「**ギャラリーから削除**」オプションを選択し、「**OK**」をクリックします。
- 「**アイテム」 > 「削除**」を選択します。「削除の確認」ダイアログボックスで、「**ギャラリーから削除** 」を選択して、「**OK**」をクリックします。
- 「編集」 > 「カット」を選択します。Command + X (Mac)、またはCtrl + X (Win) を押すこともできます。選択したアイテムはギャラリーから削除されますが、カタログからは削除されません。

ギャラリーの並べ替え

ファイルを並べ替えるには、各ギャラリーの1番上(メインツールバーのすぐ下)のステータスバーの右上隅にある、「並べ替え」メニューを使います。デフォルトでは、このメニューには「ソートなし」と表示されています。現在のギャラリーで使用する並べ替え基準をこのメニューから選択してください。デフォルトではギャラリー内のアイテムは、カタログ化された順番に並べられています。

「並べ替え」メニューを用いてギャラリーを並べ替えた後も、メニューには並べ替え時に使われたフィールド名が表示されているので、アイテムの並び順の基準が一目で分かります。また、アイテムをドラッグして自由にアイテムの順序を変えると、「並べ替え」メニューには「カスタム」と表示されます。

ギャラリーの自動的な並べ替え

Portfolioデータベース内の任意のフィールド名に基づいて、ギャラリーを自動的に並べ替えることができます。 *注意*:デフォルトの並べ替えを設定すると、ギャラリーの右上隅にある並べ替えメニューが上書きされます。

ギャラリーを自動的に並べ替えるには:

- 1. 並べ替えるギャラリーを開きます。
- 2. 「ギャラリー」 > 「設定」を選択します。
- 3. 「並べ替え」グループボックスで、「**カタログを開いたときにギャラリーをソートする」**オプションを チェックします。
- 4. ドロップダウンメニューから「使用するフィールド」と、並べ替えの「方向」を選択します。
- 5. 「OK」をクリックします。このギャラリーを最初に開くとき、アイテムは指定された並べ替え順序で自動的に並べ替えられます。ドロップダウンメニューから新しい並べ替え方法を選択するまで、アイテムは割り当てられた方法で並べ替えたままになります。

ギャラリーの並べ替えのカスタマイズ

ギャラリーは、ギャラリー内でファイルをクリックしてドラッグすることにより、どのような順序にでも並べ替 えることができます。この方法でギャラリーを並べ替えるすると、「カスタム」という並べ替え順が作成されま す。通常のギャラリーおよびスマートギャラリーでは、自動的にカスタムの並べ替え順序が保存されます。

カスタムの並べ替え順序はカタログレベルで適用されます。ギャラリーのカスタムの並べ替え順序が複数のユー ザーによって同時に変更される場合、カタログを開いた最後のユーザーの並べ替え順序が適用されます。またそ れ以外のユーザーは、次にカタログを開いたときに、新しい並べ替え順序を確認することができます。

注意: カスタムのギャラリーの並べ替えは、ウェブクライアントユーザーが確認することはできません。

カスタムの並べ替え順序をギャラリーに適用するには:

- 1. 並べ替えるギャラリーを開きます。
- 2. ファイルをクリックして新しい並べ替え順序にドラッグします。注意カスタムの並べ替え順序を自動的 に保存するには、「ギャラリーの設定」で「カタログを開いたときにギャラリーをソートする」オプシ ョンをチェックしないでください。「ギャラリー」 > 「設定」を選択してダイアログボックスを開き、 このダイアログボックスを表示します。

起動時にギャラリーを開く

カタログが最初に開くとき、特定のギャラリーが自動的に表示されるように指定できます。

起動時にギャラリーが開くように設定するには:

- 1. 選択したギャラリーを開きます。
- 2. 「ギャラリー」 > 「設定」を選択します。
- 「ギャラリーの設定」ダイアログボックスで、「**カタログを開くときにこのギャラリーを開く」**オプシ ョンを有効にします。
- 4. 「OK」をクリックします。このカタログが開くときは常に指定されたギャラリーが自動的に開きます。

ギャラリーの削除

ギャラリーを削除するには:

1. ギャラリー名を**右クリック**し、メニューから「**ギャラリーを削除」**を選択します。

または、「ギャラリー」パレットで、ギャラリー名を選択して、「**ギャラリーを削除**」ボタン をクリックします。



2. 「OK」をクリックすると、ギャラリーが削除されます。

ギャラリーの名前変更

ギャラリーの名前を変更するには:

- 「ギャラリー」パレットで、ギャラリー名をクリックしてハイライト表示します。
- 2. MacintoshのFinderまたはWindowsエクスプローラ内の操作と同様に、ハイライト表示されているギャラ リー名を再度クリックし、ギャラリー名を編集します。

ギャラリーのコピー

ギャラリーをコピーするには:

- 1. 「ギャラリー」パレットで、ギャラリー名をクリックしてハイライト表示します。
- 「**ギャラリー」 > 「別名で保存」**を選択します。
- 3. 新しいギャラリー名を入力し、「OK」をクリックします。新しいギャラリーはギャラリーリストに追加 され、前のギャラリーと同じすべてのアイテムを含みます。

スマートギャラリーの作成

スマートギャラリー とは、選択されるたびに保存した検索方法を自動的に実行するギャラリーのことです。

新しいスマートギャラリーを作成するには:

- 1. 「編集」>「検索」>「検索」を選択するか(Mac)、または「カタログ」>「検索」を選択し(Win)、「検索」ダイアログボックスを開きます。
- 2. 検索条件を入力します。この検索条件は、スマートギャラリーが選択されるたびに検索に使用されます
- 「保存済みの検索方法」から「スマートギャラリーとして保存」を選択します。
- 4. スマートギャラリーの名前を入力し、「OK」をクリックします。

以上で、Portfolioによって新しいスマートギャラリーが作成されます。スマートギャラリーが開くたびに、上記 の手順3で指定した「保存済みの検索方法」の検索条件に基づき、アイテムが検索および選択されます。

注意スマートギャラリーと保存済みの検索方法には、同じ名前が使用されます。

標準のギャラリーをスマートギャラリーに変更するには:

- 1. 選択したギャラリーを開きます。
- 2. 「ギャラリー」>「ギャラリーの設定」を選択します。
- 「ギャラリーの設定」ダイアログボックスで、「スマートギャラリー」オプションを有効にします。
- 4. ドロップダウンメニューから、保存済みの検索方法を選択します。
- 「OK」をクリックします。

スマートギャラリーが選択されるたびに、上記の手順4で指定した「保存済みの検索方法」の検索条件に基づき 、アイテムが検索および選択されます。

ギャラリーを公開または非公開に設定

多くの人が1つのカタログにアクセスする場合、ひとりのユーザーがアクセスするカタログにギャラリーを作成 すると役立ちます。Portfolioの「公開」および「非公開」の設定機能を使用して、ギャラリーを保護して自分だ けが見れるようにしたり、または非公開のギャラリーであっても読み取り専用に設定し、自分だけが変更を加え るように設定できます。

個人のギャラリーは1人のユーザーによって管理されるため、共有または非公開にギャラリーを指定するには、 ユーザー単位のアクセスで構成されるカタログで作業する必要があります。カタログを開く際にユーザー名およ びパスワードが要求される場合、ユーザーのカタログはユーザーベースのアクセスに設定されます。ユーザー単 位のパスワードにカタログを設定するには、ユーザー単位のパスワードの設定を参照してください。

非公開のギャラリーは、ギャラリーのアイコンに「目」が付いています。 **閾 №**



読み取り専用のギャラリーは、ギャラリーのアイコンが「ロック」されています。 📴 🛂

ギャラリーのプライバシー設定を変更するには:

- 1. 「**ギャラリー」 > 「アクセス権」**を選択します。または、ギャラリーの名前を**右クリック**して、メニュ ーから**「アクセス権」**を選択します。
- 2. ダイアログボックスで、「**公開ギャラリー**」または「**非公開ギャラリー**」ラジオボタンのいずれかを選 択して、アクセスレベルを指定します。
- 3. ギャラリーを共有にする場合、ギャラリーを閲覧専用にして自分だけが変更を加えるように設定するこ ともできます。これを行うには、「読み取り専用ギャラリー」オプションを有効にします。
- 4. 「OK」をクリックして、新しいギャラリーアクセス設定を適用します。

ギャラリーの管理者を変更するには:

注意:ギャラリーのオーナーシップを変更するには、現在ギャラリーを管理しているか、または管理者としてログインする必要があります。ギャラリーの新しい管理者は、カタログへのユーザー単位のログイン名およびパスワードをすでに持っている必要があります。

- 1. 「**ギャラリー」 > 「アクセス権**」を選択します。または、ギャラリーの名前を**右クリック**して、メニューから「**アクセス権**」を選択します。
- 2. ダイアログボックスで、ドロップダウンメニューから新しいユーザーを選択します。
- 3. 「OK」をクリックして、新しいギャラリーアクセス設定を適用します。

表示

1つのカタログには複数のギャラリーを含むことができ、各ギャラリーは保存されている多数の異なる表示方法を使用して表示できます。背景色、フォント、フォント色、サムネールサイズ、グリッドの間隔、フィールドデータといった表示属性の定義や、こうした設定の「保存済みの表示」への保存を簡単に行うことができます。

Portfolioには3つの主な表示の「タイプ」があります。それぞれのタイプはカスタマイズ可能で、独自に保存済みの表示の任意の数を作成できます。表示タイプを選択後、カスタマイズして保存済みの表示に保存します。その後、その表示を任意のギャラリーに適用できます。

3つの表示は、ツールバーの「表示」ボタンからすぐに使用できます。

Macintoshの「表示」ボタン



Windowsの「表示」ボタン



サムネール表示

Portfolioのデフォルトの表示であるサムネール表示は、小さなサムネールサイズのプレビューで構成される調整可能なグリッドにカタログ化されたアイテムを表示します。カタログ化された各アイテムに関する情報は、各サムネールの下に表示されます。

ツールバーの「**サムネール表示**」ボタンをクリックするか、**command + T**(Mac)、または **Ctrl + T**(Win) を押すことにより、サムネール表示に切り替えることができます。

任意のPortfolioフィールドの内容をサムネールの下に表示することを選択できます。「表示」>「表示設定」コマンドを選択し、4つの異なるサムネールサイズからの選択や、表示するフォント、サイズ、形式、およびデータフィールドの選択を行います。

リスト表示

リスト表示では、Portfolioカタログに保存してある情報がスプレッドシートのようなリスト形式で表示されます。デフォルトで、ファイル名、ファイルサイズ、変更時刻、ディレクトリのパスが一覧表示されますが、このフィールドセットは「表示」>「表示設定」コマンドを選択して編集できます。そこでは、リストの列に表示する詳細なフィールド情報を指定できます。

リスト表示に切り替えるには、ツールバーの「リスト表示」ボタンをクリックするか、 command + L(Mac)、または O(T) + L(Win)キーを押します。

アイテム表示

アイテム表示では、カタログ化された各アイテムと、それに関連付けられている並べ替え済みのデータを表示できます。この表示では、たとえば、ファイルに関連付けられたすべてのキーワードのリストを確認したり、説明の全体と入力したその他のカスタムフィールドデータを合わせて表示したりできます。各アイテムのプロパティを1つずつ開いて表示するのではなく、アイテムのセットに関する多くの詳細情報にアクセスするときにアイテム表示を選択します。

「表示」 > 「表示設定」コマンドを使用して、アイテム表示のフォント、色、サムネールサイズなどをカスタマイズすることもできます。

ツールバーの「 \mathbf{r} **アイテム表示**」ボタンをクリックするか、 $\mathbf{command} + \mathbf{R}$ (Mac)、または $\mathbf{Ctrl} + \mathbf{R}$ (Win)キーを押すことにより、サムネール表示に切り替えることができます。

ギャラリー表示のカスタマイズ

サムネール表示、リスト表示、アイテム表示をカスタマイズするには

- 「表示」 > 「表示設定」を選択します。
- Command + D (Mac) またはCtrl + D (Win) を押します。
- ツールバーの「表示設定」ボタン を押しします。

3つの表示タイプ(サムネール、リスト、アイテム)のすべてにおいて、画面上に表示する正確なデータフィールド とフィールド形式を選択できます。そうしたフィールドが表示される順序も指定できます。

「表示設定」ダイアログボックス内のフィールドのスクロールリストから表示に含めるフィールドを単純にチェ ックします。

フィールド表示のカスタマイズ

フィールド表示

3つの表示タイプ(サムネール、リスト、アイテム)のすべてにおいて、画面上に表示する正確なデータフィー ルドとフィールド形式を選択できます。そうしたフィールドが表示される順序も指定できます。

「説明」や「キーワード」など、一部のフィールドは複数行のテキストから構成されている場合があります。ア イテム表示をカスタマイズするとき、画面上にスクロールなしで表示されるテキストの行数をコントロールでき ます。

フィールドを表示/非表示にするには:

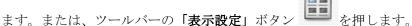
1. 「表示」 > 「表示設定」を選択します。または、Command + D(Mac)またはCtrl + D(Win)を押し



2. 「表示設定」ダイアログボックスの「表示するフィールド」リストで、表示するフィールドを選択しま す。各フィールド名の左側のチェックマークは、フィールドがアクティブであることを示します。チェ ックマーク列をクリックすると、フィールドのオンとオフが切り替わります。

フィールドの順序を変更するには:

1. 「表示」 > 「表示設定」を選択します。または、Command + D (Mac) またはCtrl + D (Win) を押し



「表示設定」ダイアログボックスの「表示するフィールド」リストで、リストのフィールド名をクリッ クして、要望の順番にドラッグします。

フィールド形式を変更するには:

各フィールドのフォントタイプ、サイズ、およびフィールド名を選択できます。各フィールドは独自の形式を持 つことができるので、表示設定を柔軟に行うことができます。

1. 「表示」 > 「表示設定」を選択します。または、Command + D (Mac) またはCtrl + D (Win) を押し



ます。または、ツールバーの「表示設定」ボタン を押します。

- 「表示設定」ダイアログボックスの「表示するフィールド」内で、ドロップダウンメニューから、フォ ント、フォントサイズおよびタイプを選択します。
- 3. フィールド名を表示するには、「フィールド名を表示」オプションを有効にします。

サムネールオプション

サムネールオプションのカスタマイズ

(サムネール表示とアイテム表示でのみ使用可能)

32ピクセル x 32ピクセルから256 ピクセル x 256ピクセルまでの、4つの異なる標準サイズから選択します。Port folioはファイルの最初のカタログ作成で生成したサムネールより大きなサムネールを表示できないことに注意してください。デフォルトで、Portfolioは112 x 112ピクセルのサムネールを生成するので、カタログで256 x 256のサムネールを表示する場合は、前の章の説明に従ってアイテムがカタログ化される前に、「カタログ作成の詳細オプション」ダイアログボックスでサムネールサイズをより大きく設定する必要があります。

すでにカタログ化されているアイテムに対して、より大きなサムネールを作成するには、「カタログ作成の詳細オプション」(「カタログ」>「詳細オプション」)を設定した後、「アイテム」>「サムネールの再作成」を選択し、Portfolioが新規サムネールを作成するように強制します。

カスタムサムネールフレームの作成

(サムネール表示とアイテム表示でのみ使用可能)

各サムネールの周囲にグラフィックな枠、つまりフレームを適用し、Portfolioカタログに独自の外観を与えることができます。フレームを適用するには、「フレーム」ドロップダウンメニューから定義済みのフレームのうちいずれかを選択します。任意のグラフィックアプリケーションを使用して、独自のフレームを作成することもできます。

PICT、TIFF、またはBMPファイルなど、任意のビットマップ画像からカスタムフレームを作成できます。Photos hopなどのグラフィックソフトウェアでフレームを作成後、フレームをPortfolioに単純にコピーおよび貼り付けし、カスタム表示に適用します。

カスタムフレームを追加するには:

1. グラフィックアプリケーションでフレームを作成します。サムネールの周囲にぴったり合ったフレームを作成するには、次の表に示すピクセル寸法に従います。

サムネールサイズ	フレームサイズ
32 x 32	40 x 40
64 x 64	80 x 80
112 x 112	140 x 140
256 x 256	320 x 320

- 2. フレームの透過色を設定します。Portfolioはフレーム画像の中央のピクセルを認識し、それを指定された 透過色として設定します。中央のピクセルと同じ色のフレーム部分は透明になります。このため、背景 色の一部が透けて見えるフレームを作成できます。背景色がフレームのどの部分でも透けて見えないようにする場合は、中央のピクセルをフレーム設計の他のどの場所でも使用されていない色に設定してください。
- 3. 完成したフレーム画像をグラフィックソフトウェアのクリップボードにコピーします。 フレーム画像をPhotoshopなどの、レイヤーを扱えるソフトウェアで作成した場合は、必ず最終画像の レイヤーを統合し、単一レイヤーだけではなく、画像全体をコピーしてください。
- 4. 新規フレームをPortfolioに貼り付けます。「表示設定」ダイアログボックスが開いていない場合は開き (Macの場合は**Command + D**、Winの場合は**Ctrl +**
 - D)、「フレーム」ドロップダウンメニューから「編集」を選択します。「新規」をクリックして、「フレームの設定」ダイアログボックスを開きます。次に、「ペースト」をクリックして、フレーム画像を貼り付けます。また、画像編集ソフトウェアからフレーム画像を標準のPICT、TIFF、またはBMPファイルとして保存した後、「フレームの設定」ダイアログボックスの「インポート」ボタンを使用してフレームをPortfolioにインポートすることもできます。
- 5. フレームに名前を付けて保存します。「フレームの名前」フィールドに名前を入力し、「**保存」**をクリックします。「フレーム」リストで「**OK」**をクリックし、「ギャラリーの設定」ダイアログボックスに戻ります。
- 6. フレームを表示に適用します。「フレーム」メニューから新しく保存したフレームを選択し、「**適用」**をクリックします。

新しいデフォルトフレームをカタログに追加する

Portfolio

Serverでカタログを作成した際に、デフォルトのサムネイルフレームがカタログに追加されます。デフォルトのサムネイルフレームはすべてサーバー上の以下の場所にあります。

Macintosh ψ -N-: rJJh-v=V/Extensis/Portfolio Server/data/catalog-settings/English/borders/

あなたの作成したフレームをデフォルトに追加して、すべての新規カタログ内で利用できるようにするには、作成した画像ファイルを上記の場所に入れてください。フレームのファイルフォーマットは、それぞれのプラットフォーム用に特定のファイルである必要があります。フレームファイルはWindowsではGIFファイル形式、Macint ohはJPGファイル形式で保存してください。

サムネールフレームのコピーおよび貼り付け

あるPortfolioカタログから別のカタログへカスタムフレームをコピーすることができ、お気に入りのフレームを 新規カタログに転送できます。

フレームを別のカタログにコピーするには:

- 1. 「表示」 > 「表示設定」を選択します。または、Command + D(Mac)またはCtrl + D(Win)を押し
 - ます。または、ツールバーの「表示設定」ボタン を押します。
- 2. 「表示設定」ダイアログボックスの「表示するフィールド」リストで、「フレーム」ドロップダウンメニューから「**編集**」を選択します。
- 3. 「フレーム」ダイアログボックスに一覧表示される保存済みのフレームからコピーするフレームを選択します。「**編集**」をクリックします。
- 4. 「フレームの設定」ダイアログボックスで「**コピー」**をクリックし、フレーム画像をクリップボードに 転送します。
- 5. フレームを「**貼り付け**」ます。フレームを別のカタログに貼り付けるか、画像編集ソフトウェアに貼り付けて修正することができます。

保存した表示

カスタム表示の保存

フォント、背景色、フレームの変更や、さまざまなフィールドの表示、非表示など、表示のカスタマイズを行った後、こうしたすべての属性を保存済みの表示として保存できます。その後いつでも、「保存済みの表示」メニューを使用して、この表示をカタログ内の任意のギャラリーに適用できます。Portfolioのデフォルトのカタログ構成の一部として、あらかじめ定義されたいくつかの保存済みの表示が含まれています。「保存済み表示」メニューは、メインウィンドウの右上、「並べ替え」メニューの左に表示されます。



表示を保存するには:

- 「表示」 > 「表示設定」を選択するか、またはCommand + D (Mac)、またはCtrl + D (Win) キーを押します。
- 2. 必要な表示を設定して、その設定を現在のギャラリーウィンドウに適用します。
- 3. ギャラリーウィンドウの上部に表示されるステータスバーの「並べ替え」メニューの左側で、「デフォルト表示」ドロップダウンメニューから「名前を付けて保存」(または「別名で保存」)を選択します
- 4. 表示に名前を付けて、「OK」をクリックします。
- 5. 保存した表示の名前が「デフォルト表示」メニューに表示されます。

保存済みの表示の名前変更または削除

保存済みの表示の名前変更または削除を行うには:

- 1. 「デフォルト表示」メニューから「**リストを編集**」を選択します。
- 2. 名前変更または削除する表示をリストから選択し、「**名前変更」**ボタンまたは「**削除**」ボタンをクリックします。

保存済みの表示の適用

• 保存済みの表示を適用するには「デフォルト表示」メニューから表示の名前を選択します。「デフォルト表示」メニューは、メインウィンドウの右上、「並べ替え」メニューの左に表示されます。



カスタム表示をデフォルトとして保存

現在の表示設定をカタログの新規デフォルト表示として割り当て、カタログで新しいカタログまたはギャラリーが作成されるたびにその表示を使用できます。このように保存済みの設定をデフォルト設定といい、要望に応じてどのようにカスタマイズすることもできます。

現在の表示をデフォルトとして保存するには:

- 1. 「表示」 > 「表示設定」を選択します。または、Command + D(Mac)またはCtrl + D(Win)を押し
 - ます。または、ツールバーの「表示設定」ボタン を押します。
- 2. 「表示設定」ダイアログボックスの「表示するフィールド」リストで、「デフォルトとして保存」ボタン (左下) をクリックします。

注意:デフォルト設定を保存すると、サムネール、リスト、およびアイテムのすべてのタイプに対して保存されます。

デフォルト設定を読み込むには:

- 1. 「表示」 > 「表示設定」を選択します。または、Command + D(Mac)またはCtrl + D(Win)を押し
 - ます。または、ツールバーの「表示設定」ボタン == を押します。
- 2. 「デフォルトに戻す」ボタンをクリックします。デフォルト設定が「表示設定」ダイアログボックスに 読み込まれます。
- 3. 「OK」をクリックしてデフォルト設定を適用します。

保存済みの表示のエクスポート

保存済みの表示をエクスポートするには:

- 1. 「デフォルト表示」のドロップダウンメニュー(各ギャラリーの右上隅にある)から「**リストの編集」** を選択します。
- 2. 「保存済みのビュー」ウインドウから、エクスポートを行う表示を選択します。
- 3. 「**エクスポート**」ボタンをクリックします。
- 4. エクスポートされた表示の名前と保存場所を指定します。拡張子が .pvw のファイルとして保存されます。「保存」をクリックします。

Portfolio Server

アプリケーションフォルダ内の「保存済みのビュー」フォルダにある表示は、すべての新しいカタログに自動的 に含まれます。

保存済みの表示のインポート

Portfolioのインポートとエクスポートの機能を使って、保存済みの表示とサムネールのフレームをカタログからカタログへと転送することができます。

注意:Portfolio Server

アプリケーションフォルダの「保存済みのビュー」ディレクトリと「フレーム」ディレクトリにそれぞれ置かれた、保存済みの表示とフレームのファイルは、新しいカタログを作成する際に、自動的に新しいカタログに含まれます。

保存済みの表示をインポートするには:

- 1. 「デフォルト表示」のドロップダウンメニュー(各ギャラリーの右上隅にある)から「**リストの編集**」 を選択します。
- 2. 「保存済みのビュー」ウインドウで、「インポート」ボタンをクリックします。
- 3. 「保存済みのビュー」フォルダ(Portfolio Server アプリケーションフォルダ内) または表示ファイルをエクスポートした別の場所の、保存済みの表示のファイル (pvw ファイル形式) を選択します。
- 4. 「完了」をクリックします。

Portfolioによるファイルの管理

Portfolioカタログを作成し、独自のデジタルファイルを保存した後、作業の表示、整理、管理を簡単にする機能が多数用意されています。これには以下のタスクが含まれます。

- 画像、オーディオおよびビデオクリップ、その他の文書をプレビューする
- 各ファイルの詳細情報を取得する
- オリジナルファイルを編集する
- 画像を回転させる
- ファイルを新規ファイル形式にバッチ変換する
- ファイルの名前を変更する
- カタログを最新の状態に維持する
- カタログ化されたファイルを別のソフトウェアに容易にドラッグする
- ギャラリー内の画像を印刷する

アイテムのプレビュー

Portfolioはほとんどの画像、ムービー、およびサウンドファイルを直接開くことができるので、カタログ化されたアイテムをすばやくプレビューできます。このため、アイテムを表示するために、アイテムの作成に使用されたソフトウェアを起動する手間が省けます。

注意:一部のファイルタイプはプレビューできません。Portfolioがファイルをプレビューできない場合、ファイルを作成したソフトウェアを使用して表示するかどうかを要求されます。

アイテムをプレビューするには:

- 任意のギャラリーでサムネールをダブルクリックします。
- アイテムを選択し、Command + Option + I (Mac)、またはCtrl + Shift + I (Win) をクリックします。
- 「アイテムのプロパティ」ウインドウでサムネールをダブルクリックします。
- サムネールを**右クリック**して、メニューから「**プレビュー**」コマンドを選択します。

注意:デフォルトで、Portfolioはサムネールがダブルクリックされたときにファイルをプレビューしますが、この動作を「ユーザー環境設定」ダイアログボックスで変更することにより、「アイテムのプロパティ」ウインドウを開くか、ダブルクリックでオリジナルファイルの編集に変更できます。「編集」 > 「環境設定」を選択するか(Win)、「Portfolio」 > 「環境設定」を選択し(Mac)、「一般」タブでダブルクリックした結果を「プレビューの表示」、「プロパティの表示」、または「オリジナルの編集」に設定します。

アイテムのプロパティの表示と編集

Portfolioは、カタログ化するすべてのファイルに関する非常に詳細な情報を保存します。この情報には、Portfolio そのものがカタログ作成中に収集するデータとして、各ファイルの作成日、ファイルサイズ、画像寸法、ファイルタイプなどが含まれます。また、Portfolioアイテムには、追加可能なメタデータ情報(たとえば説明やキーワード)や、カスタムフィールドを使用して追加できるその他のデータも含まれます。こうした情報は「プロパティ」ダイアログボックスに表示されます。

「アイテムのプロパティ」を開くには:

- 1. サムネールを選択します。
- 2. ツールバーから「プロパティ」ボタンをクリックします。または、Command + I (Mac) またはAlt + Enter (Win) を押します。
- 3. 「概要」、「キーワード」、「フィールド」の各タブを切り替えて、各ファイルの詳細を表示します。

「アイテムのプロパティ」ナビゲーション

「アイテムのプロパティ」ダイアログボックス下部の4つのナビゲーションボタン(「最初」、「次へ」、「前へ」、「最後」)を使用して、選択したアイテム間を移動できます。このため、「アイテムのプロパティ」ウインドウを繰り返し開いたり閉じたりせずに、一連のアイテムに関する情報へのアクセスが簡単になります。

以下のキーボードショートカットを使用して、「アイテムのプロパティ」内のアイテム間を移動することもできます。

操作	ショートカット
次のアイテムに移動する	Ctrl-右矢印(Win) Command-右矢印(Mac)
前のアイテムに移動する	Ctrl + 左矢印(Win) Command + 左矢印(Mac)
「概要」、「キーワード」、「フィールド」の各タブを切り替える	Ctrl + Tab (Win)

オリジナルファイルの編集

カタログ化されたファイルを編集するために、Portfolioから他の任意のソフトウェアに直接移動できます。

オリジナルファイルを編集するには:

- 1. 任意のPortfolioギャラリーで、編集するアイテムを選択します。
- 2. 「**アイテム」 > 「オリジナル」 > 「編集」**の順に選択します。または、**Command + E** (Mac) または **Ctrl + E** (Win) を押します。
- 3. Portfolioはオリジナルファイルを編集するために必要なソフトウェアを起動し、そのプラグラムでファイルを開きます。

Portfolioは一般に、特定のファイルタイプを編集するために、最後に使用されたソフトウェアの名前と場所を記憶しています。必要があれば(特定のタイプのファイルを初めて編集しようとしたときなど)、アプリケーションを選択するように要求されます。Portfolioは選択した情報を将来のために記憶します。

ファイルの移動、コピー、削除

オリジナルファイルの移動、コピー、名前変更、および削除のすべてをPortfolioの中で実行できます。オリジナルファイルで実行するすべてのアクションは、「アイテム」メニューの「オリジナルファイルの操作」サブメニューからアクセスできます。

ファイルをコピーするには:

- 1. 任意のPortfolioギャラリーで、コピーするアイテムを選択します。
- 2. 「アイテム」 > 「オリジナル」 > 「コピー」の順に選択します。
- 3. ダイアログボックスで、コピーされるファイルの宛先フォルダを選択し、「**選択**」(Mac)または「**OK**」(Win)をクリックします。Portfolioは、選択されているファイルを指定されたフォルダにコピーします。オリジナルファイルはそのまま残ります。

ファイルを移動するには:

- 1. 任意のPortfolioギャラリーで、移動するアイテムを選択します。
- 2. 「アイテム」 > 「オリジナル」 > 「移動」の順に選択します。
- 3. ダイアログボックスで、移動されるファイルの宛先フォルダを選択し、「**選択**」(Mac)または「**OK**」 (Win)をクリックします。Portfolioはオリジナルファイルを指定された新規フォルダの場所に移動し、カタログを更新して、カタログ化されたアイテムの新しい場所を自動的に記録します。

注意:ファイルのコピーはカタログに影響しません。ただし、ファイルを移動するとPortfolio内で更新され、パスはファイルの新しい場所を指すようになります。

ファイルを削除するには:

- 1. 任意のPortfolioギャラリーで、移動するアイテムを選択します。
- 2. 「アイテム」 > 「オリジナル」 > 「削除」の順に選択します。
- 3. 警告ダイアログボックスで、「**削除**」または「**すべて削除**」をクリックします。Portfolioはディスクから オリジナルファイルを削除します。

画像のバッチ変換

Portfolioは、画像をサポートされているファイル形式から JPEGまたはTIFF形式にバッチ変換することができます。ファイルをJPEG形式またはTIFF形式に変換する場合、画像の解像度、サイズ、カラーモード、ディスク上の場所を変更できるほか、変換されたファイルをディスクに自動的に追加することもできます。

注意:埋め込まれたメタデータは、新しいファイル形式でサポートされる場合、新規ファイルに転送されます。EXIFメタデータのTIFFファイルへの埋め込みは現在サポートされていません。

注意: すべてのバッチ変換処理は、Portfolio Server によって行わるため、コンピュータによる処理を解消します。よって、Portfolio Server はカタログ作成するすべてのファイルへのアクセスを持っている必要があります。一般的には、ネットワーク共有上にあるファイルを選択してください。

画像グループをバッチ変換するには:

- 1. バッチ変換するアイテムを選択します。個別のサムネールを選択するか、複数のサムネールを選択できます。複数のサムネールを選択するには、**Command**キー(Mac)または**Ctrl**キー(Win)を押しながら、各選択対象をクリックします。
- 2. 「**アイテム」 > 「画像の一括変換」**を選択します。
- 3. 「画像の一括変換」ダイアログボックスで、宛先のファイル形式を選択します。JPEGを選択する場合、 「**設定」**をクリックして圧縮率または画質レベルを設定します。
- 4. ドロップダウンボックスからカラーモードを選択します。
- 5. 画像解像度を変更するには、「解像度」オプションをチェックし、新しいDPIを指定します。
- 6. 画像サイズを変更するには、「**サイズ変更**」オプションを有効にし、新しいサイズを識別する方法を指定します。
 - 「パーセントで指定」 1%から500%までの範囲で倍率を変更します。
 - 「画像の拡大/縮小」 -
 - このオプションは選択された高さと幅に合うように画像を比例して倍率変更します。
 - 「画像エリアの拡大/切り取り」 -
 - このオプションは、元の縦横比を維持しながら、新しい領域の4辺すべてに合うように画像を拡大します。定義された領域を超えた辺から画像の均等な部分がトリミングされます。
- 7. 新しい画像を保存する方法を選択します。
 - 「ファイルの保存場所を尋ねるダイアログボックスを表示する」 「変換」をクリックすると、Portfolioはディレクトリを指定するよう要求します。
 - 「オリジナルファイルを新規ファイルで置換する」
 - 「オリジナルと同じフォルダ内」 -
 - 新しいファイル拡張子により、ファイルの名前が現在のファイルと同じになる場合は、ファイルの名前が適切に変更されます。たとえば、「bunny.jpg」は「bunny1.jpg」となります。
- 8. 変換された画像を現在のPortfolioカタログに追加する場合は、「新規画像をカタログに追加」オプションをチェックします。*注意*:新規画像をカタログに追加するには、管理者または発行者のアクセスレベルを持っていなければなりません。
- 9. 「変換」をクリックします。

画像の回転

PortfolioはJPEG画像を回転させることができ、ファイルを個別に開き、編集することなく、デジタル写真の向きを縦から横へ(またはその逆に)簡単に切り替えることができます。これは、デジタルカメラから多数の写真をカタログ化し、調整の必要な横向きまたは縦向きの写真が組み合わされている場合、特に便利です。

注意:PortfolioはJPEG画像のみを回転させます。他の形式で保存済みの画像を回転させるには、画像編集ソフトウェアでファイルを開き、編集アプリケーション内で回転を実行する必要があります。

JPEG画像を回転させるには:

1. 回転させるアイテムを選択します。

個別のサムネールを選択するか、複数のサムネールを選択できます。複数のサムネールを選択するには、Command キー (Mac) またはCtrlキー (Win) を押しながら、各選択対象をクリックします。

- 2. 「**アイテム」 > 「オリジナルファイルを回転(JPEG画像のみ)」** を選択して、以下の3つのオプションのいずれかを選択します。
 - 時計回りに90度回転
 - 反時計回りに90度回転
 - 180度
- 3. 各アイテムが回転する際、進行状況ダイアログボックスが表示されます。

画像をすばやく回転させるために、Command +]キーを押すか(Mac)、またはCtrl +]キーを押して(Win)、選択した画像を時計回りに回転させるか、Command+ [キーを押すか(Mac)、またはCtrl + 「を押して(Win)、選択した画像を反時計回りに回転させることができます。

サムネールのみを回転

Portfolioでは任意の画像のサムネールのみを回転させ、オリジナルをそのままにしておくことができます。

アイテムのサムネールを回転するには:

1. 回転するサムネールのアイテムを選択します。

個別のサムネール、または複数のサムネールを選択できます。複数のサムネールを選択するには、Command キー (Mac) またはCtrlキー (Win) を押しながら、各選択対象をクリックします。

- 2. 「**アイテム」 > 「サムネールを回転** を選択して、以下のサブメニューオプションのいずれかを選択します。
 - 時計回りに90度回転
 - 反時計回りに90度回転

ファイル名を変更

Portfolioは、カタログ化するオリジナルファイルの名前を簡単に変更するための方法を5つ用意しています。

- 「カタログ作成オプション」の「名前の変更」機能を使用して、ファイルをカタログ化するときに名前 を変更できます。これは、デジタルカメラやスキャナからインポートするファイルに名前を付けるとき に便利です。
- サムネールを選択し、「アイテム」 > 「オリジナルファイルの操作」 > 「ファイル名を変更」の順に選択して、「ファイル名を変更」ダイアログボックスで新しい名前を入力することにより、個別のファイルを名前変更します。
- サムネールを選択し、Command + Option + N (Mac)、またはCtrl + Shift +
 N (Windows)、「ファイル名を変更」ダイアログボックスで新しい名前を入力します。
- カタログ内の任意のアイテムの「アイテムのプロパティ」ウィンドウを開いて、「名前」フィールドで新しい名前を入力します。「アイテムのプロパティ」を開くには、サムネールを選択して、ツールバーの「プロパティ」ボタンをクリックするか、Command + I(Mac)、またはAlt + Enter(Win)キーを押します。
- スライドショーの途中で、スライドショーコントローラの「**名前変更」**ボタンをクリックし、「ファイル名を変更」ダイアログボックスで新しい名前を入力します。

別のファイルへ再リンク

特定の状況下で、Portfolioアイテム(その説明、キーワード、その他のデータを含む)を保持しながら、アイテムをまったく異なるファイルにリンクする場合があります。たとえば、画像を編集し、「別名で保存」コマンドを使用して、ファイルを新しい名前で保存することがあります。Portfolioはファイルの新しいバージョンを指しますが、古いアイテムに保存したすべての情報を保持する場合です。

この処理は「**別のファイルに再リンク**」コマンドを使用して行うことができ、任意の既存アイテムを異なるオリジナルファイルに結びつけることができます。

既存のアイテムを新規オリジナルファイルにリンクするには:

- 1. 再リンクするアイテムのサムネールを選択します。
- 2. 「アイテム」 > 「オリジナルファイルの操作」 > 「別のファイルに再リンク」を選択します。
- 3. 別のファイルを指定します。
- 4. Portfolioはカタログ内の既存のアイテムにリンクされているファイルをカタログ化し、アイテムを新規情報(新規サムネール画像など)で更新します。

注意別のファイルに再リンク後、Portfolioカタログ内のメタデータを新規ファイルに埋め込むことができます。 詳しくは、メタデータの埋め込みを参照してください。

カタログ化されたアイテムを他のソフトウェアヘドラッグ

Portfolioはファイルの管理と整理を行うための完璧な機能ですが、創造的な作業のほとんどはおそらくPortfolioの外で発生するものです。つまり、画像の編集、文書の作成、プレゼンテーションの作成、印刷物のページレイアウト、ウェブコンテンツの開発などは、他のソフトウェアで行われます。

Portfolioからこうした他のアプリケーションへの移動は通常、単純なドラッグアンドドロップ操作で済みます。Portfolioを使用して、他のソフトウェアで簡単に画像の作業を行う方法をいくつか以下に示します。

- サムネールをドラッグアンドドロップ対応文書にドラッグし、その文書内に画像のコピーを配置する。
- サムネールをAdobe Photoshop®、Illustrator®、Corel Paint Shop Pro といった画像編集ソフトウェアのエイリアス(またはショートカット)の上にドラッグし、そのソフト ウェアで画像を開く。
- サムネールをデスクトップまたはフォルダウインドウにドラッグし、その場所にオリジナルファイルの コピーを作成する。
- サムネールを電子メールメッセージにドラッグし、添付ファイルとしてオリジナル画像のコピーを送信する。
- Portfolio Quark XTensionがインストールされているMacintoshの場合、サムネールをQuarkXPress®ドキュメントにドラッグし、画像をXPressレイアウトに配置する。サムネールをピクチャボックスにドロップした場合、選択されている画像は既存のピクチャボックスに配置されます。それ以外の場合、Portfolioは画像に対する独自の新しいピクチャボックスを作成します。

アイテムの更新

カタログ化されたすべての情報の更新

「更新」コマンドは、選択された各アイテムについて、最初にカタログ化された後に変更されたものを完全に更新します。その処理には、各ファイルの場所の確定(必要があれば、ユーザーが特定する)、設定の抽出、新しいサムネールの作成が含まれます。「更新」コマンドは、カタログ化された後に変更されたアイテム(新しい変更日で示される)のみを更新します。

カタログ化されたすべての情報を更新するには:

1. 更新するアイテムを選択します。

すべてのアイテムを更新するには、「ギャラリー」パレットから「すべてのアイテム」ギャラリーを開きます。

- 2. 「**編集」 > 「すべて選択」**を選択します。または、**Command + A**(Mac)または**Ctrl + A**(Win)を押します。
- 3. 「**アイテム」 > 「更新」**を選択します。または、**Command + U**(Mac)または**Ctrl + U**(Win)を押し

ます。または、ツールバーから「**更新**」ボタン をクリックします。

Portfolioは、アイテムに保存されているパス名を使用して、各アイテムのソースファイルを検索します。ソースファイルが見つかり、その変更日がPortfolio内にもともと記録されている日付より新しい場合、アイテムは更新されます。ソースファイルが見つからない場合は、特定するように要求されます。選択されているアイテムに対して新しいファイルを選択した場合、アイテムは現在の「カタログ作成の詳細オプション」設定に基づき、新しいファイルの情報によって更新されます。

ソースファイルが見つからず、ファイルを特定するように要求されて「**このファイルをスキップ**」をクリックした場合、選択されたアイテムはそのままの状態になります。

オリジナルファイルの場所の更新

ファイルが新しい場所に移動されたが他に何も変更がない場合、「パスの変更」コマンドを使用してすばやく更新できます。

- 1. パスを更新するアイテムを選択します。
- 2. 「アイテム」 > 「パスの変更」を選択します。
- 3. 「更新」ダイアログボックスが開き、指定されたファイルの新しい場所を見つけるように要求されます
- 4. ファイルを選択し、「**選択**」(Mac)または「**開く**」(Win)をクリックします。Portfolio内のアイテムは、オリジナルファイルの正しい場所を指すようになります。

この方法を用いてファイルを更新すると、Portfolioは自動的に同じディレクトリ内で更新する必要がある他のファイルを検索し、同様に更新を提供します。「場所の更新」ダイアログボックスで「サブディレクトリの検索」オプションを有効にしている場合、Portfolioはサブフォルダについても一致するファイルを探します。

ドラッグ&ドロップによるパスの更新

カタログ内にある一部のファイルを移動したことが分かっている場合、新しいパス情報でカタログを更新するためのより簡単な方法があります。それは、ドラッグアンドドロップを使用する方法です。この方法は、カタログ化されたファイルを新しい場所に移動し、ファイル名を変更していない場合に限り使用できます。

- 1. MacintoshのFinderまたはWindowsエクスプローラで、移動されたファイルのアイコンを選択します。
- 2. **Option**キー (Mac) または**Ctrl**キー (Win) を押しながら、アイコンをPortfolioカタログにドラッグします。必ず、ファイルが移動される前に、もともとカタログ化されたときと同じカタログの中にファイルをドラッグしてください。
- 3. Portfolioはダイアログボックスを表示し、これらのファイルのパスを更新することを確認します。
- 4. 「OK」をクリックします。これによって更新されるのはファイルのパスだけで、サムネールや他の設定は更新されないことに注意してください。

サムネールを再作成するための更新

この更新コマンドにより、Portfolioは選択された各ファイルを再確認し、最新のサムネール画像を作成します。これは最初、112ピクセルのサムネール設定でアイテムをカタログ化した後、256ピクセルのサムネールが必要になった場合などに便利です。

サムネールを再作成するには:

- 1. 新規サムネールを作成するアイテムを選択します。
- 2. 「アイテム」 > 「サムネールの再作成」を選択します。
- 3. Portfolioは各ファイルを再確認し、新規サムネールを作成します。

ファイルを検索

Portfolioの最も重要な機能の1つは、必要なときにデジタルファイルを検索し取り出すことができることです。カタログ化されたデータを詳しく検索するいくつかのツールが利用できます。

クイック検索

Portfolioで最も簡単で使いやすい検索機能は、ツールバーの右側にある「クイック検索」ボックスです。「クイック検索」では、任意のフィールドの組み合わせに基づいて、現在のギャラリーの中からファイルを検索することができます。「クイック検索」ではボタンをクリックしたり、メニューをプルダウンしたり、「検索」ダイアログボックスを開いたりする必要はありません。「クイック検索」が、ファイルの検索を行う、最も速くて簡単な方法です。

クイック検索を行うには:

1. 「クイック検索」ボックスの中をクリックします。



- 2. 単語またはフレーズをボックスに入力して、Enterキーを押します。「クイック検索」はデフォルトでは、ファイル名と説明フィールドを「を含む」で検索を行い、キーワードフィールドのような複数の値を持つフィールドは「で始まる」で検索を行います。
- 3. 一致するアイテムが 「検索結果」のギャラリーに表示されます。

注意:「クイック検索」ボックスで入力したテキストは、Enterキーを押して検索を行った後でも選択されたままになっています。別の「クイック検索」を行うには、検索に用いる別の単語やフレーズを入力してReturnキーを押すだけです。

同じギャラリー内での複数検索

「クイック検索」は現在のギャラリーだけを検索するので、特定のアイテムを探し出すために検索内容をすばや く改良できます。

たとえば、「鳥」というキーワードを含むアイテムをすべて検索する場合は以下のように行います。

- 1. 「ギャラリー」パレットで

 「すべてのアイテム」のギャラリーを選択します。
- 2. 「クイック検索」フィールドに「鳥」を入力し、キーボードでEnterキーを押します。 「検索結果」のギャラリーに結果が表示されます。
- 3. 次に、「鳥」を含むアイテムでキーワードに「赤」を持つものだけに検索結果を改良します。「クイック検索」フィールドに「赤」を入力し、Enterキーを押します。Portfolioは現在のギャラリー(つまり「鳥」の「クイック検索」結果を含むギャラリー)だけを検索して、その中で見つかったアイテムを表示します。

「検索」コマンドの使用

多くのPortfolioユーザーにとっては、「クイック検索」ボックスを使った簡単な複数フィールドの検索で十分満たされます。しかし、Portfolioの高度な検索エンジンを使えば、複数の検索条件を用いた複雑な検索を行うことも可能です。複雑な検索方法を保存すると、最小の労力で同じ検索を再び行うこともできます。保存した検索方法をギャラリーに適用して、開かれるたびに保存した検索を実行する「スマートギャラリー」を作成することもできます。Portfolioの「検索」コマンドを使えば、特定の検索パラメータを用いて、任意のフィールドを任意の組み合わせで検索することができます。

「検索」ダイアログボックスにアクセスするには:

- ツールバーから「検索」ボタン をクリックします。
- 「カタログ」 > 「検索」を選択するか(Win)、または「編集」 > 「検索」 > 「検索」の順に選択します(Mac)。
- Command + F (Win) または Ctrl + F (Mac) を押します。

特定のアイテムの検索

特定のアイテムの検索:

- ツールバーから「検索」ボタンをクリックします。または、「カタログ」 > 「検索」を選択するか(Win)、または「編集」 > 「検索」 > 「検索」の順に選択します(Mac)。または、Ctrl + F(Win) または Command + F(Mac)を押します。
- 2. 「フィールド」メニューから検索に使用するフィールドを選んで、検索に用いる条件を選択します。
- 3. 真ん中のメニューから一致オプションを選択します。検索を行うフィールドによって、8~14種類のオプションがあります。「と等しい」や「と一致する」を用いて正確な言葉を検索したり、「を含む」や「以外で終わる」を用いてもう少し緩やかな条件で検索したりできます。
- 4. 必要に応じて、他の検索オプションも選択します。
- 現在のギャラリー内で検索:このチェックボックスをオンにすると、Portfolioは現在のギャラリーにある アイテムのみを検索し、カタログ内の他のすべてのアイテムは無視されます。これは、目標のファイル に焦点を合わせるために、段階的に条件を狭めて検索を行う場合に便利です。カタログ内で条件に一致 するすべてのアイテムを検索する場合は、このオプションのチェックが外されていることを確認してく ださい。
- 複数のカタログを検索:複数のカタログを開いていない場合は、このオプションは選択できません。複数 のカタログを開いている場合は、このオプションを選択し、開いているすべてのカタログでアイテムを 検索できます。詳細については、この章の「複数のカタログを検索」を参照してください。
- 新規一時ギャラリーに結果を表示:このオプションを選択すると、新しいギャラリーが作成され、検索結果をそのギャラリーに表示します。デフォルトでは、検索結果は「検索結果」ギャラリーに表示されます。
- 5. 「検索」をクリックして検索を開始します。

複数の条件による検索

「検索」ダイアログボックスを使えば、複数の条件(ファイルタイプ、作成日、およびキーワードの一致)に基づいて、より複雑な検索を行うことができます。

複雑な検索を行うには:

- 1. 「検索」ダイアログボックスで、「条件を追加」ボタン(Win)または「+」ボタン(Mac)をクリックして、追加の検索条件を含めるようにダイアログボックスを拡大します。ダイアログボックスを拡大して、最大5個まで検索条件を指定することができます。条件を増やした後で、より簡単な検索をするために「条件を減らす」ボタン(Win)または「-
 - 」ボタン (Mac) をクリックして、条件を減らすことができます。
- 2. 左の「フィールド」プルダウンメニューから検索に使用するフィールドを選んで、検索に用いる条件を 選択します。
- 3. 真ん中のメニューから一致オプションを選択します。検索を行うフィールドによって、8~14種類のオプションがあります。「と等しい」や「と一致する」を用いて正確な言葉を検索したり、「を含む」や「以外で終わる」を用いてもう少し緩やかな条件で検索したりできます。
- 4. 必要に応じて、他の検索オプションも選択します。
- 現在のギャラリー内で検索:このチェックボックスをオンにすると、Portfolioは現在のギャラリーにある アイテムのみを検索し、カタログ内の他のすべてのアイテムは無視されます。これは、目標のファイル に焦点を合わせるために、段階的に条件を狭めて検索を行う場合に便利です。カタログ内で条件に一致 するすべてのアイテムを検索する場合は、このオプションのチェックが外されていることを確認してく ださい。
- 複数のカタログを検索:複数のカタログを開いていない場合は、このオプションは選択できません。複数 のカタログを開いている場合は、このオプションを選択し、開いているすべてのカタログでアイテムを 検索できます。詳細については、この章の「複数のカタログを検索」を参照してください。
- 新規一時ギャラリーに結果を表示:このオプションを選択すると、新しいギャラリーが作成され、検索結果をそのギャラリーに表示します。デフォルトでは、検索結果は「検索結果」ギャラリーに表示されます。
- 5. 検索を調整するために、各検索行の「および/または」のメニューを設定します。
- 「検索」をクリックして検索を開始します。
- 7. 「検索結果」のギャラリーに結果が表示されます。

「検索条件」オプション

注意 カタログタイプによって、これらのすべての条件にアクセスできない場合があります。

フィールド名	検索条件
カメラのメーカー	画像を作成したカメラのメーカーを含むカスタムテキストフィールド
カメラのモデル	画像を作成したカメラのモデルを含むカスタムテキストフィールド
カタログ登録日	アイテムが最初にPortfolioにカタログ化された日付と時刻
カタログ登録者	アイテムをPortfolioにカタログ化したユーザーID
最終変更日	アイテムが最後に変更された日付と時刻
最終変更者	アイテムを最後に変更したユーザーID
カラーモード	カラーモード:不明、白&黒、グレースケール、RGB、CMYK、YUV、Lab、YCKK
著作権	著作権情報を含むカスタムテキストフィールド
著作権状況	著作権状況の情報を含むカスタムテキストフィールド
作成日	オリジナルファイルが作成された日付
クリエータ (Mac)	アイテムの4文字のファイルクリエータ(Windowsでカタログ化された場合は空白)
説明	アイテムのファイルの説明
説明作成者	説明を書いたユーザーIDを含むカスタムテキストフィールド
ディレクトリパス	アイテムのフルディレクトリパス (ファイル名は含まない)
ドキュメントのタイトル	ドキュメントのタイトルを含むカスタムテキストフィールド
拡張子	アイテムの3文字のファイル拡張子
ファイルサイズ	アイテムのファイルサイズ
ファイル名	アイテムの名前
ファイルタイプ(Mac)	アイテムの4文字のファイルタイプ(Windowsでカタログ化された場合は空白)
高さ	アイテムの高さ、ピクセル数(サムネールが抽出された場合は空白)
水平解像度	アイテムの水平解像度、dpi
キーワード	アイテムに割り当てられた任意のキーワード
修正日	オリジナルファイルが最後に修正された日付

フィールド名	検索条件
ページ数	特定のページアイテム数
パス	アイテムのファイルパス(ロケーション)、ファイル名を含む
送付先	アイテムが送付されたユーザーのIDを含むカスタムテキストフィールド
ショートファイル名(Win)	16ビットのDOSパスとファイル名
サムネールサイズ	アイテムのサムネールサイズ(ピクセル):32(アイコン)、64、112、256。
垂直解像度	アイテムの垂直解像度、dpi
ボリューム	アイテムの存在する物理ドライブまたはディスク
透かし付き	指定された透かし付きのアイテム
透かしのURL	指定された透かしのURL付きアイテム
Webサイト	Webアドレスを含む「URLの設定」フィールド
幅	アイテムの幅、ピクセル数(サムネールが抽出された場合は空白)
ゾーン (Mac)	アイテムファイルが存在するAppleTalkゾーン(Windowsでカタログ化された場合は空白)
カスタムフィールド	現在のカタログで作成されたすべてのカスタムフィールド
EXIF、IPTC、XMPフィー ルド	このメタデータのための特別カスタムフィールドのいずれか

検索条件の保存

日常的にカタログから特定のタイプのアイテムを検索する必要のある場合は、それらのアイテムの検索方法に名前をつけて保存することができます。

保存済みの検索方法は、「検索」ダイアログボックスの「保存済みの検索方法」ドロップダウンメニューに表示されます。「保存済みの検索方法」を使用するときは、メニューから検索方法の名前を選択するか、「検索」パレットで保存した検索方法をダブルクリックするか、または Windows の場合、ツールバーの「保存済みの検索方法」を使用してドロップダウンメニューから「検索」を選択します。

検索条件を保存するには:

- 1. 「検索」ダイアログボックスで検索方法を設定します。
- 「保存済みの検索方法」ドロップダウンメニューから「別名で保存」を選択します。
- 3. 「検索方法を保存」ダイアログボックスで、新しい検索方法の名前を入力します。
- 4. 「OK」をクリックして「検索」ダイアログボックスに戻ります。Portfolioは作成した検索の定義をカタログに保存します。

「保存済みの検索方法」を使用するには:

- 「検索」ダイアログボックスの「保存済みの検索方法」ドロップダウンメニューから「保存済みの検索 方法」を選択します。
- Windowsの場合、ツールバーの「検索」ドロップダウンメニューから「保存済みの検索方法」を選択します。
- 「検索」パレットを開いて(「**ウインドウ」 > 「検索方法を表示」**)、パレット上で「保存済みの検索方法」の名前をダブルクリックする。
- 「検索」パレットで「保存済みの検索方法」を選択して「**検索」**ボタンをクリックするか、パレットのフライアウトメニューから「**検索」**を選択します。
- 保存済みの検索方法をギャラリーに「添付」して、スマートギャラリーを作成します(「ギャラリー」 > 「設定」 > 「スマートギャラリー」)。スマートギャラリーを開くと、検索が自動的に実行されます。

「保存済み検索方法」の名前変更、コピー、または削除

- 1. 「検索」ダイアログボックスで、「保存済みの検索方法」ドロップダウンメニューから「**リストの編集**」を選択します。
- 2. 「検索方法のリストを編集」ダイアログボックスで、編集したい「保存済みの検索方法」を選択します
- 3. 「検索方法の名前変更」、「検索方法のコピー」、または「検索方法の削除」の中から適切なボタンを クリックします。
- 4. 「**OK**」をクリックして「検索」ダイアログボックスに戻ります。

ーまたはー

- 1. 「保存済みの検索方法」パレットから、名前の変更または削除したい検索方法を選択します。
- 2. フライアウトメニューから、「検索方法を削除」または「検索方法の名前変更」を選択します。

デフォルトの検索方法

「検索」ダイアログボックスを開くたびに(または「保存済みの検索方法」ドロップダウンメニューから「デフォルト」を選択)、Portfolioは検索フィールドを「デフォルトの検索方法」で指定された属性で設定します。

「デフォルトの検索方法」を編集して、最も頻繁に使うアイテムを「検索」コマンドにあらかじめ設定することができます。

デフォルトの検索方法を変更するには:

- 1. 「検索」ダイアログボックスを開いて、デフォルトにしたい検索フィールドを設定します。
- 2. 「保存済みの検索方法」ドロップダウンメニューから、「デフォルトとして保存」を選択します。

パレットからの検索

マスターキーワードパレットやカスタムフィールドから作成した任意のパレットを使えば、どんなダイアログボックスを開く必要もなく、簡単に検索を行うことができます。

パレットから検索するには:

- 1. パレットで表示するキーワードをダブルクリックします。
- 2. 選択されたキーワードを持つすべてのアイテムが検索結果のギャラリーに表示されます。

注意:キーワードリストが大きい場合は、マスターキーワードパレットのテキスト入力フィールドに文字を入力すれば、その文字で始まるキーワードにカーソルが移動するので、キーワードリストの中をすばやく移動することができます。

複数のカタログを検索

複数のカタログに対して検索するには:

- 1. 検索に含めたいカタログをすべて開きます。開いているカタログは「カタログ」パレットに表示されます。開かれているカタログをすべて検索する必要はありませんが、開かれていないカタログを検索することはできません。
- 2. 「カタログ」パレットで、検索対象に含めたいカタログを選択します。カタログ名の左の虫眼鏡アイコンは、そのカタログが検索対象に含まれることを示しています。アイコンが表示されていない場合は、そのカタログは検索対象から除外されています。
- 3. 「検索」ダイアログボックスで、「複数のカタログを検索」オプションを有効にします。
- 4. 「検索」ダイアログボックスで、(標準の単一カタログ検索の場合と同様の方法で)検索パラメータを設定し、「検索」をクリックします。
- 5. 検索結果は、新しい「複数カタログの検索結果」ギャラリーに表示されます。このギャラリーには複数 のカタログからのアイテムが含まれるので、ギャラリーを設定したり、Webページの作成、またはアイ テムのディスクへの書き込みに使用したりすることはできません。

複数カタログの検索結果を保存

別のギャラリーから画像をドラッグして、複数カタログの検索結果を保存することができます。ギャラリーは特定のカタログと関連しているため、ギャラリーにファイルをドラッグする際、別のカタログにそのファイルがあった場合は、ファイルがそのギャラリーを持つカタログにコピーされます。

複数カタログの検索結果を保存するには (Win):

- 1. カタログを選択して、複数カタログの検索結果を格納する新しいギャラリーを作成します。
- 2. 「複数カタログの検索結果」ギャラリーが最大化した場合、右上の端にある「元に戻す」ボタンをクリックしてギャラリーを表示します。
- 3. ファイルをクリックして、「複数カタログの検索結果」ギャラリーから新しいギャラリーにドラッグします。

複数カタログの検索結果を保存するには(Mac):

- 1. カタログを選択して、複数カタログの検索結果を格納する新しいギャラリーを作成します。他のカタログにあるファイルは、新しいギャラリーとカタログにコピーされることに注意してください。
- 2. Mac OS XのPortfolioはギャラリーを別々のウィンドウで表示するため、容易にファイルのコピーができます。ファイルをクリックして、「複数カタログの検索結果」ギャラリーから新しいギャラリー、または「ギャラリー」パネルにあるギャラリー名の上にドラッグします。

カタログ作成のステータスによってファイルを検索

Portfolioは、アイテムのカタログ作成のステータスに基づいたアイテムの検索を容易にします。例えば、カタログ作成の処理が中断された場合、カタログには部分的にカタログ化されたアイテムが含まれる場合があります。

部分的にカタログ化されたアイテムを検索するには(黄色のドット):

• 「編集」 > 「検索」 > 部分的にカタログ化されたアイテム (Mac) を選択します。

ーまたはー

• 「カタログ」 > 「その他の検索」 > 「部分的にカタログ化されたアイテム」 (Win) を選択します。

部分的にカタログ化され t アイテムを検索したら、すべてのアイテムをこのステータスで選択して、「アイテム」 > 「更新」を選択すると、カタログ作成の処理が完了します。

読み取り不可能のアイテムを検索するには(赤のドット):

• 「編集」 > 「検索」 > 「読み取り不可能のアイテム」(Mac)を選択します。

ーまたはー

• 「カタログ」 > 「その他の検索」 > 「読み取り不可能のアイテム」 (Win) を選択します。

読み取り不可能のアイテムを検索したら、「アイテム」 > 「オリジナル」 > 「Finderで表示する」(Mac)または「アイテム」 > 「オリジナル」 > 「エクスプローラで表示」(Win)コマンドを使用して、ファイルを検索し、ファイルのインテグリティや許可に関する問題を解決できます。

仮レコードアイテムの検索

作成したすべての仮レコードを簡単に見つけて、作成した仮レコードや更新または削除する必要のある仮レコードを管理することができます。

すべての仮レコードを検索するには:

- 「カタログ」 > 「その他の検索」 > 「仮レコードアイテム」 (Win) を選択します。
- 「編集」 > 「検索」 > 「仮レコードアイテム」 (Mac) を選択します。

書類のテキストの検索

書類内のテキスト検索コマンドを使えば、カタログアイテムではなく、カタログ化された書類のテキストから英文の単語やフレーズを検索することができます(日本語は利用できません)。

注意:Portfolioでは、テキストファイルとPDFファイルでのみ検索を行うことができます。また、上記の種類のファイルをカタログに追加する際には、「詳細カタログ作成オプション」ダイアログボックスで、「書類内のテキストをインデックス化」オプションを選択していることを確認してください。

カタログ化された書類からテキストを検索するには:

- 1. 「**カタログ」 > 「その他の検索」 > 「書類のテキスト」** (Win)、または「**編集」 > 「検索」 > 「書類内のテキスト」** (Mac) の順に選択します。
- 2. 検索する単語またはフレーズを「検索する単語」テキストボックスに入力します。
- 3. 「いずれか/すべて」のドロップダウンボックスから
 - 「**すべて**」を選択して、見つかった書類ですべての検索単語を要求します。
 - 「いずれか」を選択して、検索単語のいずれかのみを要求します。
- 4. ドロップダウンメニューから、一致オプションを選択します。 これらのオプションは普通の「検索」コマンドの場合と同様です。
- 5. 検索対象を現在のギャラリーに限定する場合、または複数のカタログを検索する場合は、適切なオプションを選択します。
- 6. 「検索」をクリックして検索を開始します。

消失ファイルの検索

ファイルのカタログ化後、移動、名前変更、削除が行われると、Portfolioがファイルを追跡できなくなる可能性があります。「消失ファイルの検索」コマンドを使用して、そのような「消失」ファイルを簡単に検索して、Portfolioに再リンクしたり、またはカタログから削除したりできます。

注意:Portfolioはマウントされているボリュームでのみ、消失ファイルの検索を行います。カタログ化されたアイテムソースファイルを含むボリュームがマウントされていない場合、Portfolioはそれらのファイルについて報告しません。

消失ファイルをチェックするには:

- 1. 「カタログ」 > 「その他の検索」 > 「消失ファイル」(Win)、または「編集」 > 「検索」 > 「消失ファイル」(Mac)の順に選択します。Portfolioはカタログ内に保存されている各アイテムのパス名を、マウントされているすべてのボリュームとディスクに対して比較し、ソースファイルがその場所で見つかるかを確認します。結果は「消失ファイル」ダイアログボックスに表示されます。
- 2. 消失ファイルが見つかった場合は、リスト内の各アイテムを選択します。
- 3. 「検索」をクリックして、そのファイルの新しい場所を指定します。指定した場所で消失ファイルが見つかった場合は、カタログ内のアイテムが自動的に更新されます。または、「カタログから削除」をクリックして、Portfolioカタログから選択したアイテムを削除してください。

プリント

通常はカタログアイテムを検索および選択して、ソースファイルの編集、表示、または別文書での使用を行いますが、カタログそのものからプリントする場合があります。たとえば、選択した画像をクライアントに見せたり、文書で使用するためにアイテムを評価したりする場合です。

画面上のギャラリーの表示を設定すると、表示設定は、ギャラリーからアイテムをプリントする際にも使用されます。

プリントオプション

「プリント」ダイアログボックスには、標準プリンタの選択、ページ範囲、コピー数のコントロールのほか、アイテムがページ上に表示される様式を指定するためのオプションが含まれています。

MacでPortfolioプリントオプションにアクセスするには、プリントダイアログの中のオプションプルダウンメニューから「**Portfolio**」を選択します。

プリンタ: ドロップダウンボックスからプリンタを選択し、「**設定**」をクリックしてプリンタ固有のオプションを設定します。

「現在のギャラリー表示を印刷」/「ページ単位に指定されたアイテム数」: このドロップダウンボックスにより、1ページに配置される画像の数、および現在の表示設定を使用するかどうかを指定できます。「現在のギャラリー表示を印刷」は、ギャラリーから任意の保存済みのビューのデータを使用します。他のすべての設定は、ページ単位に特定の数のアイテムをフレームやテキストなしでプリントします。

「ページあたりのアイテム数」: 「現在のギャラリー表示」のプリントを選択した場合、ページあたりのアイテム数を指定できます。

- 「最大級」 -
 - このオプションは、すべてのアイテムフレームとテキストを含め、実際のサムネールサイズで可能な限り多くのアイテムをプリントします。
- 「横のアイテム数」 -このオプションはサムネールのサイズを変更し、グリッドに配置します。 この設定ではフレームがプリントされないことに注意してください。

「印刷対象」:Portfolioがカタログ内に保存されている低解像度のサムネールのみをプリントするか(「サムネール」を選択)、フル解像度の画像をプリントするか(「オリジナル」を選択)を選択できます。

「画質」:この設定は、オリジナル画像をプリントするときにPortfolioが使用する解像度データのレベルを指定します。「最高」の設定にすると、プリンタの負荷が高くなります。一部のプリンタは十分なメモリが搭載されていないため、プリンタにダウンロードされるデータ量に対応できない場合があります。問題が発生する場合は、設定を「高い」または「標準」に切り替えてみてください。

「画像を同様のサイズに変更」: このオプションは、ページ単位に指定されたアイテム数を選択した場合に使用できます。このオプションは、横向きの画像と縦向きの画像のレイアウトを、統一のとれた外観にする際に役立ちます。たとえば、レターサイズの用紙にページあたり4つの画像を配置するレイアウトを選択した場合、縦向きの画像はページ上ですべて同じサイズになりますが、横向きの画像はより狭い幅に合わせる必要があるためにサイズが小さくなります。このオプションを選択すると、縦向きの画像はサイズが変更され、横向きの画像のサイズに近くなります。

「ページ余白」: ページの余白をインチで設定します。デフォルトはページの上、下、左、右、いずれも0.5インチです。

「**ヘッダー」/「フッター」:** ヘッダーまたはフッターは、プリントしたページの上部または下部に表示する任意のテキストを含みます。

「次の値から始まるページ番号を印刷」:数値を入力することで、開始ページ番号を設定することができます。

単一ファイルのプリント

「プレビュー」ウインドウで、「ファイル」>「プリント」を選択して、単一のフルサイズの画像をプリントできます。印刷の質を高めるために、「オリジナルの編集」コマンドを使用し、カタログ化された画像をオリジナルのアプリケーションで開き、そこからプリントすることを推奨します。

コンタクトシートのプリント

「コンタクトシート」は基本的に視覚的に画像グループを表示するページです。コンタクトシートは、多数の画像の中から選択できるようにクライアントに提供されるほか、指定のギャラリーに含まれる画像のプリントされた参照資料にもなります。

コンタクトシートをプリントするには:

- 1. ギャラリーを選択してコンタクトシートとしてプリントします。特に表示をカスタマイズする必要はありません。画像はフレームまたはテキストなしで「そのまま」プリントされます。
- 2. 「ファイル」>「プリント」を選択します。
- 3. 「プリント」ダイアログボックスで、ドロップダウンメニューからプリンタを選択します。
- 4. 「現在のギャラリービューを印刷する」ドロップダウンボックスから、各コンタクトシートに含める特定の画像数を選択します。
- 5. テキストボックスに、アイテム間の最小間隔を入力します。この最小間隔により、画像どうしが重なり合うのを防ぎます。
- 6. すべての画像をほぼ同じサイズに整える場合は、「**画像を同様のサイズに変更**」 チェックボックスをオンにします。
- 7. 特定のヘッダー、フッター、ページ番号、および余白の設定を入力し、「OK」をクリックします。

ギャラリーからのアイテムのプリント

サムネールまたはカタログアイテムのリストをプリントするには:

- 1. プリントするアイテムを選択してギャラリーウィンドウに配置します。
- 2. 保存済みのビューを適用するか、並べ替え、手動によるアイテムの順序付け、フレーム、背景色など、 必要な外観になるようにビューをカスタマイズします。選択するビュータイプは、サムネール、アイテム、またはリストで、プリントページへの画像の配置方法に直接影響を与えます。
- 3. ギャラリーで必要な設定を行ったら、「ファイル」>「プリント」を選択します。

オートシンク

オートシンクは最も重要で高性能なPortfolioの機能の1つであり、ネットワーク上のフォルダの内容をPortfolioが作成/管理するカタログと同期させる素晴らしい機能です。

オートシンクはコンピュータシステム上の特定のフォルダとPortfolioカタログのアイテム間にリンクを作成します。オートシンクの「フォルダパレット」にフォルダを追加すると、Portfolioからサムネールをそのフォルダにドラッグするだけで、アイテムをそのフォルダに移動することができます。逆に、コンピュータシステム上で(MacのFinderまたはWindowsエクスプローラを用いて)そのフォルダに移動したファイルは、自動的にPortfolioでカタログ化されるため、Portfolioカタログの内容はディスク上のフォルダの内容と完全に一致します。

オートシンクはディスク上にあるフォルダとファイルを表示するだけではありません。 オートシンクを使えばフォルダの作成、移動、削除を行うことができ、事実上Portfolioからディスクファイルの管理、およびカタログ化されたファイルを希望する場所に置くことが可能になります。

オートシンクの典型的な使用方法

- Portfolioカタログからサムネールをフォルダにドラッグして、Portfolioでディスク上のファイルを整理する。
- ハードディスク(またはネットワーク)から既存の階層構造のフォルダをPortfolioの「フォルダパレット」 に追加し、「同期」ボタンを一度クリックするだけで、すべてのフォルダの内容をカタログ化する。
- Portfolioでネットワーク上の任意の数のフォルダを監視し、これらのフォルダにファイルが追加されたり、これらのフォルダのファイルが変更されたり削除されるたびに、視覚的に警告を行う。
- Portfolioを終了することなく、またはPortfolioカタログを手動で更新することなく、カタログ化されたファイルをネットワーク上のフォルダから別のフォルダへと移動する。
- ワークグループの他のユーザーが、オートシンクが監視しているフォルダに対し、ファイルをドロップ するだけで、カタログにアイテムを追加できるようにする。 「同期」ボタンを一度クリックするだけで、それらのファイルをカタログに移動できます。

注意: Portfolio Serverにファイルをアップロードする必要があるウェブクライアントユーザーは、オートシンクフォルダが必要です。

フォルダパレットの表示

オートシンクを使用するためには、「フォルダパレット」を表示する必要があります。

表示されていない場合は、「表示」>「フォルダ」を選択して、パレットを表示するか、ツールバー上の「フォ



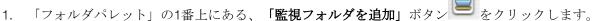
最初、「フォルダパレット」は空白です。Portfolioと同期させるハードディスクまたはコンピュータネットワーク上にある任意のフォルダは、追加された後にこのパレット内に表示されます。

新しい監視フォルダの追加

フォルダ同期の使用を開始するためには、システム上のどのフォルダをPortfolioに「監視」させるかを指定する必要があります。Portfolioに階層構造になっているフォルダを監視させるには、最上位のフォルダをPortfolioに指定します。

重要: Portfolio Serverでカタログ登録したファイルにアクセスするすべてのユーザーは、オートシンクフォルダは PortfolioサーバーとすべてのPortfolio デスクトップクライアントの両方にアクセスできる必要があります。

新しい監視フォルダをフォルダパレットに追加するには



- 2. Portfolioサーバーと同期を維持するフォルダを選択します。標準のダイアログボックスが開き、フォルダを選択するよう求められます。Portfolioに階層構造になっているフォルダをすべて監視させるには、階層構造の最上位のフォルダを選択します。Portfolioが自動的にサブホルダを「確認」し、フォルダパレットにそれらを含めます。「選択」ボタン(Mac)または「OK」ボタン(Win)をクリックしてフォルダを選択します。
- 3. 「オートシンクの設定」ダイアログボックスで、Portfolioがフォルダを監視する方法と、新しいファイルが見つかったとき、またファイルが削除されたときの動作を指定します。
- 「フォルダ内の変更を常に監視する」オプションを使うと、オートシンクフォルダで変更をスキャンする時間を指定できます。変更が検出されたときには、フォルダ表示でフォルダ名がハイライト表示されます。
- 「同期する間隔」オプションを使うと、オートシンク(一番上の階層にあるフォルダ)内のアイテムを カタログに追加する間隔、またはカタログから削除する間隔を設定できます。
- 「カタログ作成オプション同期時にカタログ作成オプションプリセット」オプションを有効にして、カタログ作成中に保存したプリセットを使用します。カタログ作成時のプリセットを作成して保存しておくと、そのプリセットがドロップダウンリストに含まれます。コピー、移動、ファイル名の変更機能を含んだプリセットも選択できますが、同期時に使用する際にはプリセットのこうした機能は無視されます。基本的に、カタログ作成プリセットのプロパティの割り当て(フィールド名、説明、キーワード)のみが使用されます。プロパティ割り当て機能を含んでいないプリセットは、ドロップダウンリスト内に表示されません。詳細は、「カタログ作成オプションプリセットの保存」を参照してください。
- 「カタログにあるアイテムのオリジナルファイルが見つからないとき」オプションを使うと、オートシンク処理でオリジナルのファイルが見つからない場合、アイテムをそのままにしておくか、削除するかを指定できます。
- 4. 「OK」をクリックしてオートシンクを設定し、もう一度「OK」をクリックしてオートシンクフォルダ を作成します。選択したフォルダは「フォルダパレット」のリストに表示されます。監視フォルダは小 さいバインダーアイコンで「フォルダパレット」に表示されます。すべてのサブフォルダは「サブフォルダ」アイコンで表示されます。
- 5. 「同期」ボタン

をクリックして新たに追加されたフォルダのコンテンツを現在のPortfolioカタログと同期させます。新しいフォルダがフォルダパレットに追加されたときは必ず、その名前は太字で表示され、そのフォルダがまだPortfolioと同期されていないファイルを含んでいることを表します。「同期」ボタンをクリックすると、Portfolioは選択したフォルダの内容を調べて、フォルダ内のまだカタログ化されていないすべてのアイテムをカタログ化します。注意:フォルダパレットに空のフォルダを追加した場合は、太字で表示されません。そのフォルダにはPortfolioと同期する必要のあるファイルがまだ含まれていないためです。

6. 「オートシンク」ダイアログボックスに、Portfolioがカタログ化するファイルがリストで表示されます。 カタログ化作業を継続するには「**同期**」ボタンをクリックしてください。

監視フォルダのオートシンク設定の編集

オートシンク監視フォルダの設定は、いつでも編集することができます。

- 1. 設定を編集する監視フォルダを選択します。
- 2. 「フォルダパレット」の一番上にある**「監視フォルダの設定」**ボタン をクリックします。
- 3. 「オートシンクの設定」ダイアログボックスで設定を編集して、「OK」をクリックします。

監視フォルダの削除

「フォルダパレット」から監視フォルダを削除すると、Portfolioはディスク上のそのフォルダの監視を停止し、それ以降フォルダをカタログの内容と同期させません。

注意:監視フォルダを削除しても、そのフォルダはハードディスクまたはネットワークから削除されません。 また、フォルダに含まれるどのファイルも削除しません。この操作は単にフォルダとPortfolioの「接続を切る」だけです。

「フォルダパレット」から監視フォルダを削除するには:

- 1. 「フォルダパレット」内で削除する監視フォルダを選択します。サブフォルダではなく監視フォルダを選択したことを確認してください。
- 2. 「フォルダパレット」の1番上にある、「**監視フォルダの削除」**ボタン
 をクリックします。**注意:「フォルダの削除」**ボタンではなく、必ず「フォルダパレット」の「**監視フォ**
- 3. Portfolioは、「フォルダパレット」のリストから削除するフォルダをこれ以降は監視しない、という警告を表示します。「OK」をクリックします。
- 4. 監視フォルダはもう「フォルダパレット」のリストに表示されません。 これは、Portfolioがもうその内容を監視していないことを示します。削除されたフォルダ内で保存されたアイテムはカタログからは削除されません。

監視フォルダの内容の表示

監視フォルダを(ハードディスクまたはネットワークから) 「フォルダパレット」に追加すれば、Portfolioを使ってそのフォルダ内にある任意の使用可能なフォルダや監視フォルダ自体の内容をすばやく表示することができます。

フォルダおよびすべてのサブフォルダの内容を表示するには:

- 1. 「フォルダパレット」内のフォルダをクリックします。
- 2. 選択されたフォルダとそのすべてのサブフォルダ内のファイルが、現在のPortfolioギャラリーに表示されます。

1つのフォルダのみの内容を表示するには:

- 1. **Option**キー (Mac) または**Ctrl**キー (Win) を押しながら、「フォルダパレット」でフォルダをクリックします。
- 2. 選択したフォルダのファイルのみが現在のPortfolioギャラリーに表示されます。

フォルダパレットによるファイルの移動

Portfolioを使えばフォルダパレットに表示されている任意のフォルダへ、または任意のフォルダから、カタログ化されたファイルを簡単に移動したり、コピーしたりできます。つまり、ファイルを整理するときに、MacintoshのFinderやWindowsエクスプローラに切り替えて、ファイルをフォルダからフォルダへ移動する必要はありません。 Portfolioで行うことができます。

フォルダパレットを使ってアイテムをフォルダに移動するには:

- 1. カタログ化された任意のアイテムのサムネールを「フォルダパレット」で表示されているフォルダにドラッグします。
- 2. Portfolioは自動的にファイルをコンピュータシステム上の対応するフォルダに移動し、ファイルの新しい場所を反映するようにPortfolioカタログを更新します。

ファイルを1つのフォルダから別のフォルダに移動するには:

- 1. フォルダパレットでフォルダを**クリック**して、現在のPortfolioギャラリーで、選択したフォルダ内のファイルを表示します。
- 2. カタログ化された任意のアイテムのサムネールを「フォルダパレット」で表示されている別のフォルダ にドラッグします。
- 3. Portfolioは自動的にファイルをコンピュータシステム上の対応するフォルダに移動し、ファイルの新しい場所を反映するようにPortfolioカタログを更新します。

注意:ボリューム間でのファイルの移動はMacintoshのFinderまたはWindowsエクスプローラと同様で、オリジナルを削除または移動することなく、ファイルを新しい場所にコピーします。

オートシンクによる新しいフォルダの作成

オートシンクを使用すれば、Portfolio内で新しいフォルダ、または既存のフォルダの新しいサブフォルダを作成して、それらのフォルダでディスク上の画像を分類したりカテゴライズしたりできます。これらのフォルダを設定するために、MacintoshのFinderやWindowsエクスプローラに切り替える必要はありません。Portfolioの「フォルダパレット」から、ハードディスクまたはネットワーク上のフォルダの追加、削除、移動ができます。

新しい監視フォルダを作成するためには:

- 1. 「フォルダパレット」で既存のフォルダが選択されていないことを確認してください。
- 2. 「フォルダパレット」の1番上にある、**「監視フォルダの追加」**ボタン **と**をクリックします。
- 3. フォルダ選択ダイアログボックスで、新しいフォルダの場所を指定して、「**新規」**ボタン (Mac) または「**新規フォルダ**」ボタン (Win) をクリックします。
- 4. 「**選択**」 (Mac) または「**OK**」 (Win) をクリックして選択を確認します。
- 作成したフォルダは、「フォルダパレット」で新しい監視フォルダとして表示されます。

新しいサブフォルダを作成するには:

- 1. 「フォルダパレット」ですでに表示されているフォルダの1つを選択します。
- 2. 「フォルダパレット」の1番上にある、「新規サブフォルダ」ボタン をクリックします。
- 新しいフォルダが、選択されたフォルダのサブフォルダとして作成されます。

フォルダの同期

「フォルダパレット」のフォルダ名が太字に変わりフォルダアイテムが感嘆符を含む場合は、 本 、最後にそのフォルダを同期してから、そのフォルダ内のファイルに何らかの変更が加えられことを示します。 行われた可能性のある「変更」には以下のものがあります。

- カタログ登録したファイルが変更された。
- Finder (Mac) またはエクスプローラ (Win) を使用して、フォルダからファイルが削除された。
- 新しいファイルがフォルダに追加された。
- 既存のファイル名が変更された。

これらの変化を反映するようにPortfolioカタログを更新するには:

- 1. 同期する必要のあるフォルダを選択します。太字で名前が表示されているフォルダのみ同期が必要です。同期する必要のある複数のフォルダを選択するには、親フォルダを選択します。 サブフォルダは自動的に同期対象になります。
- 「同期」ボタン をクリックします。
- 3. 「フォルダパレット」で選択されたフォルダは、内容が Portfolio カタログと同期されたので、もう太字では表示されていません。

オートシンクの使用に関する重要な注意事項

- 同期されたフォルダは少しの間「太字」のままである場合があります。 これは、Portfolioが同期による 変更を確認するためにフォルダを再スキャンするからです。同期中の複数のフォルダおよびファイルが ディレクトリ内にある場合、この作業は時間がかかることがあります。
- ファイルがフォルダから削除されていて、「オートシンク」ダイアログボックスの「消失ソースファイルのアイテム削除」オプションが無効なまま「同期」 コマンドを使用すると、フォルダは「非同期」として太字のまま残ります。これは、フォルダにはすでに存在しないファイルのアイテムをPortfolioがまだ含んでいるためです。フォルダを完全に同期するためには、「消失ソースファイルのアイテム削除」オプションを有効にしてフォルダをもう一度同期します。
- Portfolioを使用せずに(Macintosh の Finder または Windows エクスプローラを用いて)ファイル名を変更した場合は、Portfolio は同期の際に、名前が変更されたファイルを「新規」ファイルとして扱います。名前を変更されたファイルを含むフォルダを同期する場合は、そのファイルのアイテムは、キーワード、説明および他のすべての保存されたデータとともに削除され、新しい名前のファイルに対応する新しいアイテムが作成されます。したがって、このような変更を行う場合は、Portfolio内のファイル名変更の機能を使用することを推奨します。
- 1つのオートシンクフォルダから別のオートシンクフォルダにPortfolioを使用せずにファイルを移動した場合、Portfolioはファイルが移動されたと認識して、2つのフォルダを太字表示にします。 1つはファイルが削除されたフォルダで、もう1つはファイルが追加されたフォルダです。Portfolioが適切にカタログを更新するためには、これらのフォルダ両方の親フォルダを同時に同期する必要があります。そうしない場合は、Portfolioはファイルの元の場所のアイテムを削除し、新しい場所のファイルのアイテムを新たに作成します。これによりカタログは最新状態を維持しますが、オリジナルアイテムに保存されていた情報を失う場合があります。Portfolioを用いて、1つのオートシンクフォルダから別のオートシンクフォルダにファイルを移動する場合は、Portfolioは常にアイテムを適切に更新します。
- オートシンクフォルダにネットワークアクセスできない場合は、「フォルダパレット」内のリストでそのフォルダは薄く表示されます。カタログの一部であるそのフォルダ内のアイテムのサムネールを見ることはできますが、アイテムを開いたり変更したりすることはできません。

FinderまたはWindowsエクスプローラへの切り替え

Portfolioの「フォルダパレット」からWindowsエクスプローラまたはMac Finderに簡単に切り替えて、ファイルがディスク上の実際のフォルダでどう表示されるかを確認することができます。

Windows:「フォルダパレット」で一覧表示されている任意のフォルダの名前を右クリックします。メニューから「エクスプローラ」を選択します。

Mac:「フォルダパレット」で一覧表示されている任意のフォルダの名前を右クリックします。メニューから「Finder上で表示」を選択します。

キーワード

キーワードは、カタログ化されたファイルに割り当てることができる説明の単語またはフレーズで、ファイルをカテゴライズしたり分類したりするものです。たとえば、日没時の熱帯地方の海岸の画像があったとすると、砂浜、海岸、海、日没、熱帯、休暇、レクリエーション、アウトドアなどのキーワードをその画像に割り当てることができます。これらの単語は、画像を他の関連する画像とグループ化したり、ファイルを検索したりするのを容易にします。Portfolioでは、アイテムに割り当てることのできるキーワードの数に制限はありません。

キーワード入力を避ける方法

キーワードで入力するのが退屈だと思った場合(ほとんどのユーザーがそうです!)、このセクションで参照しているいくつかのテクニックを利用すると、キーワードの手動による入力を最小限に抑えることができます。

- カタログ化するときにファイル名とフォルダ名をキーワードに変換する。
- 「カタログ作成オプション」を使用して、カタログ化するときにキーワードを割り当てる。
- 既存のマスターキーワードリストをマスターキーワードパレットにインポートする。
- キーワードをサムネールにドラッグアンドドロップして割り当てる。
- 「フィールド値の編集」コマンドを用いて、キーワードを複数のアイテムに割り当てる。

キーワードの追加

Portfolioには、カタログのアイテムにキーワードを追加する便利な方法がいくつかあります。

方法1:カタログ化の際にキーワードを追加

Portfolioの「カタログ作成オプション」を使用すれば、複数のアイテムに対してそれらがカタログ化されるときにキーワードを割り当てることができます。詳細については、「Portfolioの設定」の章の「カタログ作成中にキーワードを割り当てるには」を参照してください。

方法2:「キーワードの編集」コマンドの使用

この方法は、数多くのファイルに同じキーワードを追加する場合に便利です。

- 1. ギャラリーでキーワードを割り当てるアイテムを選択します。
- 2. 「アイテム」>「キーワードの編集」を選択するか、「Command + Option + K」(Mac)またはCtrl + Shift +

K (Win) を押します。「キーワードの編集」ダイアログボックスが開きます。選択されたアイテムのうち少なくとも1つのアイテムにすでに割り当てられているキーワードがキーワードリストに表示されます

- 3. テキストボックスにキーワードを入力して、「追加」をクリックします。キーワードの「ステータス」が「追加」に変化し、そのキーワードがカタログに追加され、選択されたアイテムに割り当てられることを示します。キーワードを追加した後で「割り当て」をクリックする必要はありません。「追加」は「割り当て」ることを意味します(つまり、「ステータス」フィールドが「追加」または「割り当て」になっているキーワードは、ダイアログボックスが閉じられるときにアクティブなギャラリーで選択されたすべてのアイテムに割り当てられます。「追加」はそのキーワードが単に新しいキーワードであることを示しているだけです)。
- 4. キーワードの追加が完了したら、「OK」をクリックします。

方法3:「プロパティ」ダイアログボックス

「プロパティ」ダイアログボックス (「**アイテム」>「プロパティ」**を選択)を使用して、各アイテムにキーワードを追加することができます。この方法は、各々のアイテムに複数のキーワードを割り当てる場合に特に便利です。詳細については、この章の「プロパティ」ダイアログボックスの使用」のセクションを参照してください

•

方法4:「アイテム表示」の使用

「アイテム表示」を使用しているときにも、任意のアイテムのキーワードを編集することができます。

- 1. キーワード編集機能をアクティブにするには、アイテムの「キーワード」フィールドの任意の場所をクリックします。
- 2. キーワードを追加するには、テキスト入力フィールドにキーワードを入力して「+」ボタンをクリックします。「アイテム表示」にある任意の編集可能なデータフィールドを同じ方法で編集できます。

方法5:「フィールド値の編集」によるキーワード追加

「フィールド値の編集」コマンドを使えば、選択したすべてのアイテムに対するキーワードの追加、削除、または置換が容易になります。

方法6:マスターキーワードパレットの使用

カタログの管理者がマスターキーワードのセットを作成した場合は、それらをマスターキーワードパレットで使用できます。パレットを表示するには、「ウィンドウ」>「マスターキーワードリストパレットを表示」を選択するか、「Ctrl + K」(Win)または「Shift + Command + K」(Mac)を押します。

マスターキーワードパレットからキーワードを割り当てるには:

- 1. キーワードを追加するアイテムを選択します。
- 2. アイテムに割り当てる単語をマスターキーワードパレットで選択します。
- 3. パレットの「割り当て」ボタンをクリックします。

マスターキーワードパレットからのキーワードのドラッグアンドドロップによっても、キーワードを割り当てる ことができます。

- 1. マスターキーワードパレットからキーワードをドラッグして、そのキーワードを割り当てるアイテムの 任意のサムネールにドロップします。
- 2. 複数のアイテムにキーワードを割り当てる場合は、まずギャラリーでアイテムを選択して、選択された 任意のアイテムの上にキーワードをドロップします。キーワードは選択されたすべてのアイテムに自動 的に割り当てられます。

方法7:テキストのドラッグアンドドロップ

Microsoft Wordのようなドラッグアンドドロップに対応した任意のソフトウェアからテキストを選択して、Portfo lioのサムネール上にドラッグして、そのテキスト中の単語をキーワードとして割り当てることができます。

キーワードの削除

不要なキーワードを削除するには以下の4つの簡単な方法があります。

- 「フィールド値の編集」コマンドを用いて、選択された複数のアイテムからキーワードを削除する。<u>「</u>フィールド値の編集」コマンドの使用を参照してください。
- 「プロパティ」ダイアログボックスのキーワードタブでキーワードを選択し、「削除」をクリックする
- 「キーワードの編集」ダイアログボックスでキーワードを選択し、「削除」をクリックする。
- 「アイテム表示」でキーワードを選択し、「-」ボタンをクリックして削除する。

キーワードの表示

選択されたアイテムに割り当てられたキーワードを以下の場所で表示することができます。

- もしキーワードが、サムネール表示、アイテム表示またはリスト表示 (「表示」>「アイテム」を選択)の中に含まれている場合は、各表示の中。
- 「プロパティ」ダイアログ(「**アイテム」>「プロパティ」:「キーワード**」を選択)のキーワードタブの中。
- 「キーワードの編集」ダイアログボックス (「**アイテム」>「キーワードの編集」**を選択)の中。

キーワードが表示される場合、各キーワードの横に表示される数字は、カタログ内でそのキーワードが割り当てられたアイテムの数を表します。

キーワードリストに表示される数字は、カタログでの各単語の使用回数を表します。

マスターキーワード

カタログに対するマスターキーワードリストを作成することにより、カタログ内のアイテム間で、またはさまざまなカタログ間で一貫したキーワードを維持することができます。マスターキーワードリストによって、リスト内のキーワードだけをカタログ内で使用できるようにすることが可能です。

キーワードの一貫性を得る最良の方法は、カタログ管理者がマスターキーワードのリストを設定することです。マスターキーワードリストを設定すると、そのリストは自動的にPortfolioの以下のさまざまな場所で表示されます。

- マスターキーワードパレット上(「**ウインドウ」>「マスターキーワードリストパレットを表示」**を選択すると表示される)
- 「アイテムプロパティ」ダイアログボックスのキーワードタブ内
- 「カタログ登録オプション」ダイアログボックスのキーワードタブ内

マスターキーワードは手動で入力、または既存のテキストファイルからインポートすることができます。

キーワードに関する一般的なヒント

マスターキーワードのリストを設定する場合、カタログを検索するユーザーの立場を考慮することが重要です。たとえば

「車」と「自動車」のどちらをより頻繁に使うのでしょうか。それぞれのキーワードは対象ファイルを正しく説明していますが、状況によっていずれかのキーワードがより適している場合があります。その場合はいずれかのキーワードを選択して、そのキーワードを一貫して使用するようにします。

マスターキーワードを定義して、そのキーワードのみを常に使用するようにすると、ファイルの検索がより簡単になります。また、Portfolioカタログのサイズが増えるにつれて、キーワードの数も増える傾向にあります。事前に決めたルールに従って、マスターキーワードのみを使用すると、ユーザーがより正確にファイルをカタログ化し、利用できるようになります。

外国語と日本語の統一、カタカナとひらがなの統一、外国語の複数形の使用については統一性も重要です。わかりにくいキーワードが複数存在するカタログは良いカタログとはいえません。例:fly/flies、mouse/mice、goose/geese、アップル/Apple、カタカナ/かたかな、など。

マスターキーワードリストの作成

マスターキーワードリストにキーワードを追加には:

- 1. 「カタログ」>「カタログ管理」を選択するか、「Command + Option + J」(Mac)または「Ctrl + Shift + J」(Win)を押します。
- 2. 「カタログ管理」ダイアログボックスの「キーワード」タブを選択します。
- 3. 新しいキーワードをダイアログの一番上のテキストボックスに入力し、次に「**追加**」をクリックします。 リストに既に存在する単語の場合には、「追加」ボタンは灰色で表示されます。
- 4. マスターキーワードの追加が完了したら、「**OK**」をクリックして変更を保存し、ダイアログボックスを 閉じます。

マスターキーワードのインポートおよびエクスポート

あるカタログからマスターキーワードリストをエクスポートし、他のカタログでそのリストをインポートすることができます。これは複数のカタログ間でキーワードを共有する場合に便利です。また任意のカタログから標準のキーワードをエクスポートし、他のカタログのマスターキーワードリストにインポートし、そのキーワードリストに名前変更、追加、削除を行って、適当なマスターキーワードリストを作成するという場合もあります。

Portfolioは各キーワードが改行文字で区切られたファイルにキーワードをエクスポートします。 したがって、任意の同様な形式のテキストファイルからマスターキーワードのリストをインポートすることもできます。

マスターキーワードリストをエクスポートするには:

- 1. 「カタログ」>「カタログ管理」を選択するか、「Command + Option + J」(Mac)または「Ctrl + Shift + J」(Win)を押します。
- 2. 「キーワード」タブから、「エクスポート」をクリックします。
- 3. エクスポートするファイルの名前と保存場所を指定して、「保存」をクリックします。

任意のキーワードリストをマスターキーワードリストにインポートするには:

- 1. 「**カタログ」>「カタログ管理」**を選択するか、「**Command + Option + J**」(Mac)または「**Ctrl + Shift + J**」(Win)を押します。
- 2. 「キーワード」タブから、「エクスポート」をクリックします。
- 3. キーワードを含んだファイルに移動して、インポートします。キーワードリストは各キーワードエント リが改行文字で区切られたプレーンテキストファイルに限ります。
- 4. 「開く」をクリックします。キーワードがマスターキーワードリストに追加されます。

マスターキーワード名の変更

マスターキーワードの名前を変更するには:

- 1. 「カタログ」>「カタログ管理」を選択するか、「Command + Option + J」(Mac)または「Ctrl + Shift + J」(Win)を押します。
- 2. 「カタログ管理」ダイアログボックスの「キーワード」タブを選択します。
- 3. クリックして名前を変更したいキーワードを太字にして、次に「名前を変更」をクリックしいます。
- 4. キーワードの新しい名前を入力します。
- 5. マスターキーワードの作業が完了したら、「**OK**」をクリックしてダイアログボックスを閉じ、変更を保存します。

マスターキーワードの削除

マスターキーワードを削除するには:

- 1. 「**カタログ」 > 「カタログ管理」**を選択するか、「**Command + Option + J**」(Mac)または「**Ctrl + Shift + J**」(Win)を押します。
- 2. 「カタログ管理」ダイアログボックスの「キーワード」タブを選択します。
- 3. クリックして名前を変更したいキーワードをハイライトし、次に「削除」をクリックしいます。
- 4. マスターキーワードの作業が完了したら、「**OK**」をクリックしてダイアログボックスを閉じ、変更を保存します。

注意:マスターキーワードリストからキーワードを削除しても、そのキーワードを割り当てたアイテムからは削除されません。すでにアイテムに適用されているキーワードを変更(たとえば、すべての「急ぐ」を「至急」に変更)したい場合、「アイテム」から**「フィールド値の編集」**を選択してキーワードを変更します。

カスタムフィールドタイプ

カスタムフィールドを使用すれば、カタログ化するアイテムに使用する任意の種類の情報(日付、数字、テキストブロック、またはURL)を保存することができ、ファイルの整理、カテゴライズ、および検索をより柔軟に行うことができます。

カスタムフィールドは、厳密には「キーワード」や「説明」ではない情報によってファイルを整理する場合、完璧に整理します。たとえば、カタログ化されたファイルに関連するウェブサイトのURLのフィールドを追加したり、デジタル写真のカタログに「写真家」のフィールドを追加したり、価格情報や品番を保存するフィールドを追加したりする場合があるかもしれません。

Portfolioの6つのタイプのカスタムフィールド

- 「日付/時刻」:日付/時刻などを入力します。たとえば、このフィールドタイプは、画像の発行日用のカスタムフィールドを作成するために使用できます。
- 「小数」:小数を含む数値を入力します。このフィールドタイプは、ストックされた画像価格のカスタムフィールドに役に立ちます。
- 「**数値**」:普通の数値を入力します。このフィールドタイプはカタログのパーツ番号や、品番に最適です。ただし、それらの番号は数字のみに限ります。
- 「テキスト」:1行のテキストを入力します。写真家やアーティストの名前など、多くのカスタムフィールドに使用できます。
- 「テキストブロック」:改行を含む、複数行のテキストを入力します。
- 「URL」:このフィールドタイプは、ウェブや他のURLアドレスに使用します。ギャラリー表示で表示できるアクティブハイパーリンクを作成できます。

キーワードとカスタムフィールド

Portfolioでは、カスタムフィールドとキーワードをどのように使い分けるか、判断がつきにくい場合があります。一般的に、キーワードはファイルの内容やファイルの特定のプロパティ用のカスタムフィールドを説明するために使用されます。

カスタムフィールドは、ビジネスモデルに関連したファイルについての情報を保存するのに特に有用です。カスタムフィールドは、日常業務で必要な情報を保存する場合に特に便利です。ジョブ番号、部品番号、在庫、価格、はいハいえのオプションが付いた情報、事前定義した変数を設定できる任意のデータなどを格納する際に使用するとよいでしょう。

たとえば、グラフィックデザイナーが冷凍食品のパッケージ会社から依頼されたプロジェクトを完了したとします。プロジェクトには、Adobe Illustratorのファイルと多くの関連画像が含まれています。このような場合、ファイルをカタログ化して、クライアント名とジョブ番号を格納するためにカスタムフィールドを使用します。このプロジェクトが冷凍ピザのボックスデザインであれば、「ピザ」、「サラミ」、「冷凍」というキーワードも追加します。

キーワードの追加および活用に関しての詳細は、<u>キーワードの追加</u>を参照してください。カスタムフィールドの設定および使用に関しての詳細は、カスタムフィールドの追加を参照してください。

カタログへのカスタムフィールドの追加

カタログヘカスタムフィールドを追加するには:

- 1. アクセスレベルを管理者モードに変更します。「**カタログ」>「アクセスレベル」**を選択し、カタログ のアクセスレベルを「**管理者」**に変更し、必要であればパスワードを入力して「**OK**」をクリックします
- 2. 「カタログ」>「カスタムフィールド」を選択します。
- 3. 「カスタムフィールド」ダイアログボックスで、「新規」をクリックします。「カスタムフィールドの 追加」ダイアログボックスが表示されます。
- 4. 「フィールド名」テキストボックスにフィールドの名前を入力します。
- 5. 「フィールドタイプ」を選択します。フィールドタイプによってこのフィールドに入力可能な値が決定されます。フィールドタイプは一度定義されると変更することはできません。
- 6. 選択したフィールドタイプの残りのオプションを適切に選択した後、「**OK**」をクリックして「カスタムフィールド」ダイアログボックスに戻ります。
- 7. カスタムフィールドの追加が完了したら、「OK」をクリックします。

カスタムフィールドタイプ

以下に、Portfolioで作成できる各カスタムフィールドタイプの属性について説明します。

「日付/時刻」

このフィールドタイプでは、アイテムの日付か時刻、またはその両方を入力できます。「日付/時刻のカスタムフィールドの追加」ダイアログボックスで「時刻の表示」オプションの選択を外せば、「時刻」の値を表示しないようにできます。「日付/時刻」フィールドは複数の値を含み、定義済みリストとして設定できます。

注意:「日付/時刻」フィールドを検索する場合は、かならず時刻の存在を想定しています。つまり、(アイテムをカタログ化する際のソースファイルからの抽出により、またはフィールドに時刻を入力することにより)時刻の値がフィールドに入力されていた場合、「時刻の表示」をオフにすることによりそのフィールドが隠されていても、検索が行われる場合にはPortfolioは時刻を検索に含めます。例:「5/20/02」で検索しても「5/20/02 3:00 pm」を含むアイテムは見つかりません。なぜなら、検索の要求は「5/20/02 12:00:00」と解釈されるためです。時刻が表示されていない場合でも、これは変わりません。

小数

このフィールドタイプでは、最大で小数点以下第8位までの精度を持つ数値を入力できます。「小数」フィールドは複数の値を含み、定義済みリストとして設定できます。精度を設定するには、ドロップダウンメニューから選択します。

数值

普通の数値を入力します。「数値」フィールドは複数の値を含み、定義済みリストとして設定できます。

テキスト

このフィールドタイプは、1行のテキストのために設計されています。フィールドの最大の長さは、フィールドで入力できる文字数を「長さ」のテキストボックスに入力することで設定できます。「テキスト」フィールドの長さは1から249文字までで、複数の値を含み、定義済みリストとして設定できます。このタイプのフィールドは複数行のテキストを含むことはできません(複数行のテキストには「テキストブロック」を使用)。

テキストブロック

「テキストブロック」は32K以内の任意の長さの複数行にわたるフィールドです。このフィールドタイプを使えば、アイテムに複数行のテキストを追加できます。改行やキャリッジリターンを含めることもできます。「テキストブロック」フィールドは並べ替えやフレーズでの検索はできません。

カスタムフィールドをパレットとして表示

カスタムフィールドをより使いやすくするために、Portfolioでは定義済みリストで設定された値をパレットとして表示できます。これは、マスターキーワードパレットと同様のものです。これにより、2~3回のクリックで簡単にフィールドの値を割り当てることができます。個々のアイテムを開く必要もありません。

定義済みの値のリストを持ったカスタムフィールドを作成した場合、そのカスタムフィールドの名前を持った新しいパレットが自動的に「ウインドウ」メニューの「カスタムフィールドパレット」サブメニューの下に加えられます。

例えば、4つの定義済みの値を持つ「進行状況」という名前のカスタムフィールドを作成すると、「**進行状況を表示」**コマンドが「**ウインドウ」>メニューの下の「カスタムフィールドパレット」**サブメニューに追加されます。

「進行状況を表示」コマンドを選択すると、「進行状況」という名前の新しいパレットが開きます。パレットには、そのカスタムフィールドで使用できる定義済みの値のリストが表示されています。

フィールド値をパレットを使用して割り当てる

フィールド値をパレットを使用して割り当てるには:

- 1. フィールド値を入力するアイテムを選択します。
- 2. 選択したアイテムに割り当てるエントリをカスタムフィールドで選択します。
- 3. パレットの「割り当て」ボタンをクリックします。

カスタムパレットからエントリをドラッグアンドドロップするには:

- 1. カスタムフィールドから値をドラッグして、任意のサムネールにドロップし、エントリをそのアイテム に対応するカスタムフィールドに割り当てます。
- 2. 複数のアイテムに値を割り当てる場合は、まずギャラリーでアイテムを選択して、選択された任意のアイテム上にカスタムフィールドのエントリをドロップします。値は選択されたすべてのアイテムに自動的に割り当てられます。

フィールド値の編集コマンドを使用

フィールド値の編集コマンドは、キーワード、説明、任意のカスタムフィールドなどのすべての編集可能なPortf olioのフィールドの値を追加、削除、および編集する作業を高速化するために設計されています。

フィールド値を編集するには:

- 1. 編集するアイテムのサムネールを選択します。フィールド値の編集コマンドは選択したアイテムに対してのみ有効です。ギャラリー内の全アイテムの値を編集する場合は、「**編集」>「すべて選択」**を選んで、ギャラリーのすべてを選択します。
- 2. 「**アイテム」>「フィールド値の編集」**を選択して「フィールド値の編集」ダイアログボックスを開きます。
- 3. 「編集するフィールド」メニューから編集を行うフィールドを選択します。メニューには、カスタムフィールドを含むすべての編集可能なフィールドが表示されます。
- 4. 「編集方法」ラジオボタンからアクションを選択します。編集するフィールドに従って、データの「**置換」、「削除」、「追加」**または「**添付」**を行うことができます。
- 5. 追加、変更、または削除する値を「置換する値」フィールドで指定します。「置換」の場合は、置き換えられる値と、置き換える値の両方を指定する必要があります。
- 6. 「適用」ボタンをクリックします。

カテゴリー

Portfolioにはフォルダのような階層を使ってアイテムを視覚的に整理できる機能があります。これは、カテゴリーパレットからアクセスすることができます。たとえば、以下のような場合にこの機能を使えます。

- 低解像度画像、高解像度画像、RGB バージョン、CMYKファイルなど、ジョブファイルのすべてのバージョンを整理する。
- 文書ファイル、画像、フォントなど、印刷関連の仕事のすべての要素を整理する。
- 一般的なカテゴリー(たとえば動物)の中により範囲の狭いトピック(鳥)やサブトピック(水鳥)がある、入れ子構造のような階層的なキーワードの構造を使って画像コンテンツをカテゴライズする。

カテゴリーパレットは、カタログのアイテムにリンクされたフォルダの階層構造からなっています。このパレットのフォルダアイコンをダブルクリックすると、そのフォルダ内のすべてのカタログ化されたアイテムを表示できます。オプションで、フォルダ内のサブフォルダの中にあるアイテムも表示することができます。

カテゴリーパレットのオプションを使えば、手動でフォルダ階層を作成でき、アイテムをカタログからカテゴリーパレットのフォルダにドラッグして、アイテムをフォルダにリンクできます。

また、フォルダをカテゴリーパレットからMacintoshのFinderまたはWindowsエクスプローラにドラッグすれば、任意のローカルまたはネットワークボリューム上に、すべての仕事内容(フォルダ、サブフォルダ、およびカタログ化された内容)のコピーや、任意の数のフォルダやコンテンツのコピーを、1つの操作で簡単に作成することができます。

カテゴリーとオートシンク

カテゴリーもオートシンク もデジタルファイルを階層的なフォルダ構造に整理できます。しかし、両者はこの作業に対して非常に異なったアプローチを取っています。

カテゴリー機能はファイル整理のために、深い階層になったフォルダ構造を使っています。しかし、カテゴリーパレットで表示されるフォルダは仮想的なフォルダです。それらをコンピュータ上のフォルダに基づいて作成することはできますが、それらはネットワークやハードドライブ上にある本物のフォルダではありません。それらは、Portfolio環境の中で、心理的にファイルをグループ化したり整理したりする方法に過ぎません。コンピュータ上のフォルダとカテゴリーパレット内の「フォルダ」には、「実際」のリンクは存在していません。カテゴリーパレットのフォルダにアイテムをドラッグしても、ディスク上のオリジナルファイルには何も起こりません。オリジナルファイルは今まで存在した場所に存在します。

カテゴリーパレットを使えば、パレット上で設定した階層を正確に反映した一連の全く新しいフォルダをディスク上に生成できます。しかし、システム上の既存のフォルダにファイルを移動することはできません。

一方、オートシンクを使えば、ディスク上の実際のフォルダでファイルを整理することができます。Portfolioのフォルダパレットでフォルダをダブルクリックすると、ディスク上のそのフォルダの実際の内容が表示されます。オートリンクでは、Portfolioとフォルダの間には、ネットワーク上で「実際」の接続が存在します。オートシンクを使ってPortfolioでファイルを移動したりまとめたりするときは、ハードディスクやネットワーク上のオリジナルファイルをリアルタイムで移動させています。オートシンクは単なるカテゴライズの機能ではなく、ファイル管理機能です。

注意: カテゴリー機能は強力な管理機能ですが、ファイルを論理的にも物理的にも整理できるオートシンクの方が、ほとんどのユーザーにとって最も役に立ちます。

新しいカテゴリーの作成

カテゴリーパレットを使って新しいカテゴリーを作成するには:

- 1. アクセス権を管理者レベルに変更します。 **カタログ> アクセス権のレベル**を選択します。カタログのアクセスレベルを **管理者** に変更して、必要な場合はパスワードを入力し **OK**をクリックします。
- 2. カテゴリーパレットで、「新規」ボタンをクリックするか、パレットのフライアウトメニューから「新 規」を選択します。フォルダの名前を入力するよう求められます。
- 3. フォルダ名を入力して「**OK」**をクリックします。フォルダが、カテゴリーパレットで選択されているレベル(現在選択されているフォルダの下のレベル)に作成されます。
- 4. すべてのフォルダを作成し終わるまで、フォルダの作成を続けます(ステップ1と2)。
- 5. 必要に応じてフォルダを上下にドラッグして、望みのフォルダ構造にします。Mac OS X では、ドラッグ すると、どこに移動されるかを表す黒いバーが表示されます。

カテゴリーの削除

カテゴリーを削除するには:

- カテゴリーパレットで、削除するカテゴリーを選択し、次にパレットの一番下の「**削除**」ボタンをクリックします。
- フライアウトメニューから「**カテゴリーの削除**」を選択します。

アイテムをカテゴリーにリンクする

カテゴリーの作成が完了したら、そのカテゴリーを用いてカタログ化されたファイルを分類できます。

カタログ化されたアイテムを既存のカテゴリーにリンクするには:

- 1. カテゴリーパレットが開いていることを確認してください。
- 2. カテゴライズするアイテムを選択して、カテゴリーパレットの適切なカテゴリーにそれらをドラッグアンドドロップします。ギャラリーの選択されたアイテムが、そのフォルダにリンクされます。

ーまたはー

- 1. ギャラリーでアイテムを選択します。
- 2. カテゴリーパレットで、アイテムをリンクするカテゴリーを選択します。
- 3. カテゴリーパレットのフライアウトメニューから、「カテゴリーにアイテムを割り当て」を選択します。ギャラリーの選択されたアイテムが、そのカテゴリーの「フォルダ」にリンクされます。

アイテムを指定のカテゴリーに表示

指定したカテゴリー内のカタログ化されたアイテムを表示するには:

- 1. カテゴリーパレットで表示するカテゴリーフォルダを**ダブルクリック**します。
- 2. 選択されたフォルダ内のアイテムがギャラリーに表示されます。 カテゴリーとそのすべてのサブカテゴリーの中のアイテムを表示する場合は、パレットのフライアウト メニューから「**サブカテゴリーのアイテムを表示**」を選択します。選択されたフォルダとすべてのサブ フォルダ内のアイテムがギャラリーに表示されます。

アイテムをカテゴリーから削除

カテゴリーからカタログ化されたアイテムを削除するには:

- 1. カテゴリーから削除するアイテムを選択します。
- 2. カテゴリーパレットで「削除」ボタンをクリックするか、フライアウトメニューから「カテゴリーから アイテムの削除」を選択します。選択されたカタログアイテムはカテゴリーフォルダから削除されます が、「ギャラリー」や「カタログ」からは削除されません。

カテゴリーに基づいたフォルダーを作成

ファイルのカテゴリー化が完了したら、Portfolioは整理されたフォルダ構造をディスク上にコピーすることができます。この処理はオリジナルファイルを移動しないことに注意してください。この処理はカテゴリーパレットのフォルダ構造に基づいて、新しい場所にファイルのコピーを作成します。

カテゴリーに基づいたファイルとフォルダ構造を「カテゴリー」からディスク上に作成するには:

- 1. カテゴリーパレットで、コピー元のカテゴリーの最上位レベルのフォルダを選択します。
- 2. そのフォルダをFinder (Mac) またはエクスプローラ (Win) にドラッグします。Macでは、すべてのアイテムに対して 1 つのフォルダを作成するか、またはフォルダ階層を維持するかを尋ねるダイアログボックスが表示されます。

ーまたはー

- 1. パレットのフライアウトメニューから「**ファイルのコピーを作成**」を選択し、アイテムを保存するフォルダを選択します。
- 2. 「フォルダの作成」をクリックして、すべてのアイテムを1つのフォルダに置くか、「すべてのフォルダの作成」をクリックしてフォルダ階層を維持します。Portfolioは、カテゴリーパレットの各フォルダに対応する、新しい「本物の」フォルダをディスク上に作成し、各オリジナルファイルのコピーを適切なフォルダの中に置きます。

ファイルの配布

ファイルの電子メールによる送信

Portfolioカタログの中から電子メールで画像、低解像度のプレビュー、および他のデジタルファイルを他のユーザーに送ることができます。Portfolioは使用しているコンピュータの電子メールソフトウェアに直接接続します。これにより、手動で電子メールのソフトウェアを起動したり、画像の解像度を変更するために画像編集ソフトウェアを開いたりすることなく、画像を配布したり校正した画像を送付したりすることが容易にできます。

Portfolioからファイルを電子メールで送信するには:

- 1. 現在のギャラリーから送信したいアイテムを選択します。
- 2. ツールバーの**「電子メールで送信」**ボタンをクリックします。またはアイテムメニューから「電子メールで送信」を選択します。

Portfolioは、以下のファイルの送信方法を指定するように求めます。

- オリジナルファイルの送信
- 低解像度プレビューの送信
- 特定のピクセル幅のプレビューの送信
- 3. オプションを選択して「**OK**」をクリックします。Portfolioはシステムのデフォルトの電子メールソフトウェアを起動して新規メッセージを作成し、選択されたファイルをメッセージに添付します(プレビューのオプションが選択された場合はプレビューを生成し、添付します)。
- 4. 新規の電子メールは、電子メールソフトウェアで自動的に作成されます。電子メールの送付先アドレスを指定し、件名と本文を通常と同様に記入します。

注意:Portfolioから電子メールに添付できるアイテムの数やサイズに制限はありませんが、使用している電子メールクライアントソフトウェア、ネットワークの電子メールサーバー、またはインターネットサービスプロバイダには添付ファイルのサイズ制限がある場合があります。添付ファイルが非常に大きくなる場合は、それらのファイルを Portfolio の「収集」コマンドで集めて、FTPを用いてインターネットで転送するほうが良いかもしれません。

ファイルのディスクへの書き込み

Portfolioには、CD またはDVDに直接焼き付ける機能があります。他のCD/DVD作成ソリューションは必要ありません。

注意:「ディスクへの書き込み」機能は、オペレーティングシステムに依存します。また、Portfolioを使用して<u>ファイルを収集し、後でディスクに書き込むこともできます。</u>

ディスクへの書き込み機能を使えば、カタログにあるオリジナルファイルのアーカイブの作成や、クライアント 用のプレビュー画像ディスクの作成、またはオリジナルファイルのコピーの発行でさえ行うことが可能です。

オリジナルファイルまたはプレビューファイルのディスクへの書き込み

- 1. 必要であれば、外付けCDまたはDVD書き込み用の機器がコンピュータに接続されていることを確認します。
- 2. ドライブに空のディスクを挿入します。
- 3. ギャラリーパネルで、書き込むアイテムのギャラリーを開きます。そのギャラリーのすべてのアイテムがディスクの作成に使用されます。Portfolioでは、1つのカタログのみにあるファイルの書き込みがサポートされています。このオプションは、複数のカタログのアイテムを含むギャラリーでは使用できません。
- 4. 「ギャラリー」>「ディスクへの書き込み」を選択します。または、ツールバーから「ディスクへの書き込み」ボタンをクリックします。
- 5. 「ディスクへの書き込み」ダイアログボックスで、ディスクのボリューム名を入力します。これは、ディスクをドライブに挿入したときに、WindowsエクスプローラまたはMacintoshのFinderで表示される名前です。
- 6. 次の3つのファイルオプションから選択します。
 - 「**オリジナルファイル**」 フルサイズのオリジナルファイルを含みます。
 - オリジナルと同じサイズの低解像度JPEGファイル
 - X幅の低解像度のJPEGファイル-
 - このオプションを選択すると、ファイルのサイズ変更をして、特定のピクセル幅に合わせます。
- 7. 「**オリジナルファイル(このカタログ内のアイテムをディスク上のファイルに置き換える)」**は選択しません。このオプションは、<u>アーカイブディスク</u>の作成のみに使われます。
- 8. 含めたいファイルのフォルダ名を入力します。
- 9. 必要であれば、「フォルダ階層を維持してファイルを整理する」オプションをチェックしてください。 このオプションを使えば、ディスク上のオリジナルファイルのサブフォルダと同じ位置にサブフォルダ が作成されます。
- 10. ウインドウの1番下にある「**予想サイズ**」フィールドに表示される収集されたファイルの合計サイズ(メガバイト)をチェックして、書き込むボリュームに十分な空きスペースが有ることを確認してください
- 11. 「**書き込み**」をクリックしてアーカイブディスクを作成します。書き込みプロセスが終了した際、書き 込みセッションが閉じられ、その他のファイルをディスクに追加することができなくなります。

オリジナルファイルをディスクにアーカイブ

必要に応じて、オリジナルファイルのアーカイブディスクを作成することができます。アーカイブディスクを作成すると、オリジナルファイルがディスクにコピーされ、カタログからのパスははアーカイブディスクを示すように更新されます。カタログにはサムネールとアーカイブされたファイルのプレビュー画像がそのまま残りますが、オリジナルファイルを開くと、Portfolioによりアーカイブディスクを挿入するように求められます。

ファイルをディスクにアーカイブするには:

- 1. 必要であれば、外付けCDまたはDVD書き込み用の機器がコンピュータに接続されていることを確認します。
- 2. ドライブに空のディスクを挿入します。
- 3. ギャラリーパネルで、書き込むアイテムのギャラリーを開きます。そのギャラリーのすべてのアイテムがディスクの作成に使用されます。Portfolioでは、1つのカタログのみにあるファイルの書き込みがサポートされています。このオプションは、複数のカタログのアイテムを含むギャラリーでは使用できません。
- 4. 「**ギャラリー」>「ディスクへの書き込み」**を選択します。または、ツールバーから「**ディスクへの書き込み**」 ボタンをクリックします。
- 5. 「ディスクへの書き込み」ダイアログボックスで、ディスクのボリューム名を入力します。これは、ディスクをドライブに挿入したときに、WindowsエクスプローラまたはMacintoshのFinderで表示される名前です。複数のアーカイブディスクを作成する場合、たとえば、ARCHIVE001、ARCHIVE002などのようなアーカイブディスクの論理ボリュームによる命名規則を選択することが賢明です。 これによりアーカイブディスクを効果的に整理し素早く探すことができます。ボリューム名の長さは、最大16文字に限定されます。
- 6. Macでは、「オリジナルファイル(このカタログ内のアイテムをディスク上のファイルに置き換える)」を選択します。Windowsでは、「オリジナルファイルおよびディスクに書き込むファイルへのカタログのリンクパス」のオプションをチェックを選択します。
- 7. フォルダ名を入力して、ディスク上のオリジナルファイルを整理します。
- 8. 必要であれば、「フォルダ階層を維持してファイルの整理」オプションをチェックしてください。この オプションを使えば、オリジナルファイルのサブフォルダと一致するディスク上の場所にサブフォルダ が作成されます。
- 9. アーカイブディスクを作成すれば、元のカタログはオリジナルファイルの新しい場所を示すように更新されます。
- 10. ウインドウの1番下にある「**予想サイズ**」フィールドに表示される収集されたファイルの合計サイズ(メガバイト)をチェックして、書き込むボリュームに十分な空きスペースが有ることを確認してください
- 11. 「**書き込み**」をクリックしてアーカイブディスクを作成します。書き込みプロセスが終了したら、書き 込みセッションが閉じられ、その他のファイルをディスクに追加することができなくなります。ディス クに十分な空き容量がない場合には、書き込みの処理は完了できません。

アーカイブディスクに書き込みを行った後、オリジナルファイルはまだシステム上に残っていますが、カタログはすでにアーカイブディスクを参照しています。必要であれば、Finder (Mac) またはエクスプローラ (Win) を用いてシステム上のオリジナルファイルを削除してもかまいません。

ファイルの収集

Portfolioを使用していると、カタログ化されたファイルをコンピュータやネットワーク上のさまざまな場所からコピーして1か所に集めるのが便利だと思う場合が多くあるかもしれません。「ディスクへの書き込み」コマンドのように、「収集」コマンドは、ファイルをコピーして収集します。

「収集」機能を使用するのは次のような場合が考えられます。

- ネットワーク上に分散しているファイルを1つの場所にコピーする。
- ファイルを選択してネットワーク上の新しいフォルダにコピーし、他の人がそれらのファイルにアクセスして使用できるようにする。
- ファイルを1か所に集め、Portfolioのファイルと他の必要な内容をすべて含んだCDまたはDVDを作成する。これは「ディスクへの書き込み」コマンドを使うよりも「収集」コマンドを使う方が便利な点です。
- 配布とレビューのために低解像度のJPEG画像を集める。

ファイルを収集するには:

- コレクションに含めるすべてのファイルが現在のギャラリーに含まれていることを確認します。
- 2. ツールバーの「収集」ボタンをクリックします。または、「ギャラリー」>「収集」を選択します。
- 3. 以下から、収集するファイルの種類を選択します。
 - オリジナルファイル
 - 低解像度のJPEGファイル
 - 特定のピクセル幅の低解像度のJPEGファイル
- 4. コレクションの保存先を選択します。
- 5. 「フォルダ」ボタンをクリックする(Mac)か、または「参照」ボタンをクリック(Win)して、新しい コレクションがコピーされるフォルダを選択します。「フォルダの選択またはフォルダの参照」ダイア ログボックスで、既存のフォルダの選択または新しいフォルダの作成ができます。
- 6. Macでは、収集したファイルをCD-Rに書き込む場合、カタログ機能を付加して正常に動作させるには、CDをドライブに挿入してマウント したボリュームを収集先に指定してください。このアクションによってのみ、特定の場所にファイルを 収集し、ディスク作成を完了させないようにできます。
- 7. 収集したファイルをフォルダ階層にコピーする場合は、「フォルダ階層を維持してファイルの整理する」オプションをチェックします。収集されたファイルを単一のフォルダに収集する場合は、このオプションのチェックを外したままにします。
- 8. Windowsでは、コレクションをCD-Rに書き込む場合、「このボリューム名を新しいカタログで使用する」をオンにして、最終的にCDに付ける名前を入力します。これにより、アーカイブカタログのパスが正常に動作します。
- 9. ウインドウの1番下にある「予想サイズ」フィールドに表示される収集されたファイルの合計サイズ(メガバイト)をチェックして、書き込むボリュームに十分な空きスペースが有ることを確認してください
- 10. 「**収集**」をクリックします。Portfolioは現在のギャラリー内のすべてにアイテムをコピーします。

Webページの作成

Webページ作成アシスタントを使用すると、ウェブページを最初から作ったり、HTMLコードを直接書くことなく、Portfolioカタログから極めて簡単にウェブページを作成することができます。Webページ作成アシスタントを用いて生成されるウェブページは静的なものです。それをエクスポートした時点でのPortfolioの内容は、静止した「スナップ写真」のようなものです。

「Webページの作成」を使用すると、数クリックで洗練されたウェブページを作成することができます。直感的に操作できるWebページ作成アシスタントは、プロフェッショナルな出来映えのウェブページを作成する各操作をサポートします。

この機能はさまざまな方法で使用することができます。たとえば、「Webページの作成」を使用してウェブサイトのHTMLファイルパッケージを作成し、ディスクに書き込むことができます。

選択するサイトテンプレートに依存して、最大5つの簡単な操作でサイトを作成できます。サイトの各ページを 設定するために、以下の操作をアシスタントが順を追ってガイドします。

ウェブページを作成するための操作

- 「ウェルカム」 エクスポートするカタログ名と画像数を一覧表示します。
- 「開始」 ウェブサイトのレイアウトを選択します。
- <u>「サイト」</u> サイトのすべてのページに適用されるグローバル設定をここで設定します。サイトに「トップページ」を追加することもできます。
- 「ギャラリー」 ウェブページでの画像の表示方法を設定します。
- 「詳細」 通常1つの高解像度画像と他の詳細情報が表示される詳細情報ページを設定します。
- <u>「エクスポート」</u> -エクスポートする場所の設定と、テンプレートに加えられた変更の将来の再利用のための保存を行います。

Webページの作成 - 「開始」操作

Portfolioギャラリーの選択された画像のウェブページを作成するには:

- 1. ウェブページに含める画像のサムネールを選択します。「Webページの作成」コマンドは選択されたアイテムのみに作用します。ギャラリーで表示されているすべての画像を含めるときは、「編集」>「すべて選択」を選択します。
- 2. 「**アイテム」 > 「Webページの作成」**を選択します。
- 3. 「Webページ作成」アシスタントが表示されます。アシスタントが処理の各操作を案内します。以下では、各操作に関する詳細について説明します。

注意: HTMLコードによるウェブページ作成と同様、ウェブを見る人が使用するブラウザの種類とバージョンによりウェブページの見え方は異なります。作成されたページにアクセスするユーザーが使用すると想定されるすべてのブラウザで生成されたページをテストすることを推奨します。

開始操作

開始操作では8つのプロフェッショナルなデザインのテンプレートを選択することができます。これらのテンプレートをコピーして、特別なニーズに合わせてカスタマイズすることもできます。

操作の1番上のアシスタントパスにより、現在、エクスポート処理のどこまで進んでいるかのが分かります。各サイトアイコンをクリックすると、そのテンプレートの詳細が表示されます。

各テンプレートは特定のページレイアウトとデザイン情報を持っており、アシスタントは各テンプレートで設定可能なオプションとページのみを表示します。

開始操作以降、どの時点でも「Webページのエクスポート」をクリックすることができます。この場合、エクスポート操作までの以降の操作ではデフォルトの設定が使用されます。

デザイン済みテンプレートを使用するには:

- 1. 使用するテンプレートのアイコンをクリックしてハイライトします。
- 2. 「Webページのエクスポート」(または「エクスポート」)をクリックして、すべてデフォルトでサイト を設定します。または、「次へ」をクリックして、テンプレートのページを設定します。

Webページの作成 - 「基本設定」操作

「基本設定」操作ではグローバルサイトオプションを指定します。これらはサイトのすべてのページに表示されるアイテムです。

サイト設定(Webページのタイトル)

「Webページのタイトル」ボックスには、サイトを見るときにブラウザのタイトルバーに表示されるテキストを入力します。

サイトロゴ

すべてのページに表示するカスタムのグラフィックを選択することができます。これは、会社のロゴや、またはエクスポートされる画像グループの画像説明などになります。JPG、GIF、PNGファイルを使用することができます。最大サイズの推奨は150×90ピクセルです。

デフォルトのロゴのグラフィックを変更するには、「**参照」**ボタンをクリックして、使用するグラフィックの場所に移動します。

注意: グラフィックのファイル、HTML、および他のファイルはコンピュータ上のどこにあってもかまいません。サイトをエクスポートするときにアシスタントが自動的にすべてのファイルを集めます。

サイトヘッダーおよびフッター

「Webページのヘッダーとフッター」にはテキストまたはHTMLを入れることができます。ウェブサイトのナビゲーションボタン、または選択したものを何でもここに含めて、現在使用中の他のサイトと一致する外観を作成できます。ヘッダーおよびフッターの最大サイズの推奨は600×90ピクセルです。

「ヘッダー」または「フッター」ファイルを変更するには、「**参照」**ボタンをクリックします。選択したファイルが自動的にコピーされて、ファイル名がheader.htmlまたはfooter.htmlに変更されます。

注意: アシスタントでは特にリストされていませんが、新しいヘッダー、フッターまたはロゴを指定しないかぎり、デフォルトテンプレートを使用する場合はヘッダー、フッター、Webページのロゴは必ず含まれます。

トップページ

トップページは、サイトのユーザーに最初に表示するページです。サイトのナビゲート方法などの重要な情報を入れることができます。トップページは、480×480ピクセルの推奨される最大サイズまで拡大でき、テキストまたはHTMLを入れることができます。

ホームページへのリンクを含める

このオプションをチェックすると、すべてのページに指定したホームページへのリンクが設定されます。ほとんどのテンプレートでは、ロゴのグラフィックがリンクになっており、このテキストボックスに入力されたURLを使用します。

Webページの作成 - 「ギャラリー」操作

ギャラリー操作では、アイテムのサムネールを表示するウェブページを設定します。このステップで、ページのデザイン、サムネールのサイズ、表示するデータフィールド情報などを指定します。

ページスタイル

最初の操作はギャラリーのページスタイルの選択です。「ページスタイル」では、ページの一般的な機能とページの「外観」が定義されます。ページスタイルは、どのアイテムをどこに表示するかを決めるものです。他のページスタイルを選択するまで、デフォルトが選択されます。

ページスタイルを選択するにはページスタイルアイコンをクリックしてハイライトします。

スタイルシート

選択するサイトに応じて、複数のスタイルシート候補が表示されることがあります。スタイルシートでは、サイトのカラースキーム、通常は最終的なページ上の各アイテムの背景色とテキスト色を制御します。

サムネールオプション

「サムネールオプション」を使えば、表示される画像のサイズ、縦横のレイアウト、および画像をクリックした際の動作を設定できます。

サムネールサイズは、カタログ内のサムネールのサイズに依存します。「オリジナルサイズ」を選択した場合は、カタログのサムネールサイズが使用されます。

注意: カタログのサムネールのサイズより大きいサイズを選択すると、サムネールの表示品質が低下する可能性が高くなります。したがって、カタログでサムネールが112ピクセルで作成されている場合は、112より大きいサ

イズを入力するべきではありません。新しい設定を選択した場合は、必ずページをプレビューして確認してください。

ドロップダウンメニューから、ユーザーがサムネールをクリックした結果として発生するアクションを選択します。「**詳細の表示」**を選択すると「詳細情報ページ」が表示されます。その他のオプションは、各表記のとおりです。

表示フィールド

ページスタイルによっては、多くのデータフィールドを表示することができます。ページに含めるデータフィールドをチェックして、フィールドをクリック、およびドラッグし、適切な表示順序に並べ替えます。

注意表示するフィールドの順序を選択するときは、ページのユーザーに対する表示方法によりフィールドをグループ化するのが最良の方法です。フィールドはそのデータタイプに応じて、テキストボックス、プルダウンメニュー、またはハイパーリンクとして表示されます。デフォルトのテンプレート設定は通常、テキストボックス、プルダウンメニュー、ハイパーリンクの順にフィールドをグループ化しています。

- 1. テキストボックス
- 2. プルダウン
- 3. ハイパーリンク

Webページの作成 - 「詳細情報」操作

「詳細情報」ページは、ただ1つの画像が、他のページに表示されるサムネールよりも大きいサイズ、高い画質で表示されるページです。このステップでは、「詳細情報」ページオプションを設定します。

ページスタイルとスタイルシート

ページスタイルとスタイルシートオプションは前のページと同様の動作をします。ページスタイルをクリックしてハイライトし、ドロップダウンリストからスタイルシートを選択します。

画像オプション

表示する画像、その画像のサイズ、ユーザーが画像をクリックした結果として発生するアクションを選択することができます。

「使用する画像」では、ウェブブラウザ上でどの画像を表示するかを指定します。次の中から1つを選択します

- 「オリジナル」はオリジナル画像を表示します。この設定を使用する場合は、必ず具体的な画像のサイズを次のフィールドで設定してください。
- 「プレビュー」はカタログからの画面プレビューを使用します。カタログが画面プレビューを含んでいない場合は、オリジナル画像が使用されます。
- 「サムネール」はカタログのデフォルトサムネールを使用します。

「オリジナル」以外でサイズを設定した場合は、Portfolioによって画像が選択されたサイズに変更されます。

注意: 画像サイズと「使用する画像」の両方に「オリジナル」を選択した場合、ウェブブラウザで表示できないファイル(TIF、PSDなど)は詳細画像を表示できません。この問題を解決するには、「オリジナルサイズ」以外の画像サイズを選択してください。これにより、Portfolioが自動的に新しい画像を作成します。

ユーザーがオリジナルファイルを開くことのできるリンクまたはボタンを追加するには、「**画像のクリックでオリジナルを表示**」を選択します。

表示フィールド

ページスタイルによっては、多くのデータフィールドを表示することができます。ページに含めるデータフィールドをチェックして、フィールドをクリック、およびドラッグし、適切な表示順序に並べ替えます。

Webページの作成 - エクスポート操作

「エクスポート」操作では、サイトをエクスポートする場所とテンプレートのコピーを保存する場所を指定します。

テンプレート設定のコピーの保存

すべての選択をした後、同じ設定をまた使用するために選択内容を保存する場合があるかもしれません。選択内容を保存するには、レイアウトの説明を入力して「コピーを保存(または「名前を付けて保存」)」ボタンをクリックします。次回ウェブページ作成アシスタントを使用するときに、保存されたテンプレートが他のデフォルトテンプレートとともに一覧表示されます。

サイトのエクスポート

- 1. 「保存場所」ボックスにディレクトリを入力します。「**参照」**ボタンをクリックして、保存するディレクトリに移動します。
- 2. 「エクスポート」をクリックします。

注意: 選択したアイテムの数によっては、サイトのエクスポートには非常に長い時間がかかる場合があります。

独自のWebページテンプレートを作成

作成したテンプレートへのカスタマイズを保存するには、以下の方法を使用することができます。

- 開始操作でテンプレートをコピーします。
- **エクスポート操作**で「**コピーの保存」**ボタンを使用します。
- Webページ作成アシスタントの各手順で「ソースの表示」ボタンを使用しソースコードを表示および編集します。

テンプレートの変更をデフォルトテンプレートに直接保存することはできません。これは、ユーザーが常にデフォルトテンプレートにアクセスできるようにしているからです。

テンプレートをコピーするには:

- 1. Webページ作成アシスタントの「開始操作」で、サイトアイコンを**右クリック**して、メニューから「複製」を選択します。
- 2. ダイアログボックスで新しいテンプレートの名前を入力して、「OK」をクリックします。
- 3. 新しいテンプレートアイコンをクリックしてハイライトします。
- 4. 「**次へ**」をクリックして、新しいテンプレートを使ったページの設定を始めます。

注意: アシスタントの<u>「エクスポート」</u>操作では、テンプレートを保存するオプションがあります。必ず「**保存**」をクリックして後で使用ができるようにしてください。

Webページテンプレートの非表示及び再表示

Webページ作成アシスタントの「開始操作」には、今後使用しないと思われる複数のテンプレートが存在する可能性があります。インターフェースを単純にするには、それらの表示を非表示にすることができます。テンプレートを隠しても削除されることはありませんので、いつでも再表示できます。

テンプレートを非表示にするには:

• サイトのアイコンを**右クリック**して、メニューから「隠す」を選択します。

テンプレートを再表示するには:

- 1. 任意のサイトのアイコンを**右クリック**します。
- 2. 「再表示」から以下のいずれかを選択します。
- 「**すべてを表示」(または「すべて」)**を選択して、すべての隠されたテンプレートを表示します。
- 再表示する特定のテンプレート名を選択します。

Webページのソースコードの編集

HTMLの知識があれば、Webページ作成アシスタントでソースコードを直接編集することができます。

ソースコードを表示するには、ギャラリー操作または詳細情報操作から、「**ソースの表示**」ボタンをクリックします。このツールを使えば、定義済みのソースコードの細かい調整も簡単に行えます。

ソースコードエディタでは以下のことができます。

- ページのソースコードを直接編集することができます。
- デフォルトのウェブブラウザに変更内容をプレビューできます。
- 現在のソースコードをファイルにエクスポートすることができます。
- ファイルを読み込み、現在のソースコードをインポートしたファイルで置換することができます。
- 編集されたソースファイルを「保存」または「別名で保存」(または「名前を付けて保存」)することができます。

注意:コピーしたテンプレートまたはカスタマイズ可能なテンプレートで作業している場合は、「**保存」**しか選択できません。あらかじめ設計されたテンプレートで作業している場合は、「**別名で保存」(または「名前を付けて保存」)**を選択して新しいファイルを作成してください。

注意:ソースファイルを編集する場合、ページの機能が損なわれて、できあがったサイトが正常に動作しない可能性があります。ソースファイルを編集する場合は注意してください。ページ設定をすべて選択する前に、ソースを見ておくことをお勧めします。これによって、アシスタントにより設定されるパラメータをより良く理解することができ、ページの機能を損なう可能性が少なくなります。

「閉じる」ボタンをクリックすると、「Webページ作成アシスタント」に戻ります。

Webページの配布

HTMLファイルをWebサーバーにFTPで送信

「Webページの作成」ツールを使用してWebページを作成後、Webサーバーがあれば、Webサーバーに作成したファイルをアップロードすることができます。市販されている、またはオペレーティングシステムの FTP ツールを使用することができます。

Mac OS X オペレーティングシステムでファイルをFTP送信するには:

- 1. Finder内で、「**移動」>「サーバーへ接続」**を選択します。
- 2. 「サーバーへ接続」ダイアログボックスで、サイトのFTPの場所を入力して「**接続」**をクリックします。
- 3. ユーザー名およびパスワードを入力して、「OK」をクリックします。FTPサイトがネットワークボリュームのようにマウントされます。これで、ファイルを新しい場所に直接ドラッグアンドドロップすることができます。

Windows XP オペレーティングシステムでファイルをFTP送信するには:

- 1. 「Windows エクスプローラ」ウインドウを開きます。
- 2. サイトのFTPアドレスをアドレス行に入力します。
- 3. ユーザー名およびパスワードを入力して、「**ログオン**」をクリックします。FTPサイトが他のネットワークサイトのように開かれます。これで、エクスプローラウィンドウのように、ファイルを新しい場所にドラッグアンドドロップまたは移動することができます。

HTMLファイルのディスクへの書き込み

Webページの作成コマンドを使用すると、完全にカプセル化されたWebサイトを作成でき、HTMLおよび関連ファイルが含まれたディレクトリをCD、DVD またはその他のリムーバブルメディアに書き込むことができます。これにより、Webブラウザでindex.htmlを直接開くことができます。

ネットワーク上でHTMLファイルを共有

Mac OS X およびMicrosoft Windows XP Proを使用して、 直接デスクトップからパーソナルWebサイトを作成および使用できます。このパーソナルWebサイトは内部ネットワーク上で他のユーザーと簡単に共有することができます。

Mac OS X でパーソナルWebサイトを作成するには:

- 1. 「システム環境設定」ダイアログボックスで、「共有」を選択します。
- 2. 「パーソナルWeb共有」サービスを有効にします。 コンピュータ名およびIPアドレスをメモしてください。他のユーザーがWebページにアクセスできるようURLを配布するときに、この情報が必要になります。
- 3. 「ホーム」フォルダから、「サイト」フォルダに移動します。
- 4. HTMLおよびすべての関連ファイルを「サイト」フォルダにコピーします。
- 5. 他のコンピュータのユーザーは、次のURLをWebブラウザに入力すると、Webページが閲覧可能になります。URLには、ホストのIPアドレス、またはコンピュータ名のいずれかを含めることができます。http://IPaddress/~username/たとえば、http://10.1.5.165/~jim/ -または-http://computername.local/~username/たとえば、http://jimscomputer.local/~jim/

コンピュータ名は「システム環境設定」の「共有」を参照してください。

Windows XP ProfessionalでパーソナルWebサイトを作成するには:

- 1. パーソナルWebページを共有するには、IIS(Internet Information Services)をインストールする必要があります。この機能はWindows XP Professionalで使用できますが、Windows XP Home Editionには含まれていません。「コントロールパネル」の「アプリケーションの追加と削除」を選択してIISを追加します。インストールに関しての詳細は、Windowsのマニュアルを参照してください。
- 2. Windows エクスプローラを使って、Webページディレクトリ上のすべてのファイルを次の場所の新しいフォルダに移動します。*C:* \netpub\wwwroot\foldername\ **注意:** ファイルの格納場所は他の場所でもかまいませんが、この場所に格納することをお勧めします。
- 3. Webサイトを含むフォルダを「**右クリック**」して、メニューから「**プロパティ**」を選択します。
- 4. 「プロパティ」ダイアログボックスで、「Web共有」タブを選択します。
- 5. 「**このフォルダを共有する**」オプションを有効にします。
- 6. 「エイリアスの編集」ダイアログボックスに共有フォルダのアクセスオプションが表示されます。デフォルトのオプションでは、ユーザーはファイルにアクセスできますが、サイトに上書きできません。これらのオプションについての詳細は、Windows XPのマニュアルを参照してください。エイリアス名は、URLの一部になるため、できれば短めにしてスペースの代わりにアンダースコアを使用してください。「OK」をクリックしてエイリアスの編集を終了します。
- 7. ネットワークドメイン環境であれば、「**インターネットゲストアカウント**」アクセスをこの共有フォル ダに許可する必要があります。
- 8. 「プロパティ」ダイアログボックスで、「セキュリティ」タブを選択して、**「追加」**をクリックします
-). 「**ユーザまたはグループの選択」**ダイアログボックスで、「**場所」**をクリックします。
- 10. 「場所」ダイアログボックスで、ローカルのマシン名をハイライトして「OK」をクリックします。
- 11. 「**選択するオブジェクト名**」の欄に、「IUSR_」に続けてコンピュータ名を入力して「**OK**」をクリックします。
- 12. 「OK」をクリックして新しいWeb共有とセキュリティオプションを設定します。
- 13. 「スタート」>「ファイル名を指定して実行」を選択します。
- 14. 「ファイル名を指定して実行」ダイアログボックスで、「inetmgr」と入力して「**OK」**をクリックします。インターネットインフォーメーションサービスの設定ウィンドウが表示されます。
- 15. IISで、Webページの場所に移動します。
- 16. Webページのディレクトリで**右クリック**して「**プロパティ」**を選択します。
- 17. サイトの「プロパティ」ダイアログボックスで「**ディレクトリ セキュリティ**」タブを選択し、「**匿名ア クセスおよび認証コントロール**」の「**編集**」ボタンをクリックします。
- 18. 「認証方法」ダイアログボックスで、「匿名アクセス」オプションをチェックします。「IUSR_computername」ユーザーが匿名アクセスユーザ名として自動的に選択されます。別のユーザー名を指定するときには、「参照」ボタンをクリックしてユーザー名を選択します。
- 19. 「OK」をクリックして認証方法の設定を終了し、再び「OK」をクリックしてサイトのプロパティも終了します。*注意*:外部の干渉からIISを保護する必要があります。コンピュータがメールサーバーとして使用されていない場合、IISを保護する最も簡単な方法は既定のSMTP仮想サーバーを停止します。停止するには、「既定のSMTP仮想サーバー」を右クリックしてメニューから「停止」を選択します。IISの保護に関しての詳細は、次のサイトをご覧ください。http://www.microsoft.com/technet/Security/chklist/iis5
- 20. これでWebサイトのURLを共有できます。サイトへは、以下のようなURLからアクセスします。http://IP address/alias/index.htmlたとえば、http://10.3.345.2/mytestsite/index.htmlまたは、http://computer name/alias/index.htmlたとえば、http://tsmith/mytestsite/index.html

注意: 他のマシンからIISサーバーへの接続に問題がある場合は、IISを再起動してみてください。「既定のWebサイト」を**右クリック**して、メニューから「**停止**」を選択し、再び**右クリック**して「**開始**」を選択します。

スライドショー

Portfolioのスライドショー機能を使えば、カタログの画像(サムネールではない)から自動的に実行されるスライドショーを作成できます。スライドショーは、指定した間隔、または手動で画像を進めます。スライドショーを他の人に配布するために、スタンドアロンのQuickTimeムービーとして保存することも可能です。

Portfolioはアクティブなギャラリーのファイルをスライドショーに使用します。スクリーンは空白になり、現在のギャラリービューの背景色の上で画像が表示されます。画像を実際のサイズで表示するか、スクリーンを最大限に利用するサイズに変更するかを選択できます(アイテムがスクリーンで表示するには大きすぎる場合は、自動的に縮小されます)。

スライドショーで使用するアイテムを探すときに、画面プレビューが存在する場合は、画面プレビューが表示されます。画面プレビューが見つからず、ソースファイルも見つからない場合は、アイテムのサムネールが表示されます。

スライドショーの作成

スライドショーを作成するには

- 1. スライドショーで使用するアイテムをすべて含むギャラリーを作成します。
- 2. ギャラリー内のアイテムをクリックし、表示したい順番にドラッグして並べ替えます。スライドショーは、3D画像、ムービー、およびサウンドを含むことができます。Portfolioでプレビューできるものはすべてスライドショーで表示できます。
- 3. 「表示」>「スライドショー」を選択するか、Command + Shift + S (Mac) またはCtrl + : (Win) を押します。
- 4. 手動で操作するスライドショーでは、コントローラーの矢印を使って、次または前のアイテムに移ります。または、キーボードの左右の矢印キーを使って、スライドショーの中で前後のアイテムに移動できます。HomeまたはEndキーを使えば、スライドショーの最初または最後に移動できます。時間で自動的に切り替わるスライドショーは自動的に開始します。ミニコントローラーの一時停止ボタンを使えば、プレゼンテーションの停止や開始、再開を行うことができます。スライドショーが「連続再生」でなければ、最後のアイテムが表示されると終了します。
- 5. スライドショーを中断してギャラリーに戻るには、コントローラーの「**停止**」ボタンを押すか、キーボードの**Esc**キーを押します。時間で切り替えのスライドショーの場合、指定された時間間隔がたってから画像の読み込みが始まり、大きい画像の場合は読み込みに最大2~3秒かかるということに注意してください。

スライドショーのオプションを設定

スライドショーのオプションを設定するには:

- 1. 「表示」>「スライドショーのオプション」を選択します。
- 2. 「スライドショーのオプション」ダイアログボックスの「スライドの切り替え」セクションで、「手動」または「一定の時間で自動切り替え」を選択します。手動によるスライドショーでは、矢印キー、または画面上のビデオのようなスライドショーコントロールを使って画像を切り替えます。一定時間で自動的に切り替わるスライドショーでは、スライドは自動的に進みます。時間間隔を最大99秒まで設定できます。
- 3. 表示サイズを選択します。「**実際のサイズ**」は、画像をソースファイルの画像の実際のサイズで表示します。「**画面に合わせて表示**」では、Portfolioが画像をディスプレイの画面サイズに合わせて拡大します。いずれの場合も、画像が大きすぎる場合は、画面に合わせて縮小されます。
- 4. スライドショーの他のオプションを設定します。スライドショーを連続再生する場合は、「連続再生」 チェックボックスをオンにします。スライドショーで画像とともにフィールド(たとえば、ファイル名 、またはカスタムフィールドに保存されたキャプション)を表示する場合は、「フィールドの表示」チェックボックスをオンにして、ドロップダウンメニューからフィールドを選択します。スライドショー を実行すると、画面の下に沿って、画像の下に(現在のギャラリーで使用されているフォントで)フィールドテキストが表示されます。
- 5. すべてのオプションの設定が完了したら、「OK」をクリックします。これでスライドショーを実行する 準備が整いました。

スライドショー中にファイルを編集

スライドショーの間に表示される手動のコントローラーを使用して、Portfolioカタログのアイテムを素早く編集することができます。これらのコントロールを使用すると、素早く必要のないアイテムを削除したり、ファイル名を変更したり、他の便利な機能を実行できます。

- Portfolioカタログからアイテムを削除します。
- オリジナルファイルを削除します。
- ★リジナルファイルを移動します。
- ale オリジナルファイルの名前を変更します。

スライドショーの自動開始

カタログが開かれたときにスライドショーを自動的に実行させることができます。

スライドショーを自動で開始するには:

- 1. 「カタログ」>「カタログ管理」を選択します。
- 「起動時の動作」タブで、「スライドショーを開始する」オプションを有効にします。
- 3. 次回カタログを開いたとき、「すべてのアイテムのギャラリー」のスライドショーが自動的に起動します。

スライドショーのQuickTimeムービーへの保存

「QuickTimeムービーを作成」オプションはカタログのアイテムをエクスポートして、QuickTimeムービーのフォーマットで保存します。スライドショーをエクスポートする場合は、ムービーのトランジションを指定します

スライドショーをQuickTimeムービーとしてエクスポートするには:

- 1. QuickTimeムービーを使ったスライドショーとしてエクスポートするギャラリーを開きます。
- 2. 「アイテム」 > 「QuickTimeムービーの作成」を選択します。
- 3. ムービーのサイズを設定し(ピクセル数で)、各スライドのタイミングを設定し、「画像切り替え時のエフェクト」をドロップダウンボックスから選択します。
- 4. 「編集」ボタン(Win)または「選択」ボタン(Mac)をクリックして、画像を切り替えるときのエフェクトを設定します。各エフェクトに特有のオプションがあります。画像を切り替えるときのエフェクトのオプションを設定して、「OK」をクリックします。
- 5. 「OK」をクリックして、QuickTimeムービーの設定を終了します。
- 6. ムービーファイルの名前と保存場所を選択します。
- 7. 「保存」をクリックします。

注意: スライドショーをエクスポートするときに、オリジナル画像(アイテムのソースファイル)が見つからない場合は、カタログのサムネールが代わりにエクスポートされます。QuickTimeムービーファイル(.mov)をエクスポートした場合は、エクスポートされたファイルは空になります。

Portfolio Express

Portfolio Expressパレットはフローティングパレットで、いつでもすべてのアプリケーションからグローバルキーボードショートカットにより、Portfolioカタログの内容を簡単に利用できるようにします。カタログ化したすべてのファイルを検索したり、コピーしたり、開いたりして使用することができます。 Portfolioを起動して開く必要もありません。パレットは、カタログ中の各アイテムのサムネールをファイル名とともに表示します。

Portfolio Expressパレットには以下のような使い方があります。

- パレットを使って画像をすばやく探し出し、見つけた画像をダブルクリックして、Adobe Photoshopや 指定した他の画像編集ソフトウェアでその画像を開くことができます。
- パレットを開いて、Microsoft WordやAdobe InDesignのようなドラッグアンドドロップに対応したアプリケーションに画像をドラッグすることができます。
- 電子メールを作成しているときに、パレットからファイルをつかみメッセージにドラッグすることにより、そのファイルを添付することができます。
- パレットからロゴ、クリップアート、または他の画像を選択して、PowerPointのスライドやWordの文書に直接ドラッグできます。
- Portfolio Expressホットキーを押して、パレット上の画像を選択し、「Finderで表示」または「エクスプローラで表示」コマンドを選択するだけで、ディスク上にある画像を今までにはない速さで見つけ出すことができます。

Portfolio Expressパレットは、システムのどの場所からでも、画像にすばやく、簡単にアクセスできるよう設計されています。Portfolio Expressパレットでは、Portfolioへ新しいアイテムをカタログ化したり、既存のPortfolioレコードを編集したり、キーワードを追加したり、他のファイル管理のタスクを実行したりすることはできません。

Portfolio Expressパレットは、カタログ化されたアイテムを選択して使用することを容易にします。Portfolioカタログを編集したり、他のファイル管理を行うには、メインのPortfolioアプリケーション(パレットから起動できる)を使用してください。

Portfolio Expressパレットは完全にバックグラウンドで実行されるので、Macintosh DockやWindowsのツールバーにアイコンは表示されません。

Portfolio Expressを起動

Portfolio ExpressパレットはPortfolioとは異なる、独立したアプリケーションです。デフォルトで、Portfolio Expre ssパレットはメインのPortfolioアプリケーションと同じフォルダにインストールされます。

Portfolio Expressをインストール後、最初に起動するには:

Macintosh:Portfolio Expressを起動するには、Portfolio Expressのアイコンをダブルクリックします。Macintoshの場合、デフォルトではPortfolio Expressは自動的に起動するアプリケーションとしてインストールされます。

Windows:Portfolio Expressパレットはスタートアップアプリケーションとしてインストールされるので、起動時にバックグラウンドで実行されます。デフォルトのホットキーを押す(**Ctrl + Shift +**

P) か、システムトレイのPortfolio Expressのアイコンをダブルクリックすると、パレットが表示されます。

Portfolio Expressのアプリケーションがバックグラウンドで実行されていない場合は、「スタート」>「すべてのプログラム」>「Extensis」>「Portfolio」>「Portfolio Express」の順に選択します。

Portfolio Expressでカタログを開く

Portfolio Expressパレットを最初に起動するときにはパレットは空で、カタログメニューには「開いているカタログがありません」というメッセージが表示されます。

Portfolio Expressでカタログを開くには:

- 1. パレットの右側のフライアウトから「カタログを開く」を選択します。
- 2. カタログに移動して、「開く」を選択します。

最近使ったカタログを開くには、パレットのカタログドロップダウンメニューからカタログ名を選択します。

Portfolio Expressパレットは最近開いたカタログをいくつか記憶しています。開きたいカタログが、最近使ったカタログのメニューに表示されない場合は、メニューから「カタログを開く」を選択してそのカタログを探します

パレットを使って一度開かれたカタログは、パレットの一番上にあるカタログメニューを使って順番を切り替えることができます(開いているカタログは常にメニューの一番上に表示されます)。

注意:Portfolio Expressパレットを使ってPortfolioカタログを開く方法は、メインのPortfolioアプリケーションでカタログを開く方法と全く同じです。カタログがパスワードで保護されている場合は、パレットからカタログを開くために適切なパスワードを入力するように要求されます。

Portfolio Expressを使用した検索

Portfolio Expressパレットでカタログを開けば、パレットの上方、カタログのドロップダウンメニューのすぐ下にある「クイック検索」ボックスで任意のアイテムを検索することができます。

Portfolio Expressパレットの「クイック検索」ボックスは、メインのPortfolioアプリケーションの「クイック検索」ボックスと全く同様に使用できます。任意のフィールドの組み合わせに基づいてファイルを検索することができます。「クイック検索」で使われるフィールドの組み合わせは、Portfolioの「クイック検索の環境設定」で設定します。

注意: Portfolio Express の「クイック検索」ツールはPortfolio Server 管理者が定義したものと同じ検索パラメータを使用します。

Portfolio Expressを使用してクイック検索を行うには:

- Portfolio Expressの「クイック検索」ボックスをクリックして、ボックス内に単語またはフレーズを入力し、**Return**キーを押します。マッチするアイテムがパレットに表示されます。
- また、最近使った「クイック検索」をドロップダウンメニューから選択し、虫眼鏡アイコン をクリックするすることでその検索を実行することができます。

Portfolio Expressのカタログの中のすべてのアイテムを表示するには、「クイック検索」フィールドの右にある「虫眼鏡」アイコン をクリックしたまま、メニューから「すべてを表示」を選択します。

Portfolio Expressを使用してファイルにアクセス

Portfolio Expressパレットを使ってカタログ化されたアイテムに直接アクセスするには、以下の方法が使えます。

- サムネールをダブルクリックして、オリジナルのファイルを編集する。サムネールを選択して、フライアウトメニューから「オリジナルの編集」コマンドを選択することもできます。
- サムネールをAdobe Photoshop、Illustratorのような編集ソフトウェアのエイリアス(またはショートカット)の上にドラッグして、それらのソフトウェアで画像を開く。
- サムネールを (Microsoft WordやAdobe InDesignのような) ドラッグアンドドロップに対応したアプリケーションの文書にドラッグして、それらの文書に画像をコピーする。
- サムネールを**右クリック**して、メニューから「**エクスプローラで表示**」(Win)または「**オリジナルの** 表示」(Mac)を選択する。
- サムネールを選択して、フライアウトメニューから「エクスプローラで表示」(Win)または「Finderで表示」(Mac)を選択する。
- パレットの右上隅にある「Portfolio」ボタンをクリックするか、フライアウトメニューから「**Portfolioへ切り替え**」コマンドを選択して、Portfolioで現在開かれているカタログを開く。
- サムネールをパレットから電子メールのメッセージにドラッグすることにより、オリジナルファイルのコピーをそのメッセージに添付する。
- Macintoshで、サムネールをQuarkXPressの文書にドラッグして、XPressレイアウトに画像を配置する。 サムネールをピクチャボックスにドロップすると、選択された画像が既存のピクチャボックスに配置されます。 それ以外の場合は、Portfolio Expressがその画像のための新しいピクチャボックスを作成します

注意:ファイルサーバー上のカタログ化されたアセットを使用する場合、必ずマウントを共有してください。

Portfolio Expressのホットキーを設定

Portfolio Expressをバックグラウンドで実行していれば、Portfolio Expressパレットのホットキーを押すだけで、カタログ化された画像にアクセスすることができます。

Portfolio Expressパレットのホットキーを設定するには:

- 1. パレットの右側のフライアウトメニューから「ホットキーの設定」コマンドを選択します。
- 2. Windowsでは、「ホットキーを使用可能にする」チェックボックスがオンになっていることを確認してください。それから、ホットキーのフィールドをクリックして、「ホットキー」として使いたいキーの組み合わせを押してください。Macintoshでは、ダイアログボックスが開いたら、使いたいキーの組み合わせを押すだけです。
- 3. 「OK」をクリックして、新しいホットキーをアクティブにします。ホットキーを使えばPortfolio Expres sパレットの表示/非表示を切り替えることができます。

Portfolio Expressを自動的に起動

Portfolio Expressを自動的に起動してバックグラウンドで実行するようにしておけば、Portfolio Expressパレットのホットキーを押すだけで必要なときに画像にアクセスすることができます。

MacintoshでPortfolio Expressを自動的に起動するには:

Macintoshでは、Portfolio Expressパレットは、マシンを立ち上げたときに自動的に起動するように設定されています。何らかの理由で起動項目から削除された場合は以下の手順で再度追加してください。

- 1. Mac OS X の「システム環境設定」ダイアログボックスを開きます。
- 2. 「アカウント」ウインドウを開きます。
- 3. 「起動項目」タブをクリックし、「+」ボタンをクリックします。
- 4. 「追加」ダイアログボックスで、Portfolio のディレクトリに移動します。Portfolio Expressのアイコンを クリックしてハイライトさせ、「追加」をクリックします。次回コンピュータを起動したときに、Portfo lio Expressは自動的に実行されます。

WindowsでPortfolio Expressを自動的に起動するには:

- 1. Windows エクスプローラで、 \Documents and Settings\All Users\Start Menu\Programs\Startupに移動します。
- 2. 新しいエクスプローラのウインドウを開いて、Portfolioをインストールしたディレクトリに移動します。 これは通常次のディレクトリです。 \\Program Files\Extensis\Portfolio\
- 3. Portfolioのフォルダから、Portfolio ExpressのアイコンをAltキーを押しながらクリックして「スタートアップ」メニューにドラッグします。Portfolio Expressのショートカットが作成されます。次回コンピュータを再起動したときに、Portfolio Expressは自動的に実行されます。

成功事例

効率的なワークフローの定義

デジタルデータを管理する場合、効率的なワークフローが欠かせません。Portfolioは、アセットの整理、追跡、 共有を支援するように設計されています。パワフルで柔軟な機能を備え、ワークフローに合わせて自由に活用す ることができます。

しかし、Portfolioの柔軟性は、両刃の剣に例えることができます。ファイルの管理には多角的なアプローチを採ることができますが、状況に最適な方法を決定するには注意深い計画が必要となるからです。

ユーザーのニーズは多種多様ですが、このガイドを参考にして、ニーズに合ったワークフローを作成できる、アセットマネージメントの最良のアプローチを理解してください。

ほとんどのワークフローは、次のような簡単なステップから構成されます。

- 1. カタログにするファイルを集めます。
- 2. ファイルをカタログに取り込みます。
- 3. ほかのユーザーとファイルを共有します。
- 4. ファイルをアーカイブします。

ワークフローに応じたニーズの相違点は、各ステップで詳しく説明します。またニーズは、Portfolioをワークグループ環境で使うか、スタンドアロンで使うかということによっても変わってきます。

ワークグループ環境でのPortfolio設定

ワークフローを設定する前に考えておくべき点がいくつかあります。このガイドは、次のような点を考慮する際にお役立ていただくことを目的としており、明確で効率的なワークフローを維持するための基準について説明します。

カタログの作成

ワークフローの段階に合わせて、複数のカタログを作成しますか?

キーワードの利用

カタログに取り込んだファイルを表わす最も使用頻度の高いキーワードは何ですか?

進行状況の確認

どのようなカスタムフィールドを作成しますか?

例えば「進行状況」というカスタムフィールドを作成し、ワークフローの進行状況に応じて事前に定義されたフィールド値(企画、デザイン、編集など)を割り当てると、進行状況を簡単に確認できます。

ユーザーのアクセス

公開したウェブページからファイルをダウンロードできるようにしますか? またはPortfolioを使ってカタログに直接アクセスしますか? カタログにアクセスするユーザーの数は? 各ユーザーが持つアクセス権のレベルは?

共有

複数のユーザーとファイルを共有する計画がありますか? ファイルをウェブサイトに公開してユーザーがダウンロードできるようにしますか? または、Portfolioを使ってカタログに直接アクセスしますか? Portfolioからほかのユーザーにファイルを電子メールで送信しますか?

ファイルの回覧

Portfolioのユーザー間でファイルを回覧する方法は?

カスタムフィールドと事前に定義されたリストを作成し、各ユーザーが回覧したことを示すようカスタムフィールドの内容を変えますか?

スマートギャラリーを作成して、メタデータを使ってタグ付けされたファイルを表示しますか?

メタデータの格納

ファイルのメタデータの作成、記録、利用方法は?

ファイルをカタログに取り込むときにメタデータを抽出しますか? カスタムフィールドに情報を記録しますか? EXIF、IPTC、XMPメタデータがワークフローに必要ですか?

管理者の採用

ワークグループや企業の環境では、ファイル管理システムを利用するユーザーの数が多いため、統一性が大きなカギとなります。大規模な共有システムでカタログやキーワードのデータを不注意に作成すると、システム全体に悪影響を及ぼします。重要な情報の消失や入力ミスなどのために、ファイルが簡単に見つからなくなる恐れもあります。

特定のユーザーや少人数のグループだけがつねにカタログを作成し、Portfolioデータベースの情報を更新するようにすると、ファイルのカタログ化やキーワードの作成による問題の発生を最小限に抑えることができます。

使用するカタログの数

作成するカタログの数は、ワークフローや保存するデータの種類によって異なるはずです。

Portfolioカタログには、最高で250,000ファイルまで追加できます(メタデータの情報量や条件により異なります)。1つのカタログで、十分にニーズを満たすことができます。しかし、前述のように、複数のカタログにファイルをグループ化すると、高度なファイル管理が可能になり、適切なファイルを簡単に見つけることができるようになります。

Portfolioには、一度に複数のカタログを検索する機能が備わっているため、1つのカタログでアイテムが見つからなかった場合は、検索の範囲を広げて複数のカタログから検索することもできます。

アイテムのグループ化には多くの方法がありますが、それぞれのニーズに合った方法を利用してください。次に、さまざまな状況においてファイル管理を簡素化するための整理方法について説明します。

カタログの作成については「新しいカタログの作成」を参照してください。

テーマによるグループ化

重複しないようなテーマを定義できる場合は、テーマ別にした複数のカタログに、ファイルを分けて整理すると よいでしょう。

たとえば、さまざまな雑誌を印刷する出版社などでは、各雑誌に対して別々のPortfolioカタログを作成します。 結婚式と車の展示会を専門に撮影する写真家の場合は、2つの異なるカタログにそれぞれの画像を整理します。

プロセスによるグループ化

1つのワークフロー内でファイルの状態を明確に定義できる場合があります。アイテムをその状態によって区別することで、ユーザーは適切な形態のファイルにアクセスしやすくなります。

写真家の例を見てみましょう。この写真家は、多くの写真を撮影しますが、その中から少数の画像を販売用に選びます。画像を販売した後、または不必要になった場合は、その画像をコンピュータから削除し、CD-ROMにアーカイブしたいと考えています。ただし、アーカイブした後でもオリジナルのファイルがどこに保存さ

ROMにアーカイブしたいと考えています。ただし、アーカイブした後でもオリジナルのファイルがどこに保存されているかを知る方法が必要です。

まず、処理中、使用中、アーカイブという3つのカタログを作成します。撮影した写真はすべて「処理中」カタログで管理します。販売や使用の対象となるファイルは、「使用中」カタログにドラッグします。販売済みまた

は不要になった写真は、「アーカイブ」カタログに移動します。このカタログから、オリジナルのファイルをCD-ROM/DVD-ROMに書き込みます。

詳細については、「オリジナルファイルをディスクにアーカイブ」を参照してください。

ファイルタイプによるグループ化

ファイルタイプによってファイルをグループ化して、カタログに整理する方法もあります。

Portfolioでは、PDFファイルのテキストをインデックス化し、検索することができます。これは、大量のPDFファイルを所有するユーザーにとって便利な機能です。しかし、PDFを画像やプレゼンテーションなど、ほかのファイルと混ぜて整理する場合に、インデックス化されたPDFファイルを含めると、ほかのファイルを検索する処理が遅くなることがあります。このため、インデックス化されたPDFファイルを数多く持つユーザーは、PDFを整理するカタログとその他のファイルを整理するカタログを作成するとよいでしょう。

セキュリティによるグループ化

機密情報の保護は、現在のビジネスにとって非常に重要です。そこで、Portfolioカタログへのアクセスを許可されたユーザーに限ることで、重要なファイルの配布を効率よくコントロールできます。

たとえば、マーケティング部で、激しい競争を勝ち抜くための新しいキャンペーンを準備しているとします。キャンペーンの詳細が公にならないように、万全なセキュリティ対策が必要となります。すべてのパートナー会社が、現在の画像、コピー、ウェブコンテンツなどを持ち、キャンペーン準備を進めます。マーケティング部ではPortfolio Serverを使って、パスワード保護されたカタログを公開し、キャンペーン関係者のみにアクセスを許可し、その他のユーザーはカタログにアクセスできないように設定します。

詳細については、「アクセスレベルの変更」を参照してください。

ファイルの整理

Portfolioではファイルを整理する際に、使いやすいウィンドウを使用しますが、ディスク上でどのようにファイルを整理すべきか、不安を抱いているユーザーは数多くいます。そのような場合は、一貫した理解しやすい方法でファイルを整理すると、効率的なワークフローを実現できます。

すでにカタログを作成した場合、またはファイルの整理に不満がある場合でも心配する必要はありません。そのままの状態でファイルをPortfolioに取り込み、ファイルを整理してから、Portfolioでオートシンクを使ってディスクに新しいディレクトリを作成します。

ディスク上のファイルの整理

Portfolioではファイルを整理する際に、使いやすいウィンドウを使用しますが、ディスク上でどのようにファイルを整理すべきか、不安を抱いているユーザーは数多くいます。そのような場合は、一貫した理解しやすい方法でファイルを整理すると、効率的なワークフローを実現できます。

すでにカタログを作成した場合、またはファイルの整理に不満がある場合でも心配する必要はありません。そのままの状態でファイルをPortfolioに取り込み、ファイルを整理してから、Portfolioでオートシンクを使ってディスクに新しいディレクトリを作成します。

フォルダ階層の作成

Portfolioではファイルをカタログ化するときに、フォルダのパスからキーワードを直接、自動的に作成できます。つまり階層化されたフォルダの名前を、階層内の各フォルダのキーワードとして追加できます。「詳細オプション」ダイアログボックスの「プロパティ」タブで、パスとボリューム名からキーワードを作成するオプションをオンにします。「パス名からキーワードを作成」を参照してください。

この例としては、ハッチバックフォルダ内のカタログ化した画像には、「画像」、「車」、「ハッチバック」というキーワードが自動的に適用されます。ワークグループでは、このような効率的なフォルダ階層の設定が必須と言えるでしょう。

また、全ファイルを1つのルートディレクトリに整理する方法もあります。この例、「画像」ディレクトリがルートディレクトリです。このルートディレクトリに必要なだけサブディレクトリを作成し、ファイルを整理します。これは特にワークグループで使用するカタログで有効な整理方法です。

ファイルを複数のディレクトリに保存している場合は、オートシンクパレットやウインドウを使って、ファイルを整理できます。整理するディレクトリをオートシンクパレットに追加してから、Portfolioを使って新しいディレクトリを作成し、ファイルを移動して整理します。詳細は「オートシンク」を参照してください。

命名規則の作成

Portfolioでファイルをカタログ化する場合、カタログ作成オプションを使って、ディスク上のファイルの移動や 名前の変更を行うことができます。オリジナルファイルの命名方法について特定のルールを作り、それに従って 名前を付けると、ファイルを簡単に識別、検索、共有することができるようになります。

クライアント名、プロジェクト、製品番号、日付など、関連するファイルの情報をファイル名に含めるのがもっとも一般的な方法です。

次に、簡単に利用できる命名規則の例を示します。

ファイル名	ファイル名の内容
Jones_newsletter04_001.jpg	社名、プロジェクト番号、連続番号
axle_756452j_002.jpg	部品名、部品番号、連続番号
Smith_040623_066.pdf	社名、日付(YYMMDD)、連続番号

Mac、Windows、Linux、およびUnixでネットワークの互換性を維持するには、すべてのプラットフォームで使用できるファイル名を使用するとよいでしょう。

- ファイル名は32文字以内にします。
- スペースではなくアンダースコア(_)を使います。
- 日付には単純なフォーマットを使います。たとえば、2004年6月23日は、040623などになります。これで、MacintoshのFinder、Windowsのエクスプローラ、またPortfolio内でもファイルが同じ順番で表示されます。

カタログの管理

デフォルトフィールド値

デフォルト値はカタログのフィールドに指定できます。これにより、値が必要なカスタムフィールドに値が常に 格納されます。

新しいファイルをカタログ化する場合、「カタログ作成オプション」ダイアログボックスを通じて値が入力されますが、その値が設定されていないときにデフォルト値が自動的にそのアイテム用に格納されます。

たとえば、進行中のすべての作業用のPortfolioカタログがあれば、「プロジェクト進行状況」という名前のカスタムフィールドを設定できます。このカスタムフィールド用にデフォルトフィールド値を「アイデア段階」に設定します。新たにカタログ化したすべてにアイテムにこの値が設定され、この値を後で「完了」に変更するだけで済みます。

また、デフォルト値は抽出した値または手動で割り当てた値を使って上書きすることもできます。手動で割り当てた値には、カタログ作成オプションで割り当てた値またはオートシンク監視フォルダによって適用された値が含まれます。

フィールドデフォルト値を定義するには:

- 1. 「カタログ」>「カタログ管理」を選択します。
- 2. 管理パスワードを入力して、「追加」をクリックします。.
- 3. 「カタログ管理」ダイアログボックスで、「デフォルト値」タブを選択します。カタログ用のすべてのカスタムフィールドが、このタブに表示されます。
- 4. デフォルト値を設定したいカスタムフィールドを探します。フィールド名の左のボックスをチェックします。すでにデフォルト値が設定されている場合は、「編集」ボタンをクリックします。デフォルト値が設定されていない場合は、「編集」ダイアログボックスが自動的に開きます。
- 5. 「編集」ダイアログボックスは、編集しているカスタムフィールドのタイプによって異なります。複数 の値を持つフィールドの場合、1つかそれ以上のデフォルト値を追加することができ、単一値フィールド は1つのデフォルト値のみを受け入れることができます。適切なデフォルト値を入力して、「OK」をクリックします。
- 6. 必要に応じて、追加のデフォルト値を入力します。
- 7. 追加のデフォルト値を終了したら、「**OK**」をクリックします。

カタログの起動時オプションの設定

カタログ管理者は、カタログが開かれる際のさまざまなアクションについてもコントロールすることができます。

次のオプションは「カタログ管理」ダイアログボックスの「起動」タブ上で使用できます (「**カタログ」>「カタログ管理」**を選択してください)。

検索ウィンドウを開く:Portfolioの起動時に「検索」ウィンドウを自動的に開きたい場合、このオプションをオンにします。これにより、複雑な検索を即座に始めることができます。このオプションは通常、Portfolioで最初に行う操作が「検索」ダイアログボックスから検索条件を操作するような場合に便利です。

「マスターキーワードパレットを開く」:起動時にマスターキーワードパレットを開きます。これにより、ユーザーが手動でマスターキーワードパレットを開く手間が省けます。

「スライドショーを実行」: Portfolioを起動すると、フルスクリーンのスライドショーを開始し、カタログ内の全アイテムをスライドショーで表示します(指定されたスライドショーのオプションを使用します)。このオプションは、Portfolioを使用してプレゼンテーションする場合や、カタログを開いたらすぐにプレゼンテーションを

開始するように設定する場合に便利です。スライドショー機能の使用に関する詳細については、<u>「スライドショ</u>ー」を参照してください。

「スプラッシュスクリーンを表示」:独自のスプラッシュスクリーンをPortfolioカタログに追加して、カタログが開かれるたびにそのスプラッシュスクリーンを(4秒間)表示することができます。Portfolioを起動すると、標準のPortfolioスプラッシュスクリーンの直後に、カスタムのスプラッシュスクリーンが表示されます。詳細については、「カスタムのスプラッシュスクリーンを追加」を参照してください。

カスタムスのスプラッシュスクリーンを追加

独自のスプラッシュスクリーンをPortfolioカタログに追加して、カタログが開かれるたびにそのスプラッシュスクリーンを(4秒間)表示することができます。Portfolioを起動すると、標準のPortfolioスプラッシュスクリーンの直後に、カスタムのスプラッシュスクリーンが表示されます。

注意: 大きいスプラッシュスクリーンはカタログのサイズを増大させ、読み込みに時間がかかる可能性があります。スプラッシュスクリーンを必要以上に大きくしないことを推奨します。

カスタムのスプラッシュスクリーンを追加するには:

- 1. 「**カタログ」>「カタログ管理」**を選択して、「カタログ管理」ダイアログボックスを開きます。
- 2. 「起動時の動作」タブで、「スプラッシュスクリーンを表示」オプションを有効にします。
- 3. 「**開く**」 (Win) をクリックまたは「ファイルの選択」 (Mac) をクリックします。
- 4. スプラッシュスクリーンとして使用するJPEG画像のある場所に移動し、「**開く**」をクリックします。
- 5. **「OK」**をクリックします。

選択された画像がダイアログボックスの「カスタムスプラッシュスクリーン」セクションに表示されます。この画像が次回カタログが開かれたときにスプラッシュスクリーンとして使用されます。

カスタムのスプラッシュスクリーンを削除するには:

- 1. 「カタログ」>「カタログ管理」を選択して、「カタログ管理」ダイアログボックスを開きます。
- 2. 「起動時の動作」タブから、「**クリア**」をクリックします。
- 3. 「**OK**」をクリックします。

データのインポートとエクスポート

Portfolioにはデータをカタログにインポートしたり、他のアプリケーションで使用するためにカタログからデータをエクスポートしたりできる強力な機能があります。

「フィールド値のインポート」コマンドを使用すれば、他のデータベースのフィールドとPortfolioの特定のフィールドを一致させることにより、そのデータベースからPortfolioにデータをインポートすることができます。逆に、Portfolioの任意のフィールドをデータベースやスプレッドシートで使用するために、テキストファイルにエクスポートすることができます。

フィールド値のインポート

Portfolioカタログにインポートするデータベースファイルを作成するには、フィールドがタブで区切られ、各アイテムがキャリッジリターンで区切られたプレーンテキストファイルを、データベースアプリケーションからエクスポートします。

テキストファイルの最初のアイテムは、データベースフィールドヘッダーです(この最初のアイテムは「Portfolio」カタログのデータベースフィールドと一致させるために使われ、アイテムとしてはインポートされません)。

警告: インポートされるテキストファイルは、常にユニコードフォーマット(UTF-

16) で保存する必要があります。フォーマットについて詳しくない場合は、テキストエディタ(メモ帳、TextEdit、ワードパッドなど)でファイルを開いて、ユニコードUTF-16フォーマットでファイルを保存してださい。

インポートを開始する前に、Portfolioにはあらかじめ必要なカスタムフィールドが設定されている必要があります。カスタムフィールドが設定されていないと、そのフィールドにはデータはインポートされません。

フィールド値をインポートするには:

- 1. インポートを行うデータの保存に必要なカタログのカスタムフィールドが設定されていることを確認します。カスタムフィールドの作成についての詳細は、カスタムフィールドを参照してください。
- 2. インポートするデータが、上で記述したように各フィールドの値がタブで区切られ、各アイテムが改行で区切られたプレーンテキストファイルであることを確認します。
- 3. 「ファイル」>「フィールド値のインポート」を選択して、インポートを行うテキストファイルを指定 します。
 - 「フィールド値のインポート」ダイアログボックスで、「インポートファイルのフィールド」の見出しの下の左側の列にテキストファイルからのフィールドへッダーが表示されます。
- 4. テキストファイルの各フィールドヘッダーを、右側の列に一覧表示されているPortfolioカタログの適切なフィールド名に一致させます。ファイルのフィールドとPortfolioのフィールドを上下に動かして、フィールドの相対的な位置の順序を合わせます。左右の列の間をクリックして、「インポート」メニューをアクティブにします。これにより、各フィールドに対して適切なインポート演算子(キー、インポート、またはスキップ)を選択することができます。演算子の機能は以下のとおりです。
 - キー(=) はキーの関係を定義します。Portfolioカタログの対応するフィールドの値と一致する値が、インポートされるデータの選択されたフィールドで検索されます。インポートで、指定できるキーの関係は1つだけです。
 - インポート (--
 - >) は、テキストファイルのフィールドが矢印の右側にあるカタログのフィールドにインポートされることを示します。
 - **スキップ**(**x**) は、テキストファイルのフィールドがカタログにはインポートされないことを示します。
- 5. インポートフィールドの設定が完了したら、将来使用するためにその設定を保存できます。設定を保存するには、「**保存済みセット**」のドロップダウンメニューから「**別名で保存**」を選択します。
- 6. データベースをインポートする準備ができたら、「**インポート**」をクリックします。

Portfolioはテキストファイルの2番目のアイテムの各フィールドの値を(1番目のアイテムはフィールドヘッダーなので、2番目のアイテムが実際のデータを持つ最初のアイテム)、インポートの最初で指定された対応するPort folioの各フィールドタイプの値と比較して、適切なデータタイプであるかどうかをチェックします。値が適切なデータタイプでない場合は警告が表示され、インポートをキャンセルすることができます。

すべてのタイプが一致すれば、Portfolioはデータをインポートします。インポートの処理中、対応するPortfolioのフィールドタイプに一致しないフィールドのデータはスキップされます。

複数の値を入力できるフィールドのデータも置換する

「フィールド値のインポート」ダイアログボックスで、このチェックボックスがオンになっている場合は、複数の値を持つフィールドにインポートされた値は、Portfolioのアイテムの値を上書きします。このチェックボックスがオフになっている場合は、インポートされた値はPortfolioのアイテムリストの末尾に追加されます。

テキストファイルのインポートに関する技術的な注意事項

インポートされるファイルはフィールドがタブで区切られ、アイテムがキャリッジリターンで区切られたテキストファイルなので、インポートするデータのフィールド内にこれらの文字が含まれていないことを確認してください。もし、それらの文字がフィールド内に含まれていると、インポートは予期しない結果となります。

PortfolioはASCII標準に従っており、ASCII 11を垂直タブとして認識します。この文字はフィールド内での改行を表すために使用します((たとえば、「説明」フィールドのようなテキストブロックで使用)。Portfolioはまた、ASCII 29をグループ分離文字として認識します。この文字は複数の値を持つフィールド(たとえば、「キーワード」フィールド)内で、値を区切るために使用します。複数行または複数の値を持つデータを他のデータベースからエクスポートする場合は、必ずこれらの文字を使用してください。複数の値または複数行をもつフィールドをサポートしているデータベースには、これらの標準をサポートしているものもあります(たとえば、FileMaker Proなど)。

データのテキストファイルへのエクスポート

Portfolioカタログのデータを、エクスポートするフィールドとスキップするフィールドを指定して、テキストファイルにエクスポートすることができます。アクティブなギャラリーで選択されたアイテムのデータのみがエクスポートされます。

カタログのフィールドをテキストとしてエクスポートするには:

- 1. ギャラリーでテキストデータのエクスポートを行うアイテムを選択します。
- 2. 「ファイル」>「フィールド値のエクスポート」を選択します。
- 3. 「カタログのフィールド」リストの左端の列をクリックして、各フィールドのエクスポートを有効にするか無効にするかを設定します。チェックされているフィールドがエクスポートされます。
- 4. 「**エクスポート**」をクリックします。
- 5. エクスポートするファイルの名前を入力して保存場所を指定し、「OK」をクリックします。Portfolioは選択された各アイテムの情報を含む、タブで区切られたテキストファイルをエクスポートします。このファイルは、アイテム内の各フィールドがタブで区切られ、各アイテムがキャリッジリターンで区切られたテキストファイルです。

テキストファイルのエクスポートに関する技術的な注意事項

エクスポートされるファイルはフィールドがタブで区切られ、アイテムがキャリッジリターンで区切られたテキストファイルなので、もしこれらの文字がフィールド内にあるとファイルを適切にフォーマットできません。したがって、Portfolioではこれらの文字をフィールド内で使用することはできません。

PortfolioはASCII標準に従っており、ASCII 11を垂直タブとして使用します。この文字はフィールド内での改行を表すために使用します(たとえば、「説明」フィールドのようなテキストブロックで使用)。Portfolioはまた、ASCII 29をグループ分離文字として使用します。この文字は複数の値を持つフィールド(たとえば、「キーワード」フィールド)内で、値を区切るために使用します。複数の値または複数行をもつフィールドデータのテキストファイルへのエクスポートをサポートしているデータベースには、これらの標準をサポートしているものもあります(たとえば、FileMaker Proなど)。

破損したカタログの修復

Portfolioカタログを開けず、カタログが破損した可能性がある場合は、「**修復**」コマンドを使って修復することができます。

特定のフィールドをソートまたは検索してクラッシュした場合に「修復」コマンドを起動します。

カタログを修復するには:

- 1. Portfolio Server Admin Webインターフェースを使用して、カタログをオフラインにしてください。
- 2. カタログのFDB ファイルのローカルコピーを作成します。
- 3. マシーン上でPortfolioデスクトップクライアントをローカルで使用して、「カタログ」 >「修復」を選択します。ディレクトリダイアログボックスが表示されます。
- 4. 修復するカタログを探して、「開く」をクリックします。
- 5. 修復されたカタログの新しい名前を入力し、保存場所を選択して、「**保存」**をクリックします。Portfolio がカタログをチェックし、損傷の修復を試みている間、進行状況ウインドウが表示されます。修復され たカタログをPortfolio Serverのデフォルトカタログの場所に戻すことができます。
- 6. 完了状況レポートが表示されたら、「**OK**」をクリックします。修復されたカタログを開いて、すべてのアイテムが損なわれていないことを確認します。
- 7. Portfolio Server Admin Webインターフェースを使用して、カタログを再度使用できるようにします。

公開されたカタログの管理

Portfolioデスクトップクライアントから管理者モードでカタログを開く場合、そのカタログを他のユーザーがアクセスすることはできません。

Portfolio Server上では、カタログは他のユーザーと同時共有されていますが、これは、カタログを管理者モードで使用している間は他のユーザーがそのカタログにアクセスできないことを意味します。カタログを管理者として開くと、他のすべてのユーザーはロックアウトされます。

他のユーザーがカタログを開いているときに、管理者モードに切り替えると、他のユーザーは即座にログオフされます。これを避けるには、「サーバーの設定」ダイアログボックスのオプションを使って、他のユーザーに(カタログを閉じて)自分自身でログオフするまでの時間を与えるか、彼らがログオフされるまでに一定の時間を与えるかのいずれかを行います。

不注意からユーザーがログオフされるのを避けるために、公開されたカタログは、たとえ「環境設定」ダイアログボックスで「デフォルトのアクセスモード」を管理者に設定していたとしても、管理者モードで開くことはできません。この場合、カタログはデフォルトで、発行者モードで開かれます。カタログを開いた後、ユーザーに警告して管理者モードに切り替えることができます(「カタログ」>「アクセス権のレベル」を選択)。

カタログを管理者モードで開いている間は、カタログがたとえ公開状態にあったとしても、そのカタログは他のユーザーの「サーバーへの接続」ダイアログボックスには表示されません。そのカタログを他のユーザーに公開するには、そのカタログを閉じるか、または違うアクセスモード(発行者、編集者、閲覧者)に切り替えます。

Portfolio Server上でのカタログの設定に関する詳細については、『Portfolio Serverユーザーガイド』を参照してください。

スクリプトを使ったPortfolioの自動化

Portfolioは、MacintoshのAppleScriptや、OLE オートメーションにアクセスするために使用可能な Visual Basic、Visual C++、Java、その他のスクリプト言語による多彩なスクリプト処理をサポートします。

上記のタイプの有効なスクリプトがPortfolioアプリケーションと同じフォルダ内の「スクリプト」という名前のフォルダに置いてある場合のみ、Portfolioの「スクリプト」メニューが表示されます。「スクリプト」フォルダ内にあるスクリプトとアプリケーションは、新しい「スクリプト」メニューに追加され、通常のメニューコマンドとして使用できます。「スクリプト」メニューは、スクリプトが「スクリプト」フォルダに追加されるまで表示されません。

「スクリプト」フォルダ内のMacintoshスクリプトファイルはAppleScriptファイルである必要があります。Windowsスクリプトファイルはコンパイル済みのEXEまたはCMDファイルでなければ、「スクリプト」メニューに含まれません。

環境設定

ダブルクリック設定

ギャラリーカタログでアイテムをダブルクリックしたときの動作設定を選択することができます。デフォルト設定を選択すると、「アイテムのプロパティ」を表示、オリジナルファイルを編集、または「画面プレビュー画像」を表示することができます。

ダブルクリックの設定を変更するには:

- 1. 「編集」>「環境設定」(Win)を選択、または「Portfolio」>「環境設定」(Mac)を選択します。
- 2. 「環境設定」ダイアログボックスの「一般」タブで、「**ダブルクリック時の動作」**のドロップダウンボックスから適切な設定を選択します。

ツールバーをカスタマイズ

ツールバーに表示するボタンを変更することができます。

ツールバーをカスタマイズするには:

- 1. 「表示」>「ツールバーをカスタマイズ」を選択します。
- 2. Macintoshでは、ツールバーにまたはツールバーから直接、ボタンアイコンをクリックしてドラッグします。

Windowsでは、リストから希望のボタンアイコンを選択して「追加」および「削除」ボタンをクリックします。

3. 「閉じる」(Win)をクリックまたは「終了」(Mac)をクリックします。

デフォルトのアクセスモードの設定

「Portfolio環境設定」ダイアログボックスを使用して、Portfolioのユーザーコピーを4つのアクセスレベルモード (閲覧者、編集者、発行者、管理者) のどれを使用してカタログを開くかを設定をします。

デフォルトのアクセスモードを設定するには:

- 1. 「編集」>「環境設定」(Win)を選択、または「Portfolio」>「環境設定」(Mac)を選択します。
- 「環境設定」ダイアログボックスの「一般」タブから、ドロップダウンメニューの「デフォルトのカタログアクセスモード」を選択します。

「環境設定」ダイアログボックス

「Portfolio環境設定」ダイアログボックスを開くには:

- Windowsの場合は、「編集」>「環境設定」を選択します。
- Macの場合は、「Portfolio」>「環境設定」を選択します。

「環境設定」ダイアログボックス - 一般

これらのオプションは、主に、Portfolioが行うサムネールの表示、カタログ化されたアイテムのプレビューおよび現行ユーザー名の表示方法に関連するものです。

デフォルトのアクセスモード

この「ドロップダウン」ボックスを使用して、Portfolioのユーザーコピーに対して4つのアクセスレベルモード(閲覧者、編集者、発行者、管理者)のどれを使用してカタログを開くかを設定します。

「画像寸法」

画像寸法を表示するための測定単位を選択します。これはギャラリーおよびプレビューウインドウの表示に適用されます。

「アイテムをダブルクリック」

このオプションにより、サムネールをダブルクリックしたときのPortfolioの動作を定義できます。

Portfolioに以下の動作を設定できます:

- 「アイテムのプロパティ」ダイアログボックスを開きます。
- アイテムのプレビューを開きます。
- 編集用にオリジナルのアイテムを開きます(ファイルの オリジナルアプリケーションを使用)

「プレビュー時にムービーおよびサウンドファイルを自動再生」

選択すると、プレビューウインドウでムービーおよびサウンドファイルが自動再生されます。 「再生」ボタンを クリックする必要はありません。

「サムネールに複数ページアイコンを表示」

選択すると、複数ページのPDF、Photoshop®、PowerPoint®およびTIFFファイルの右下隅に小さな複数ページアイコンが追加されます。

「サムネールに部分的カタログ化のアイコンを表示」

これを有効にすると、Portfolioは部分的にカタログ化された各サムネールのアイテムの下に、小さなアイコンを表示します。このアイコンは、アイテムが完全にカタログ化されたときに削除されます。

「環境設定」ダイアログボックス - 「カタログ作成」タブ

カタログ作成オプションの案内なし

「環境設定」ダイアログボックスの「カタログ作成」タブで、「**カタログ作成オプションなし」**オプションを選択すると、いつでも「カタログ作成オプション」ウインドウを隠しておくことができます。

「ただし、以下のことを設定どおりに行う」セクションにある3つのオプションにより、「カタログ作成オプション」ダイアログボックスが隠れたままに設定されている場合、どのカタログ作成オプションを実行し、どのカタログ作成オプションを無視するかを指定できます。

カタログ作成時に誤ってファイルの移動または名前変更を行わないように、これらのオプションをオフにすることもできます。たとえば、「アイテムの名前変更」オプションをオフにすると、「カタログ作成オプション」ダイアログボックスを表示して名前を変更する方法を設定しない限り、Portfolioはカタログの作成時にファイルの名前を変更しません。

Extensis社について

連絡先

Extensis

1800 SW First Avenue Suite 500

Portland, OR 97201

電話 (無料): (800) 796-9798

電話: (503) 274-2020 Fax: (503) 274-0530

Web: http://www.extensis.com

Extensis ヨーロッパ

Suites 17 &18, Newton House Northampton Science Park Kings Park Road, Moulton Park Northampton NN3 6LG United Kingdom

電話: +44 (0) 1604 654 270 Fax: +44 (0) 1604 654 268 Email: info@extensis.co.uk

カスタマーサービス

Web: http://www.extensis.com/customerservice//
パッケージ内の案内をご覧ください。

ドキュメントについてのお問い合わせ

Web: http://www.extensis.com/helpfeedback/

もしくは国内販売代理店までお問い合わせください。

技術サポート

技術サポートにご連絡いただく場合は、次の情報をご用意ください。

- お客様のシリアル番号
- お客様のコンピュータの設定(オペレーティングシステム、メモリ、ハードディスクドライブ、コンフィギュレーションなど)
- ご質問、または問題の説明(何がどういうときに起こったのかを具体的に)
- 電話番号(担当者からお客様への電話を希望される場合)

さらに、表示されたエラー番号またはメッセージおよび、関連するかもしれないと思われるその他の情報を書き留めておいてください。

よくある質問とその答え、トラブルシューティングのヒントについては、次のアドレスからExtensisのWebサイトをご利用ください。http://www.extensis.com/

電話によるサポート

北米では、(503) 274-7030にご連絡ください。

ヨーロッパでは、+44 (0) 1604-654-270にご連絡ください。

日本国内では、製品パッケージに同梱されている案内をご覧ください。

索引

Α

AppleScript, 100

D

drag & drop, 46

Ε

Express, 88, 89, 90 Extensisのお問い合わせ先, 103

F

Finder, 63 Finderで表示, 63, 90 FTP, 82

Н

HTML, 83

ı

IPTC, 24

J

Java, 100

M

Macintosh Finder, 63 metadata, 24

0

OLE自動化, 100

Ρ

PixelLive, 42 PixelSafe, 42 placeholder, 20

Portfolio Express, 88, 89, 90

Portfolio Server, 100

Portfolio ブラウザ, 77

Portfolioのインストール, 10

Portfolioの自動化, 100

Q

QuickFind, 47

QuickTime, 85, 87

٧

Visual Basic, 100 Visual C++, 100

W

Webページ, 77, 78, 79, 80, 82,

Webページテンプレート, 81

Webページの作成, 77, 78, 79, 80, 81, 82

welcome, 7

Windowsエクスプローラ, 63

ア

アーカイブ,75

アイテムのグループ化,93

アイテムのプレビュー,40

アイテムのプロパティ, 40

アイテム表示, 33,65

アクセスモード, 101

アクセスレベル, 13

アクセスレベル1.14

1

インスタントカタログ, 15

インデックス化, 21 インポート, 39, 66, 97

I

エクスプローラ,63

エクスプローラで表示,90

エクスポート, 38, 66, 97, 99

才

オートシンク, 15, 58, 59, 61, 94 オリジナルの表示. 90

オリジナルファイル, 41, 46

カ

カスタマーサービス, 103

カスタムサムネールフレームの

作成, 35

カスタムの並べ替え順序,30

カスタムフィールド, 68, 69, 70 カスタム表示, 35, 37, 38

カタログ, 13, 15, 93, 99

カタログプロパティ, 13

カタログを開く,89

カタログ作成, 15, 22, 24, 102

カタログ作成オプション, 17,

18, 19, 102

カタログ作成のオプション, 21

カタログ管理,96

カテゴリー, 71, 72, 73

キ

キーワード, 21, 53, 64, 65, 66,

67, 68

キーワードの編集,64

キーワードの追加, 17, 70

ギ

ギャラリー, 26, 28, 29, 30, 31, 34 ギャラリーのコピー, 30 ギャラリーへのアイテムの追加, 28

ギャラリーを開く,30

ク

クイック検索, 47,89

\exists

コピー, 81 コンタクトシート, 57

サ

サーバーから提供されるカタログ,13 サーバーに接続,13 サイトロゴ,79 サウンドファイル,102 サポート,103 サムネール,22,35,37,43,46,102 サムネールを再作成,46

シ

システム要件,9

サムネール表示.33

ス

スクリプト, 100 スプラッシュスクリーン, 97

す

すべてのアイテムギャラリー, 27

ス

スマートギャラリー, 31 スライドショー, 85, 86, 87, 96

セ

セールス,103

ソ

ソースコード,82

ダ

ダブルクリック設定,101

ツ

ツールバー, 101

デ

ディスクへの書き込み, 75, 76, 82

テ

テキスト, 69 テキストファイル, 99 テキストブロック, 69

デ

デフォルトのアクセスモード, 101, 102 デフォルトの保存済み検索, 52 デフォルトの検索, 52

テ

テンプレート, 81 テンプレートをコピー. 81

ŀ,

ドキュメントテキスト,21

ドラッグ& ドロップ, 70 ドラッグ&ドロップ, 15, 45, 64

パ

パーソナルWeb共有,83

は

はじめに,9

パ

パス, 21, 46 パスの変更, 46 パレット, 53

フ

ファイルの収集, 77 ファイルの整理, 94 ファイルの移動, 17, 41, 61, 87, 102 ファイルの除外, 23 ファイルの電子メールによる送信, 74 フィールド値, 70, 97 フィールド値の割り当て, 70 フィールド値の編集, 65, 70 フォルダの同期, 62 フォルダパレット, 58, 60, 61 フォルダ階層, 94 フッター, 79

ファイルのコピー, 17, 41

プ

プリセット, 18 プリント, 56, 57 プリンント, 57

フ

フレーム, 35, 37

プ

プロパティ, 25, 40, 64 プロパティの書き込み, 25

^

ヘッダー, 79

木

ホームページ, 79 ホットキー, 90

マ

マスターキーワード, 53, 65, 66, 67, 96 マニュアルへのご意見, 103

X

メインウィンドウ, 11 メタデータ, 23, 24, 25 メタデータのマッピング, 24 メタデータの埋め込み, 25 メタデータの抽出, 24, 25 メタデータリスト, 24 メタデータ設定, 24 メタデータ設定のマッピング, 23

ュ

ユーザーインターフェイス, 10 ユーザー名, 102

IJ

リスト表示,33

ワ

ワークグループ, 92 ワークフロー, 92

_

一時, 28, 29 一時ギャラリー, 28

並

並べ替え,29 並べ替える,29

仮

仮レコード, 20,54

企

企業セールス, 103

保

保存済みの検索方法, 52 保存済みの表示, 37, 38, 39

修

修復,99

公

公開されたカタログ,100

再

再表示,81

別

別のファイルに再リンク」,44

削

削除, 16, 29, 30, 38, 41, 52, 60, 65, 67, 70, 72

効

効率的なワークフロー,92

名

名前の変更, 67 名前変更, 18, 30, 38, 44

命

命名規則,95

商

商標, 2

回転,43

小

小数,69

技

技術サポート, 103

数

数值,69

新

新しいカテゴリー,72 新しいギャラリー,28 新しい機能,8 新機能,8

日

日付,69

時

時刻,69

更

更新, 23, 24, 45, 46

書

書類のテキスト,54

最

最終カタログ登録日,26

検

検索, 47, 48, 49, 50, 52, 53, 54, 55, 89

検索結果, 26, 48, 53

横

横のアイテム,56

消

消失ファイル,55

環

環境設定, 102

画

画像サイズ,56

画像のバッチ変換,42

画像変換,42

発

発行, 75

発行者, 13

監

監視フォルダ, 58, 59, 60, 61

破

破損したカタログ,99

移

移動,72

管

管理者, 13

統

統計, 13

編

編集者, 13

置

置換,70

自

自動起動,90

著

著作権, 2

表

表示, 33, 34, 38

複

複数のカタログ,53

要

要件,9

設

設定, 101

詳

詳細オプション, 21, 22, 23, 24

詳細規定,2

説

説明の追加, 17

起

起動時, 30, 96

追

追加,70

部

部分的カタログ化のアイコン, 102

閲

閲覧者, 13

除

除外する単語リスト,21

陛

階層化されたフォルダ,94

隠

隠す,19

電

電話番号, 103

非

非表示,81

高

高速カタログ作成,16